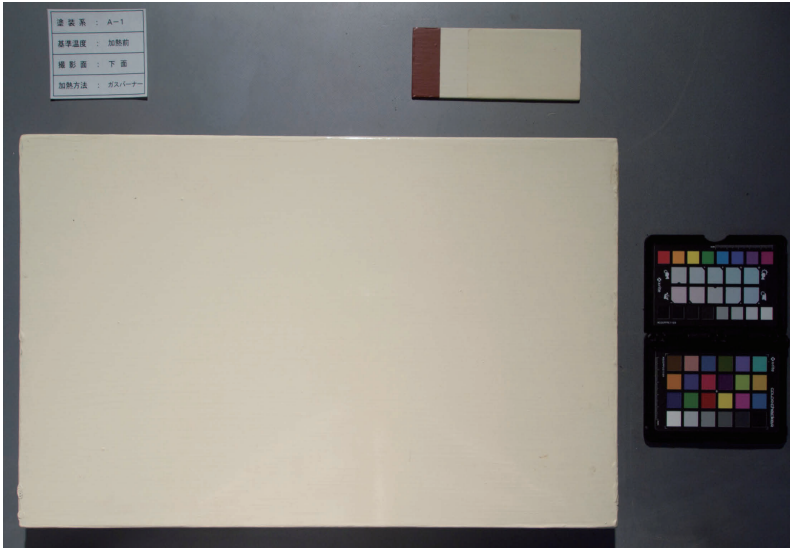


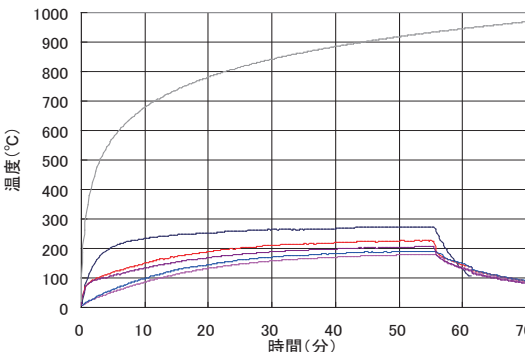
付属資料 3. 鋼部材の被災温度推定用塗膜損傷見本集（案）

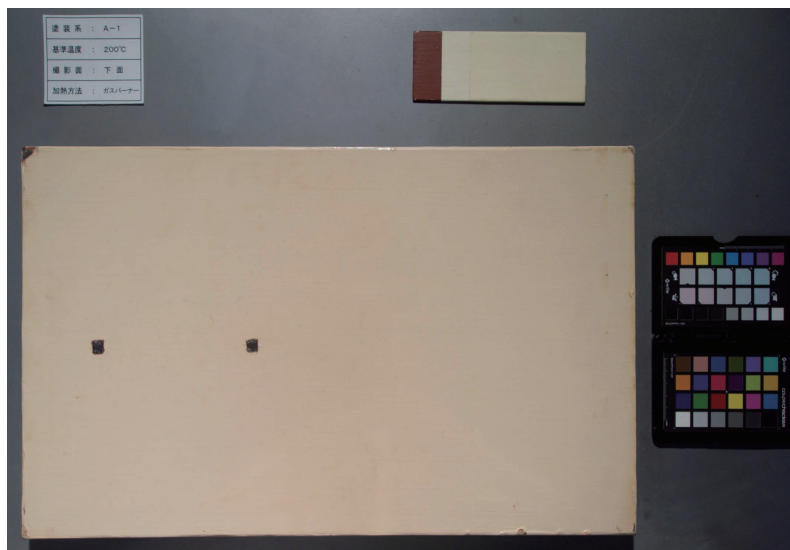
3. 1 鋼板供試体

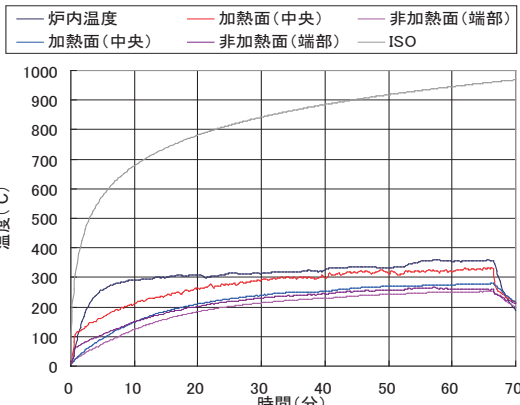
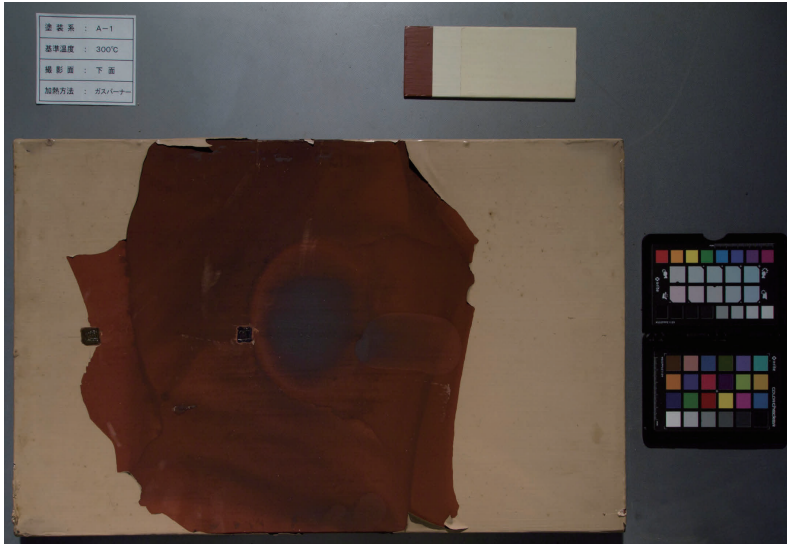
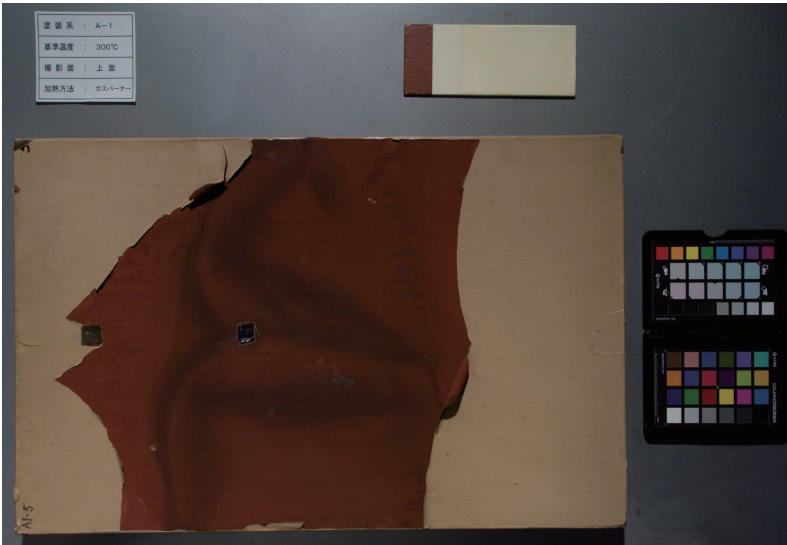
（1） 開放型ガス炉加熱試験（温度パラメータ）

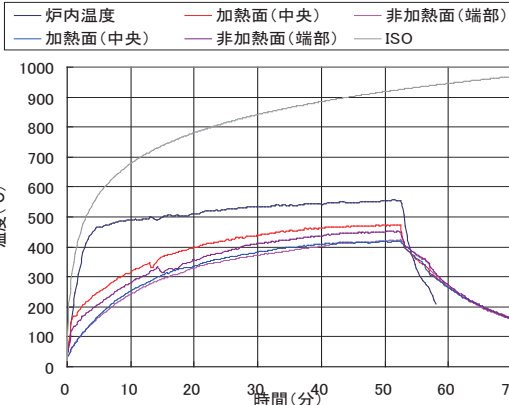
A-1, A-2, B-1, C-1 および C-5 塗装系の各鋼板供試体に対して、開放型ガス炉加熱試験を実施した結果を次頁以降に示す。なお、見本集の測定膜厚は、下層からの累積値である。

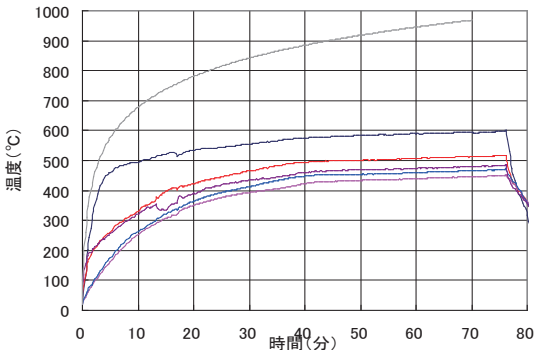
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]		
供試体種類		A-1塗装系		基準温度	加熱前	
供試体寸法		300 × 500 × 9mm		【鋼板の測定温度】		
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚			
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	31 μ m			
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	96 μ m			
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	140 μ m			
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	199 μ m			
乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露						
試験後の 膜厚測定結果			加熱面			非加熱面
		※下層からの累積値				
試験後の塗膜損傷状況						
【 加熱面 】			【 塗膜の変状 】			
						
【 非加熱面 】			【 塗膜の変状 】			
						

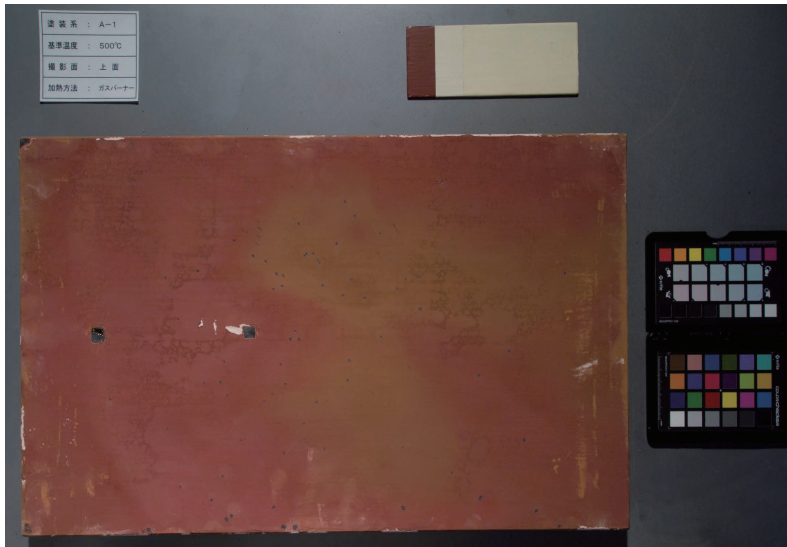
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		A-1塗装系		基準温度	200℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 	
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	33 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	98 μm		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	140 μm		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	196 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		上塗り	188 μm	183 μm	
※下層からの累積値					

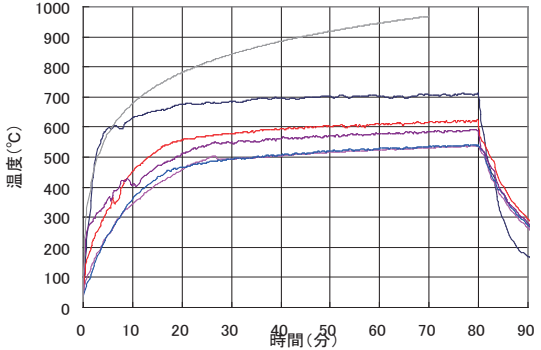
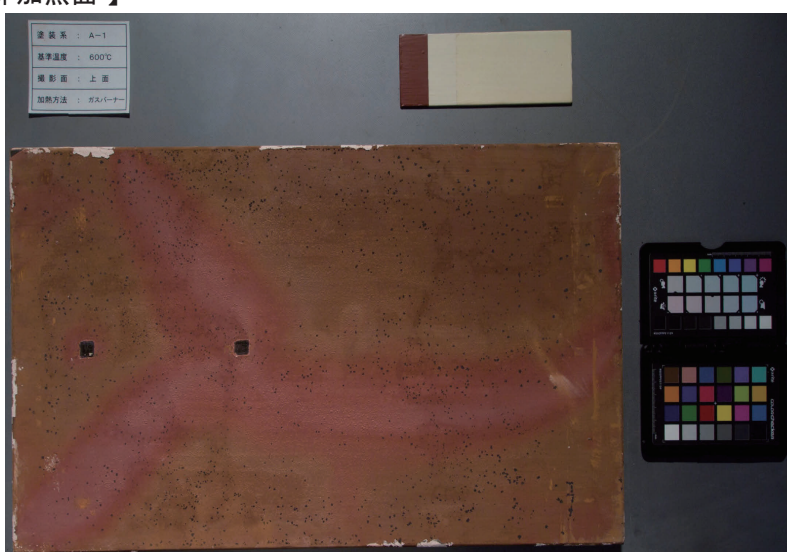
試験後の塗膜損傷状況	
【加熱面】	【塗膜の変状】
	・ 上塗りがやや黒く変色している。 注: 黒の四角い2点は、熱電対設置跡である。 (以下同じ。)
【非加熱面】	【塗膜の変状】
	・ 上塗りがやや黒く変色している。 ・ 加熱面の変色性状と同様である。

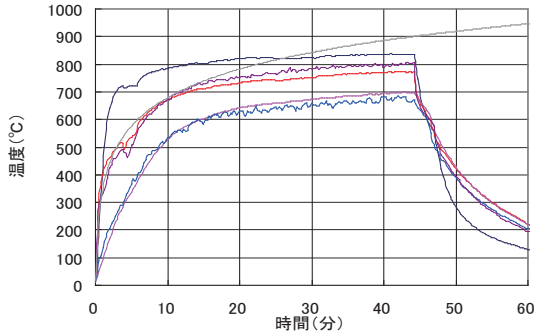
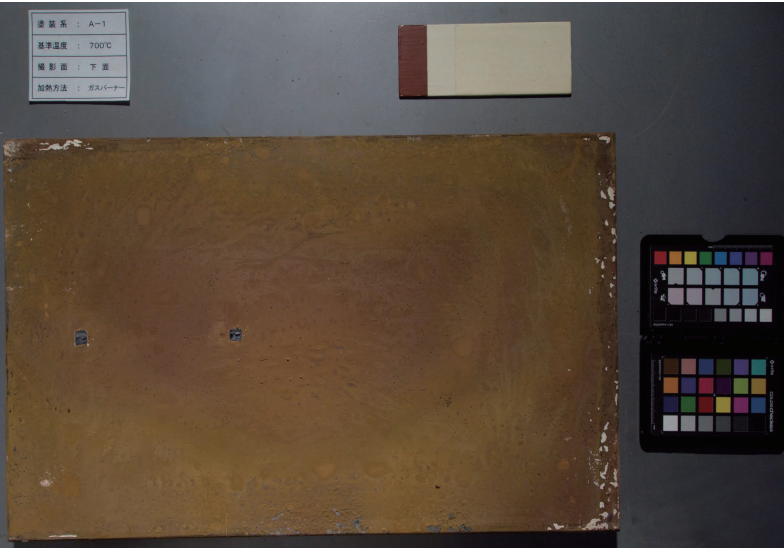
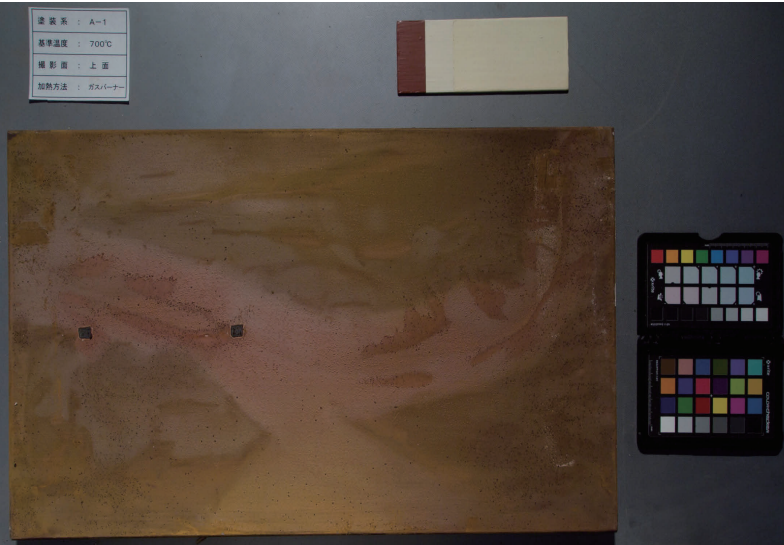
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		A-1塗装系		基準温度	300℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚		
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	34 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	96 μm		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	144 μm		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	195 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		上塗り	150 μm	158 μm	
		下塗り(2)	62 μm	59 μm	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【加熱面】				【塗膜の変状】	
				・ 端部付近では、上塗りが200℃よりも黒く変色した状態となっており、小さなふくれがみられる。 ・ 中央部では、上塗りが炭化し、はがれが生じている。 ・ 下塗りはほとんど変色していない。	
【非加熱面】				【塗膜の変状】	
				・ 中央部で上塗りにふくれが生じ、ふくれの範囲が大きくなって、やがてわれに至った。 ・ 端部付近では、上塗りが200℃よりも黒く変色した状態となっており、小さなふくれがみられる。 ・ 下塗りはほとんど変色していない。	

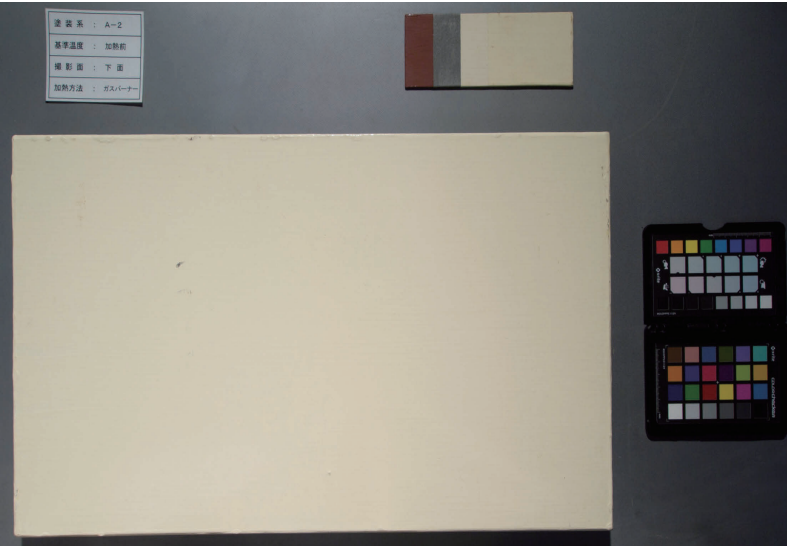
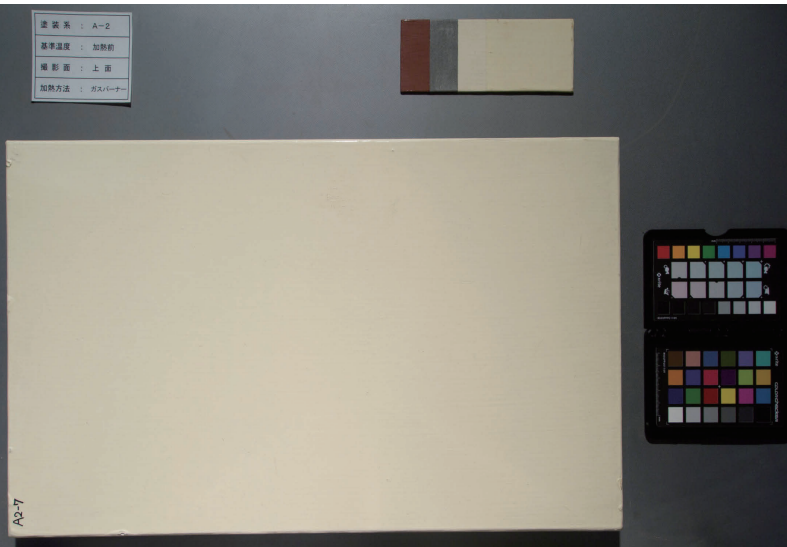
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]		
供試体種類		A-1塗装系		基準温度	400℃	
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】		
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚			
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	23 μm			
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	102 μm			
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	145 μm			
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	201 μm			
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果		加熱面	非加熱面			
		下塗り(2)	67 μm	82 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【加熱面】				【塗膜の変状】		
				- 上塗りは炭化した後、はがれて炉内に落下した。 - 下塗りが淡い色に変色している。 - 端部には、上塗りの炭化部(黒色部)がわずかに残っている。		
【非加熱面】				【塗膜の変状】		
				- 上塗りが炭化し、灰となって上面に残存した。 - 下塗りが、淡い色に変色している。		

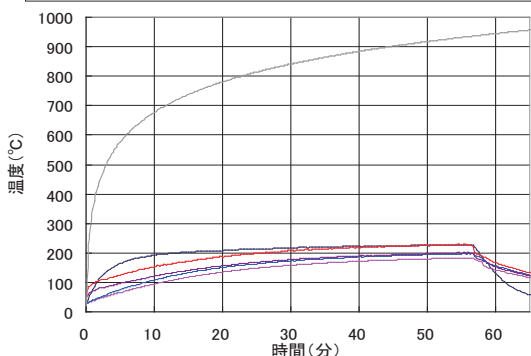
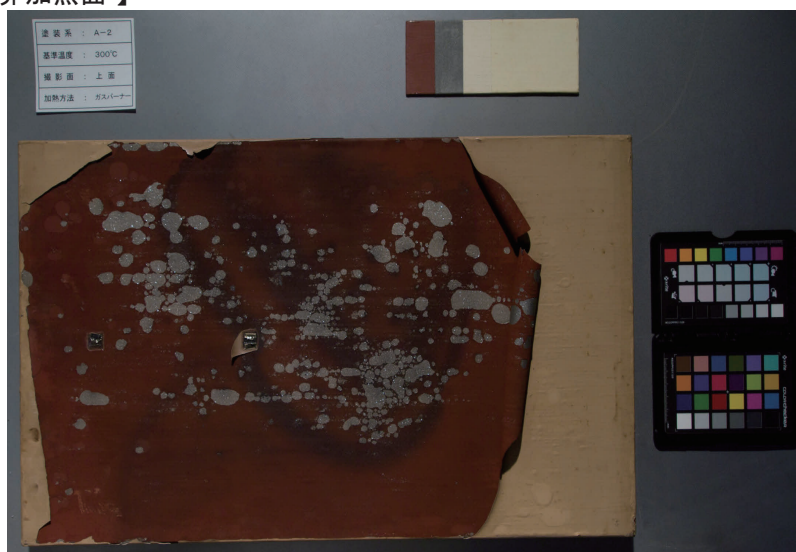
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		A-1塗装系		基準温度	500℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面（中央） — 非加熱面（端部） — 加熱面（中央） — 非加熱面（端部） — ISO 	
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	33 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	92 μm		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	131 μm		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	195 μm		
	乾燥条件：塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		下塗り(2)	67 μm	73 μm	
※下層からの累積値					

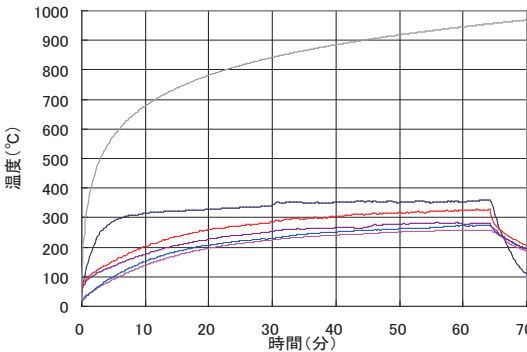
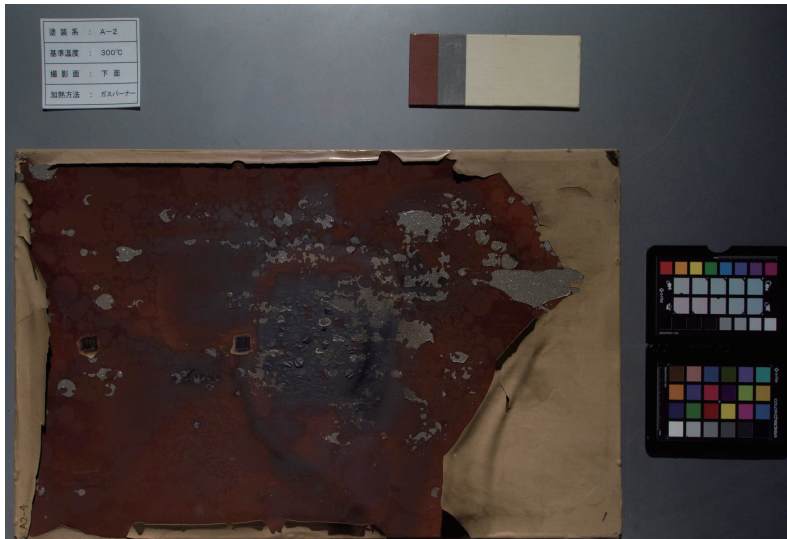
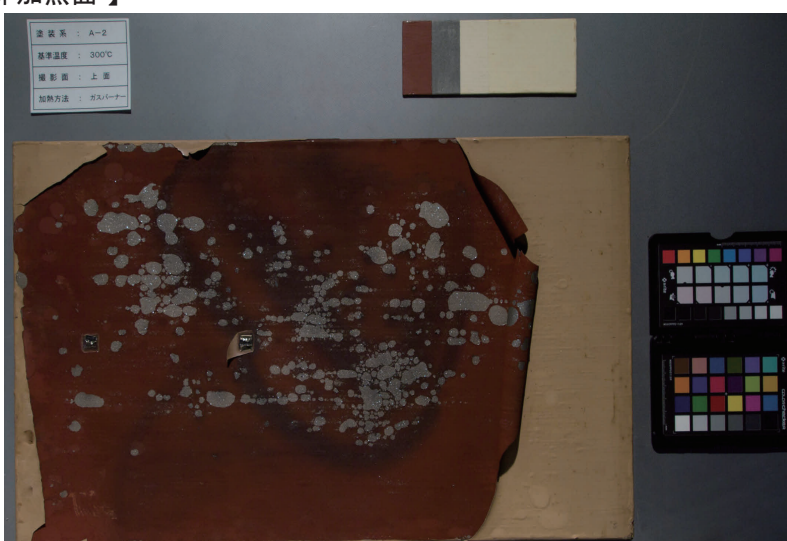
試験後の塗膜損傷状況					
【 加熱面 】			【 塗膜の変状 】		
			・ 400℃の燃焼状況とほとんど変わらない。 ・ なお、下塗りが400℃よりもやや白みを帯びた変色となっている。		
【 非加熱面 】			【 塗膜の変状 】		
			・ 400℃の燃焼状況とほとんど変わらない。 ・ なお、下塗りが緑がかった変色をしている箇所がみられる。		

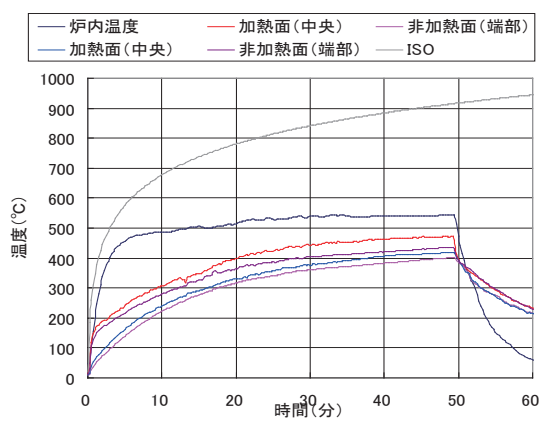
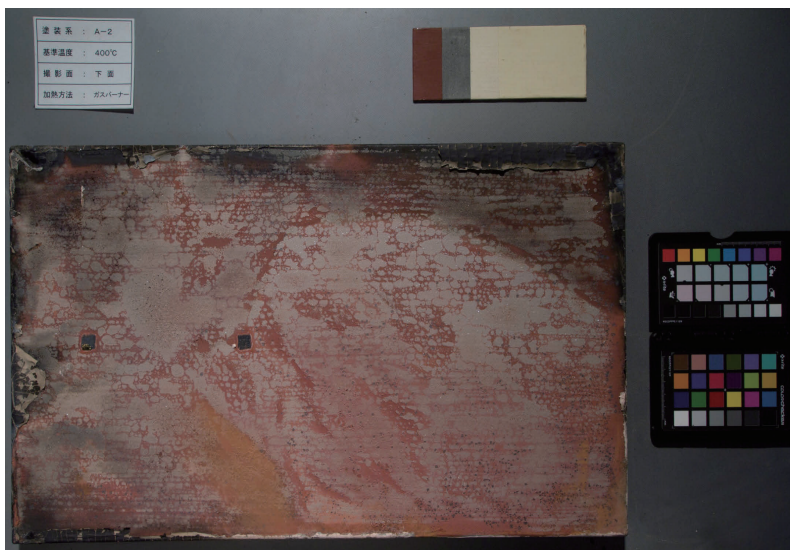
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		A-1塗装系		基準温度	600℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 	
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	23 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	90 μm		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	136 μm		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	191 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		上塗り付着部	184 μm		
		下塗り(2)	72 μm	74 μm	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【加熱面】				【塗膜の変状】	
				- 下塗りが、500℃の変色状況から、さらに白みを帯びた変色となっている。 - 灰化した上塗り部が、端部に付着している。	
【非加熱面】				【塗膜の変状】	
				- 下塗りが500℃の変色状況から、緑がかった変色となっている箇所が多くなっている。 - 灰化した上塗りの塗膜片が残存している箇所、この緑がかった変色が生じている。 - 変色の状況は、加熱面と異なる色調である。	

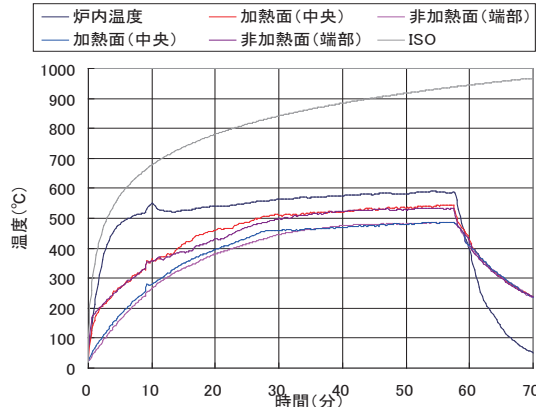
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]		
供試体種類		A-1塗装系		基準温度	700℃	
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】		
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 		
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	33 μm			
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	95 μm			
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	138 μm			
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	202 μm			
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果		加熱面	非加熱面			
		下塗り(2)	73 μm	97 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【加熱面】				【塗膜の変状】		
				・ 下塗りが緑がかった色に変色している。		
【非加熱面】				【塗膜の変状】		
				・ 600℃の変色状況と比べ、下塗りがさらに緑がかった色に変色している。 ・ 変色の状況は、加熱面と類似している。		

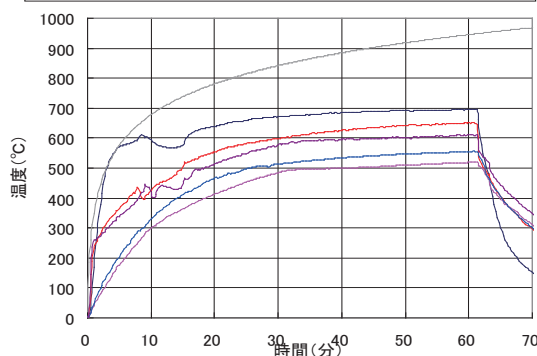
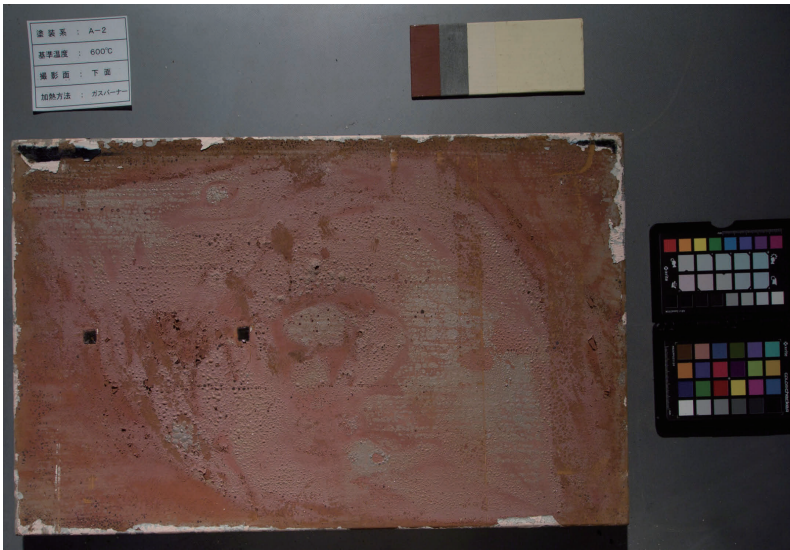
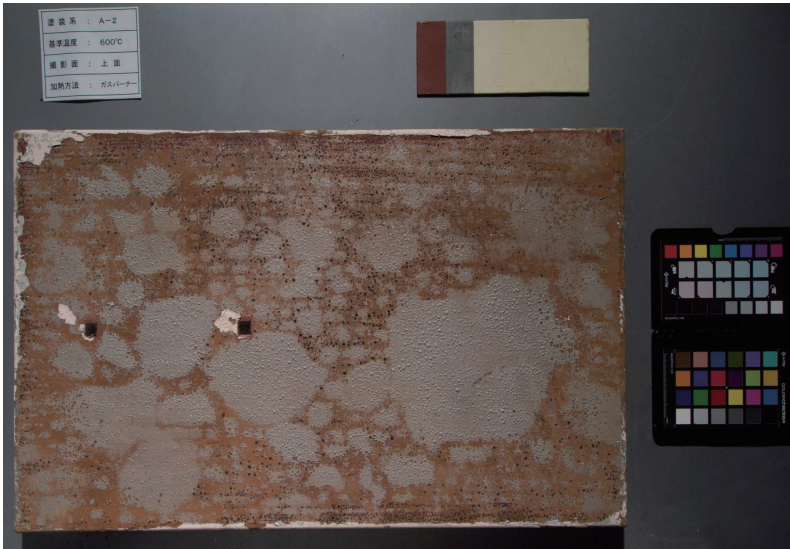
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		A-2塗装系		基準温度	加熱前
供試体寸法		300 × 500 × 9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚		
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	31 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	90 μm		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	186 μm		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	225 μm		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	276 μm		
乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の 膜厚測定結果			加熱面		
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【 加熱面 】			【 塗膜の変状 】		
					
【 非加熱面 】			【 塗膜の変状 】		
					

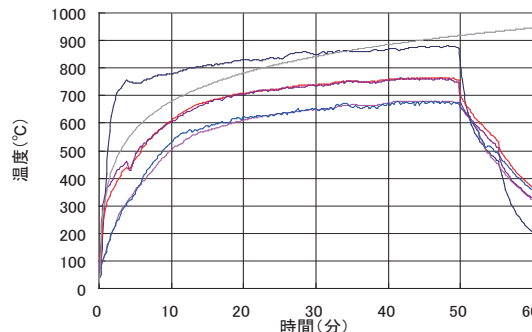
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]		
供試体種類		A-2塗装系		基準温度	200℃	
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】		
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 		
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	38 μm			
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	102 μm			
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	198 μm			
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	234 μm			
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	288 μm			
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果		加熱面	非加熱面			
		上塗り(2)	258 μm	259 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【加熱面】				【塗膜の変状】		
				・ 上塗りがやや黒く変色している。		
【非加熱面】				【塗膜の変状】		
				・ 上塗りがやや黒く変色している。 ・ 加熱面の変色状況と同様である。		

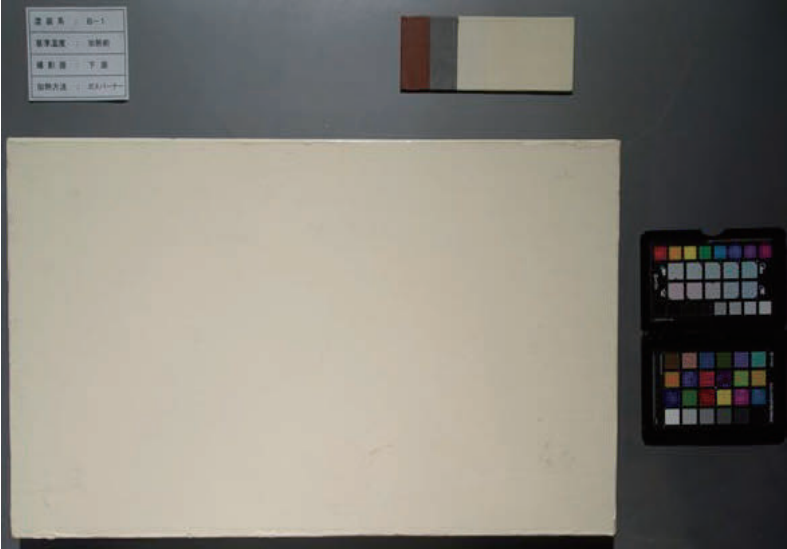
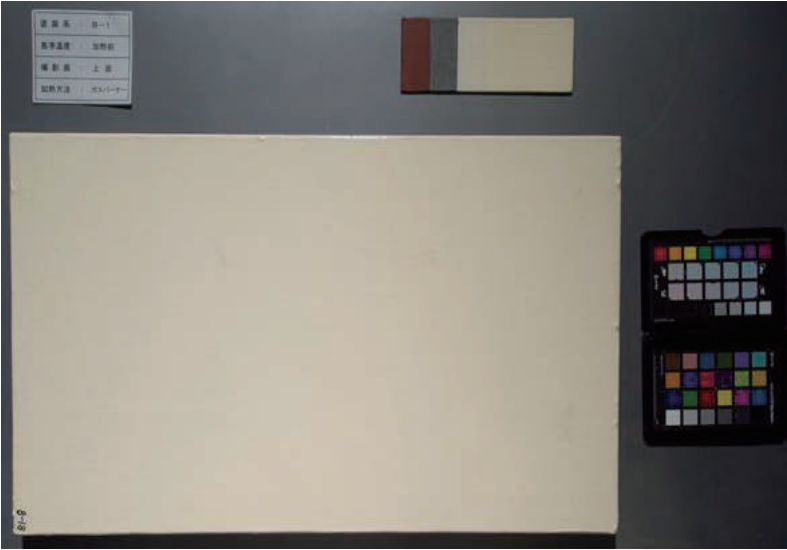
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		A-2塗装系		基準温度	300℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 	
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	29 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	87 μm		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	180 μm		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	210 μm		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	266 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		上塗り	250 μm	234 μm	
		下塗り(3)	145 μm	122 μm	
		下塗り(2)	53 μm	67 μm	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【加熱面】				【塗膜の変状】	
				- 上塗りは、「われ」が生じた後、はがれている。 - MIO塗料の大部分は、上塗りとともににはく離しているものの、下塗りに付着している箇所もある。 - 熱源直上の下塗りは、黒く変色している。	
【非加熱面】				【塗膜の変状】	
				- われが生じた箇所の上塗りがはく離している。 - MIO塗料の大部分は、上塗りとともににはく離しているものの、下塗りに付着している箇所もある。 - 加熱面の塗膜損傷状況と同様である。	

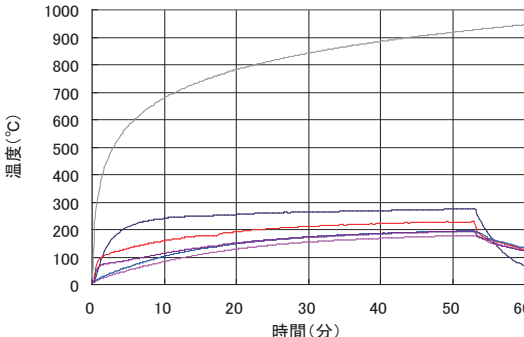
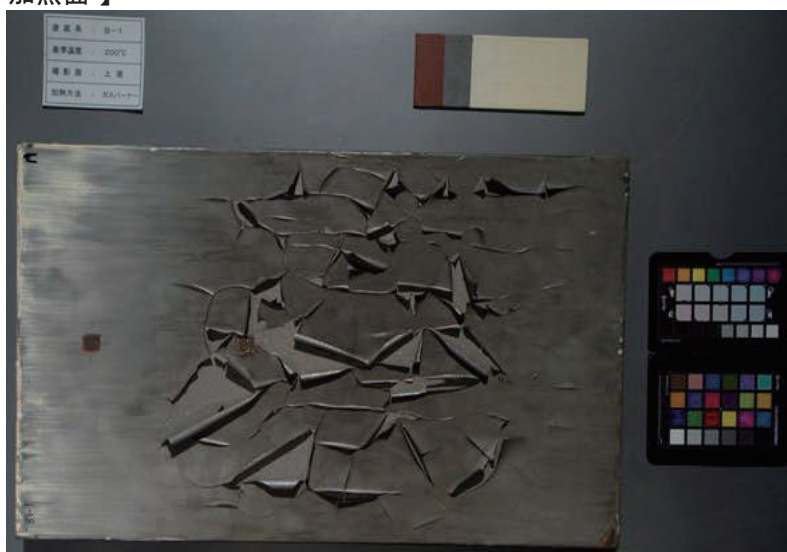
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		A-2塗装系		基準温度	400℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚		
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	35 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	95 μm		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	191 μm		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	232 μm		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	283 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		下塗り(3)	88 μm	99 μm	
		下塗り(2)	59 μm	48 μm	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【加熱面】				【塗膜の変状】	
				- 下塗りの広範囲に、MIO塗料が付着している。 - 下塗りが淡い色に変色している。	
【非加熱面】				【塗膜の変状】	
				- 下塗りの広範囲に、MIO塗料が付着している。 - 黒くなっている箇所は、上塗りが炭化して残っていた箇所である。	

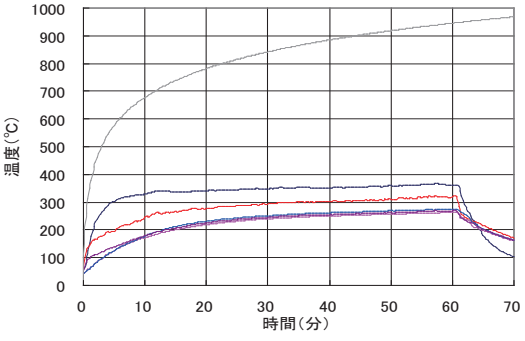
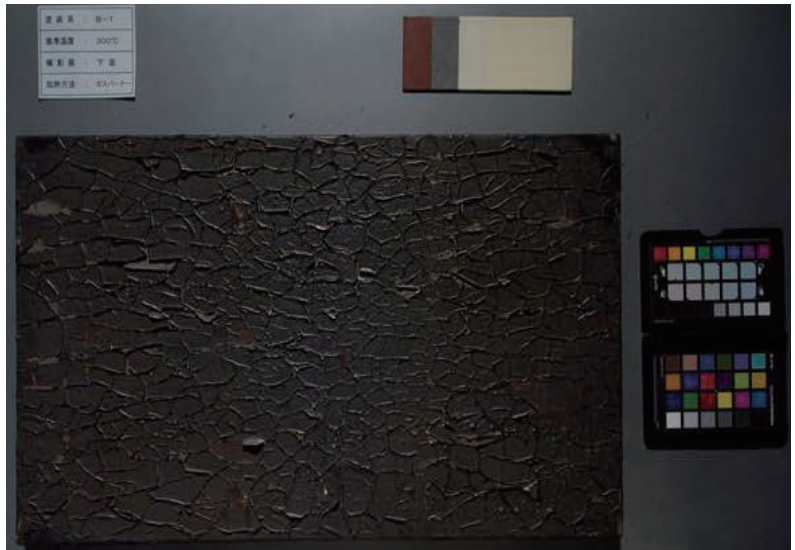
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]		
供試体種類		A-2塗装系		基準温度	500℃	
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】		
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚			
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	26 μm			
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	91 μm			
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	183 μm			
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	230 μm			
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	275 μm			
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果		加熱面	非加熱面			
		下塗り(3)	95 μm	88 μm		
		下塗り(2)	38 μm	47 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【加熱面】				【塗膜の変状】		
				400℃の場合と比較して、MIO塗料の付着部分の色が薄くなっている。 - 全体的な変色状況はA-1塗装系の場合と同様である。		
【非加熱面】				【塗膜の変状】		
				400℃の場合と比較して、黒色部がなくなっている。 - MIO塗料が付着して銀色となっている箇所と、下塗りの赤みが残っている箇所、そして、下塗りが緑がかった色へと変色している箇所がある。		

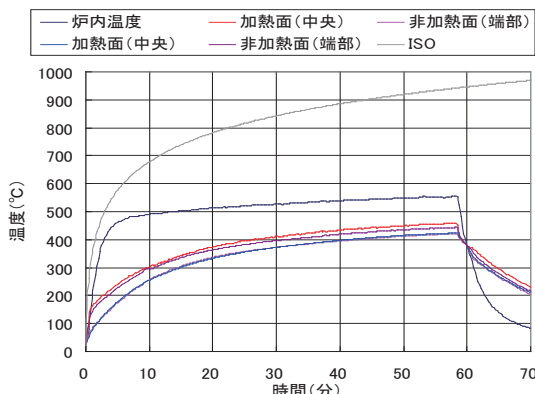
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]		
供試体種類		A-2塗装系		基準温度	600℃	
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】		
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 		
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	27 μm			
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	86 μm			
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	184 μm			
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	224 μm			
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	274 μm			
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果		加熱面	非加熱面			
		下塗り(3)	107 μm	94 μm		
		下塗り(2)	38 μm	39 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【加熱面】				【塗膜の変状】		
				500℃の状態から大きな変化は見られない。 - 全体的な変色状況はA-1塗装系の場合と同様である。		
【非加熱面】				【塗膜の変状】		
				500℃の状態と比較して、下塗りの赤みが残っていた箇所がなくなっている。 - 熱源側の状況と比較して、MIO塗料が多く付着している。		

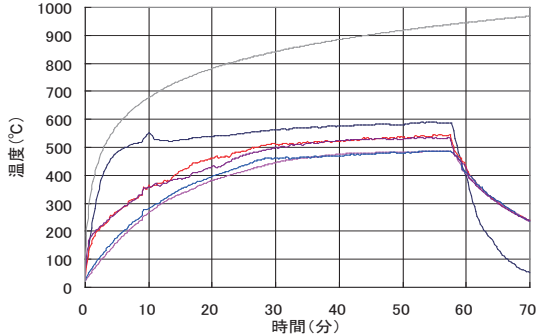
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		A-2塗装系		基準温度	700℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 	
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	30 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	88 μm		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	183 μm		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	218 μm		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	272 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		上塗り付着部		228 μm	
		下塗り(3)		99 μm	
		下塗り(2)	77 μm	35 μm	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【加熱面】				【塗膜の変状】	
				- A-1塗装系の場合と同様、下塗りが緑がかった色に変色している。 - MIO塗料が付着して銀色であった箇所がなくなっている。	
【非加熱面】				【塗膜の変状】	
				- A-1塗装系の場合と同様、下塗りが緑がかった色に変色している。 - MIO塗料が付着して銀色であった箇所がなくなっている。 - 上塗りが灰化して灰白色となった部分が付着している箇所がある。	

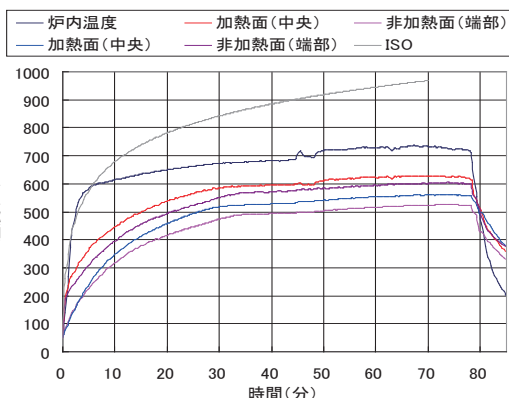
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		B-1塗装系		基準温度	加熱前
供試体寸法		300 × 500 × 9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚		
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	30 μ m		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	88 μ m		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	176 μ m		
	中塗り	塩化ゴム系塗料中塗	219 μ m		
	上塗り	塩化ゴム系塗料上塗	282 μ m		
乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の 膜厚測定結果 ※下層からの累積値			加熱面		
試験後の塗膜損傷状況					
【 加熱面 】			【 塗膜の変状 】		
					
【 非加熱面 】			【 塗膜の変状 】		
					

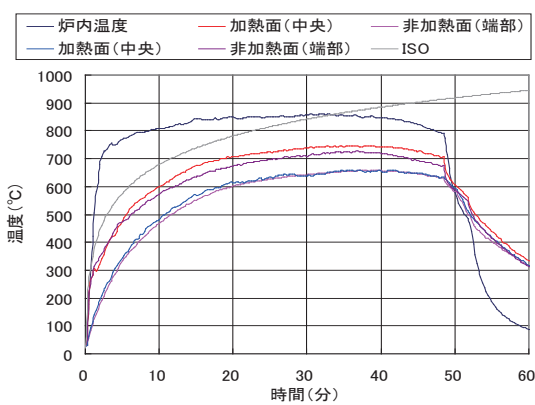
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]		
供試体種類		B-1塗装系		基準温度	200℃	
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】		
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 		
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	26 μm			
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	84 μm			
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	167 μm			
	中塗り	塩化ゴム系塗料中塗	222 μm			
	上塗り	塩化ゴム系塗料上塗	270 μm			
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果		加熱面	非加熱面			
		上塗り	247 μm	263 μm		
		下塗り(3)	123 μm	118 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【 加熱面 】				【 塗膜の変状 】		
				- 上塗りが黒く変色して、小さな「われ」が生じ、上・中塗りがMIO塗料からめくれるようにはがれている。 - はがれ箇所から露出しているMIO塗料に、変状はみられない。 - A塗装系とは明らかに異なる塗膜損傷状況である。		
【 非加熱面 】				【 塗膜の変状 】		
				- 上塗りが黒く変色して、小さな「われ」が生じ、上・中塗りがMIO塗料からめくれるようにはがれている。 - はがれ箇所から露出しているMIO塗料に、変状はみられない。 - 加熱面よりわれの生じている範囲は狭い。		

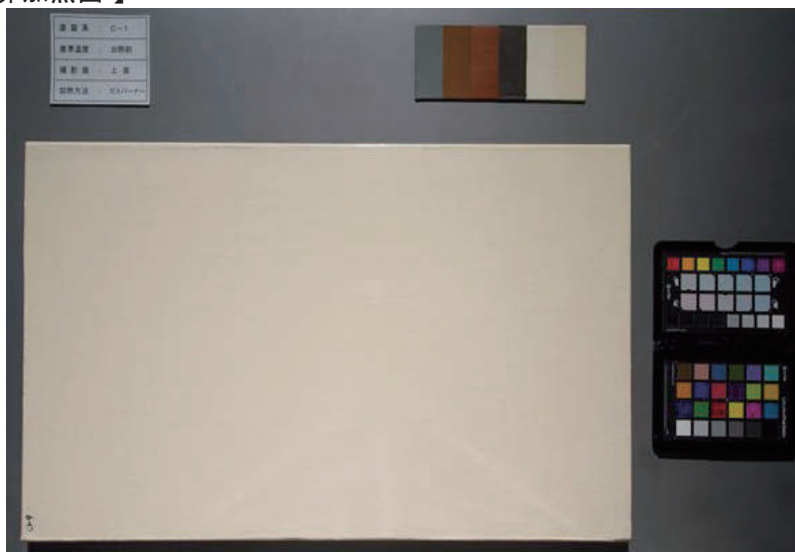
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]		
供試体種類		B-1塗装系		基準温度	300℃	
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】		
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 		
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	29 μm			
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	86 μm			
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	171 μm			
	中塗り	塩化ゴム系塗料中塗	208 μm			
	上塗り	塩化ゴム系塗料上塗	272 μm			
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果		加熱面	非加熱面			
		上塗り	350 μm			388 μm
		下塗り(3)	81 μm			115 μm
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【 加熱面 】				【 塗膜の変状 】		
				上塗りが完全に炭化して黒くなっており、小さな「われ」が無数に生じている。		
【 非加熱面 】				【 塗膜の変状 】		
				- 上塗りが完全に炭化して黒くなっており、小さな「われ」が無数に生じている。 - 塗膜の損傷状況は、加熱面の状況と同様である。		

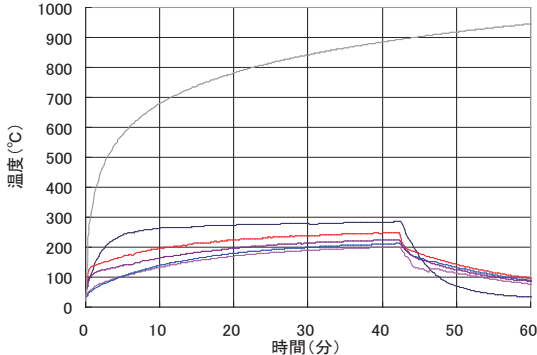
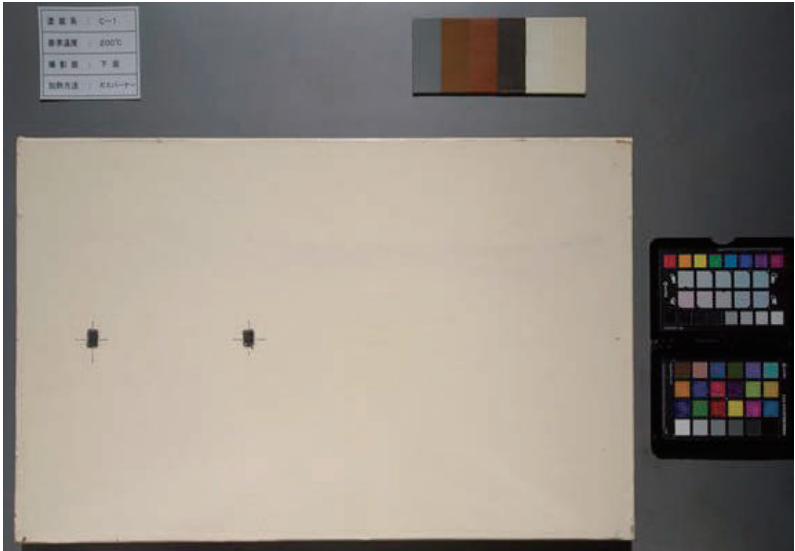
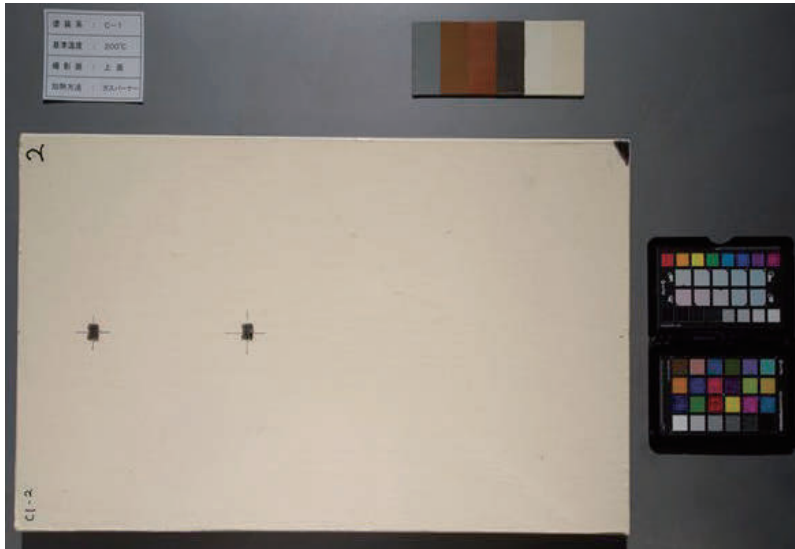
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]		
供試体種類		B-1塗装系		基準温度	400℃	
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】		
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚			
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	27 μm			
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	83 μm			
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	182 μm			
	中塗り	塩化ゴム系塗料中塗	218 μm			
	上塗り	塩化ゴム系塗料上塗	271 μm			
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果		加熱面	非加熱面			
		上塗り	317 μm	338 μm		
		下塗り(2)	54 μm	54 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【加熱面】				【塗膜の変状】		
				300℃の状況から上塗りの灰化が進行して、灰白色に変色している。 - A塗装系と異なり、上塗りは灰化して下塗りに付着している。		
【非加熱面】				【塗膜の変状】		
				300℃の状況から上塗りの灰化が進行して、灰白色に変色している。 - A塗装系と異なり、上塗りは灰化して下塗りに付着している。 - 加熱面と同様である。		

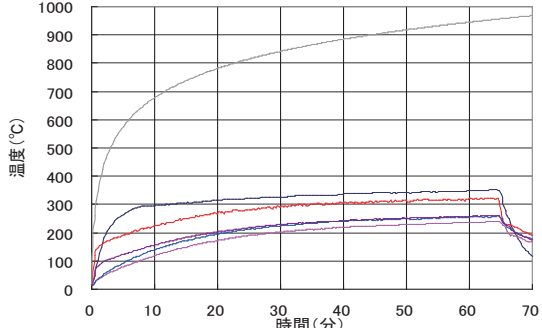
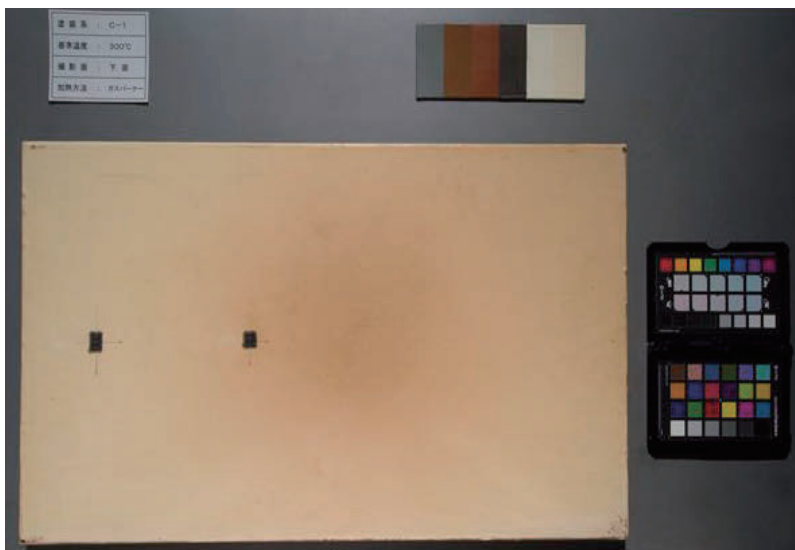
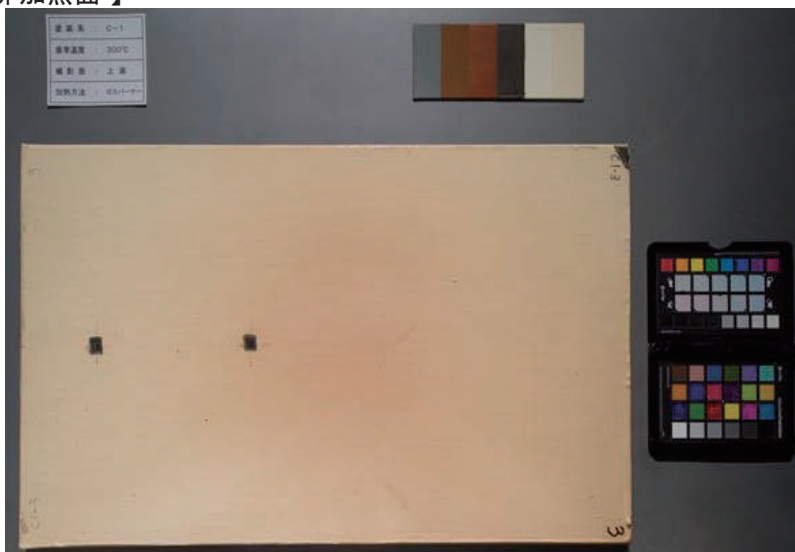
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		B-1塗装系		基準温度	500℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 	
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	30 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	84 μm		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	184 μm		
	中塗り	塩化ゴム系塗料中塗	207 μm		
	上塗り	塩化ゴム系塗料上塗	277 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		上塗り	307 μm	287 μm	
		下塗り(3)	110 μm	125 μm	
		下塗り(2)	83 μm	104 μm	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【 加熱面 】				【塗膜の変状】	
				- 上塗りが灰化して白色になっており、灰化のほとんどが下塗りに付着している。 - 上塗りがはがれた箇所ではMIO塗料の銀色部が多く見られる。	
【 非加熱面 】				【塗膜の変状】	
				- 上塗りが灰化して白色になっており、灰化のほとんどが下塗りに付着している。 - 加熱面に比べて、上塗りがはがれている面積が大きい。 - 上塗りがはがれた箇所ではMIO塗料の銀色部が多く見られる。	

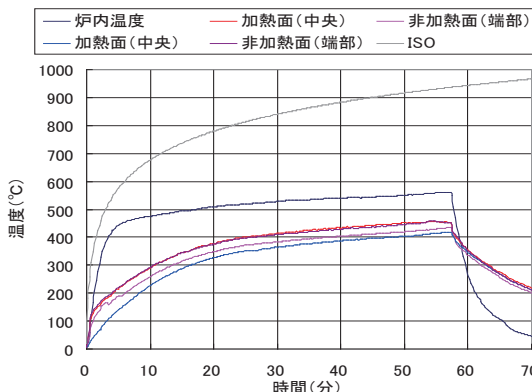
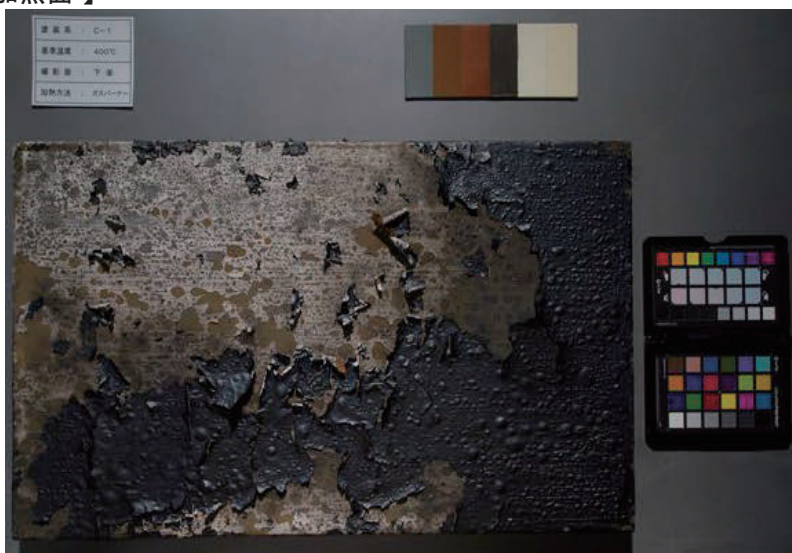
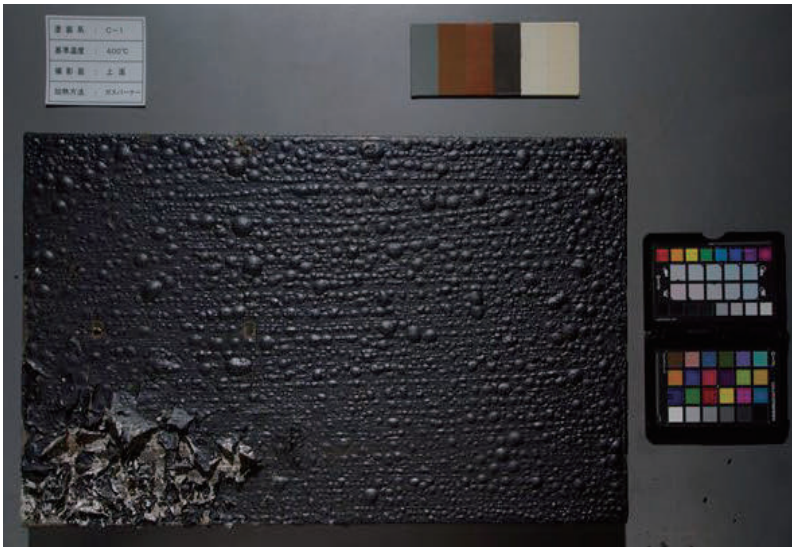
被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔開放型ガス炉加熱試験〕		
供試体種類		B-1塗装系		基準温度	600℃	
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】		
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚			
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	30 μm			
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	92 μm			
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	186 μm			
	中塗り	塩化ゴム系塗料中塗	224 μm			
	上塗り	塩化ゴム系塗料上塗	284 μm			
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果		加熱面	非加熱面			
		上塗り	313 μm	286 μm		
		下塗り(3)	143 μm	130 μm		
※下層からの累積値		下塗り(2)	88 μm	96 μm		
試験後の塗膜損傷状況						
【加熱面】				【塗膜の変状】		
				- 上塗りがはがれている面積が、500℃の場合よりも大きい。 - 上塗りののはく離箇所は、500℃と比較してMIO塗料の銀色部が少ない。		
【非加熱面】				【塗膜の変状】		
				- 加熱面に比べて、上塗りがはがれている面積が大きい。 - 上塗りがはがれた箇所では、MIO塗料が付着している箇所が500℃の場合より少ない。		

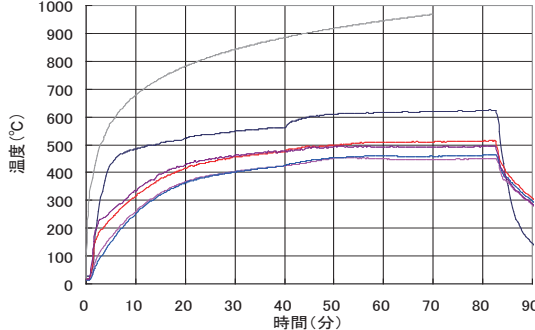
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]		
供試体種類		B-1塗装系		基準温度	700℃	
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】		
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚			
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	31 μm			
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	92 μm			
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	176 μm			
	中塗り	塩化ゴム系塗料中塗	237 μm			
	上塗り	塩化ゴム系塗料上塗	304 μm			
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果		加熱面	非加熱面			
		上塗り	264 μm	297 μm		
		下塗り(3)		149 μm		
※下層からの累積値		下塗り(2)	79 μm	70 μm		
試験後の塗膜損傷状況						
【加熱面】				【塗膜の変状】		
				・ 白色化した上塗りがほとんどはがれている。 ・ 上塗りがはがれた箇所には、焦げ付いたような跡が見られる。 ・ A塗装系と同様に、下塗りが緑がかった色に変色している。		
【非加熱面】				【塗膜の変状】		
				・ 上塗りの付着状況は、600℃の場合と変わらない。 ・ A塗装系と同様に、下塗りが緑がかった色に変色している。		

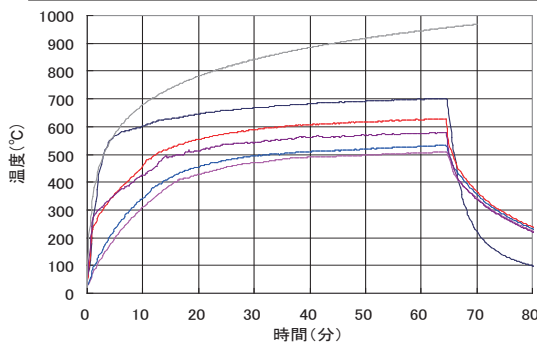
被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔 開放型ガス炉加熱試験 〕	
供試体種類		C-1 塗装系		基準温度	加熱前
供試体寸法		300 × 500 × 9mm		【 鋼板の測定温度 】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚		
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	75 μ m		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	エポキシ樹脂塗料下塗	194 μ m		
	下塗り(3)	エポキシ樹脂MIO塗料	261 μ m		
	中塗り	ポリウレタン樹脂塗料用中塗	326 μ m		
	上塗り	ポリウレタン樹脂塗料用上塗	373 μ m		
	乾燥条件：塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【 加熱面 】				【 塗膜の変状 】	
					
【 非加熱面 】				【 塗膜の変状 】	
					

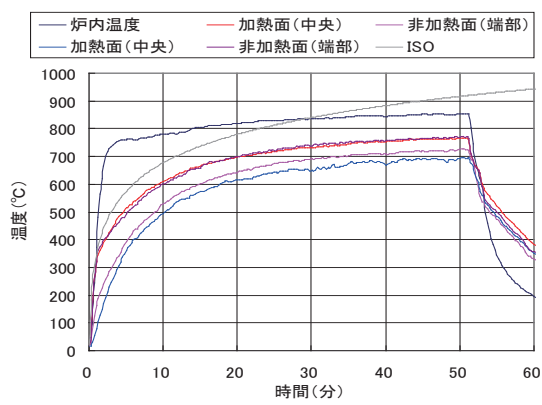
被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔開放型ガス炉加熱試験〕	
供試体種類		C-1塗装系		基準温度	200℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 	
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	79 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	エポキシ樹脂塗料下塗	210 μm		
	下塗り(3)	エポキシ樹脂MIO塗料	278 μm		
	中塗り	ポリウレタン樹脂塗料用中塗	354 μm		
	上塗り	ポリウレタン樹脂塗料用上塗	400 μm		
乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		上塗り	307 μm	358 μm	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【加熱面】				【塗膜の変状】	
				・ 上塗りの変色は見られない。	
【非加熱面】				【塗膜の変状】	
				・ 上塗りの変色は見られない。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]		
供試体種類		C-1塗装系		基準温度	300℃	
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】		
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 		
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	71 μm			
	ミストコート		—			
	下塗り(2)	エポキシ樹脂塗料下塗	182 μm			
	下塗り(3)	エポキシ樹脂MIO塗料	247 μm			
	中塗り	ポリウレタン樹脂塗料用中塗	298 μm			
	上塗り	ポリウレタン樹脂塗料用上塗	338 μm			
乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露						
試験後の膜厚測定結果		加熱面	非加熱面			
		上塗り	326 μm	304 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【 加熱面 】				【塗膜の変状】		
				・ 上塗りが濃い色に変色している。		
【 非加熱面 】				【塗膜の変状】		
				・ 上塗りが濃い色に変色している。		

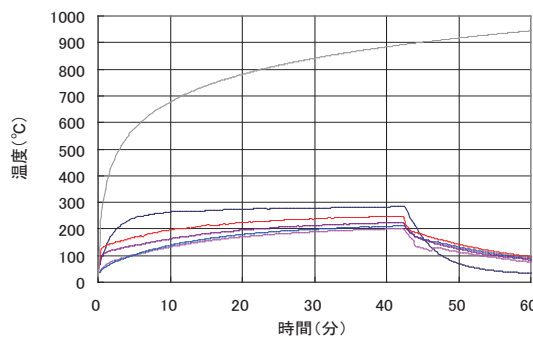
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		C-1塗装系		基準温度	400℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚		
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	73 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	エポキシ樹脂塗料下塗	181 μm		
	下塗り(3)	エポキシ樹脂MIO塗料	249 μm		
	中塗り	ポリウレタン樹脂塗料用中塗	320 μm		
	上塗り	ポリウレタン樹脂塗料用上塗	370 μm		
乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		上塗り	262 μm	288 μm	
		下塗り(3)	162 μm		
※下層からの累積値		下塗り(2)	66 μm	70 μm	
試験後の塗膜損傷状況					
【 加熱面 】					
				- 上塗りが炭化して黒く変色している。 - 炭化した上塗りのうち半分がはがれ落ちており、上塗りがはがれた箇所では、MIO塗料が見られる。 - 上塗りがはがれずに残っている箇所では、小さな膨れが数多く発生している。	
【 非加熱面 】					
				【塗膜の変状】 - 上塗りが炭化して黒く変色している。 - 上塗りがはがれずに残っている箇所では、小さな膨れが数多く発生している。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		C-1塗装系		基準温度	500℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 	
	下塗り(1)	無機ジंकリッチペイント	72 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	エポキシ樹脂塗料下塗	184 μm		
	下塗り(3)	エポキシ樹脂MIO塗料	251 μm		
	中塗り	ポリウレタン樹脂塗料用中塗	314 μm		
	上塗り	ポリウレタン樹脂塗料用上塗	365 μm		
乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		上塗り付着部	222 μm	239 μm	
		下塗り(3)	163 μm	155 μm	
		下塗り(2)		87 μm	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【 加熱面 】				【 塗膜の変状 】	
				- 上塗りが灰化し、ほとんどがはがれ落ちている。なお、わずかに供試体に付着している箇所もある。 - 上塗りがはく離した箇所の大部分では、MIO塗料が付着しており、全体的に灰色になっている。	
【 非加熱面 】				【 塗膜の変状 】	
				加熱面と同様である。	

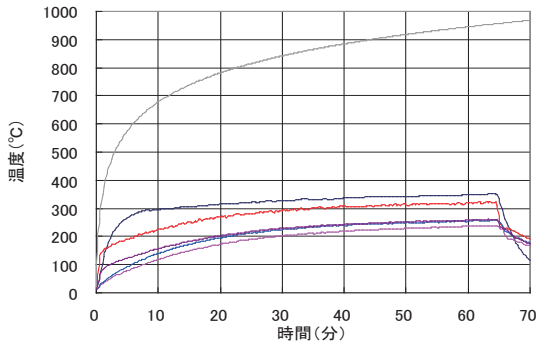
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		C-1塗装系		基準温度	600℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 	
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	78 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	エポキシ樹脂塗料下塗	223 μm		
	下塗り(3)	エポキシ樹脂MIO塗料	291 μm		
	中塗り	ポリウレタン樹脂塗料用中塗	351 μm		
	上塗り	ポリウレタン樹脂塗料用上塗	401 μm		
乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		下塗り(3)	188 μm		
		下塗り(2)	94 μm	109 μm	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【 加熱面 】				【 塗膜の変状 】	
				- MIO塗料のほとんどがはく離し、下塗りのエポキシ樹脂塗料が露出した状態となっている。 - エポキシ樹脂塗料は、淡い色に変色している。	
【 非加熱面 】				【 塗膜の変状 】	
				加熱面と同様である。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		C-1塗装系		基準温度	700℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚		
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	73 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	エポキシ樹脂塗料下塗	180 μm		
	下塗り(3)	エポキシ樹脂MIO塗料	249 μm		
	中塗り	ポリウレタン樹脂塗料用中塗	315 μm		
	上塗り	ポリウレタン樹脂塗料用上塗	360 μm		
乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		上塗り付着部	249 μm	257 μm	
		下塗り(3)	167 μm	176 μm	
※下層からの累積値		下塗り(2)	118 μm	88 μm	
試験後の塗膜損傷状況					
【加熱面】				【塗膜の変状】	
				上塗り灰化部が付着している箇所、MIO塗料が付着している箇所およびMIO塗料がはく離してエポキシ樹脂塗料のみとなっている箇所が混在している。	
【非加熱面】				【塗膜の変状】	
				- 上塗り灰化部が付着している箇所、MIO塗料が付着している箇所およびMIO塗料がはく離してエポキシ樹脂塗料のみとなっている箇所が混在している。 - 加熱面と比較し、灰化した上塗りが付着している面積が大きい。	

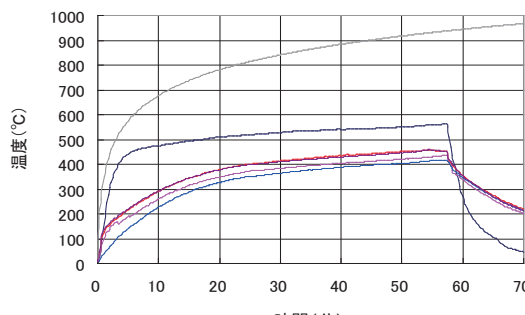
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	加熱前
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚		
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	76 μ m		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	259 μ m		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	336 μ m		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	370 μ m		
乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の 膜厚測定結果 ※下層からの累積値			加熱面		
試験後の塗膜損傷状況					
【 加熱面 】			【 塗膜の変状 】		
					
【 非加熱面 】			【 塗膜の変状 】		
					

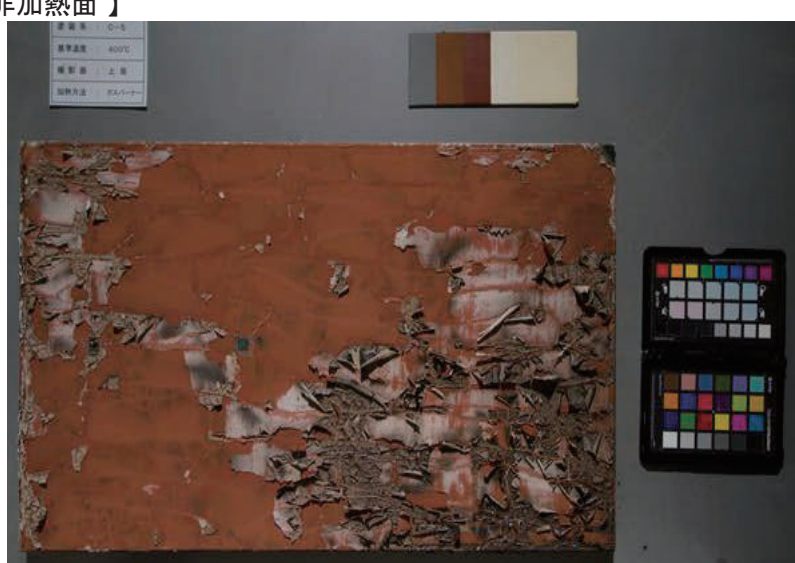
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	200℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 	
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	80 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	278 μm		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	355 μm		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	394 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		上塗り	310 μm	351 μm	
※下層からの累積値					

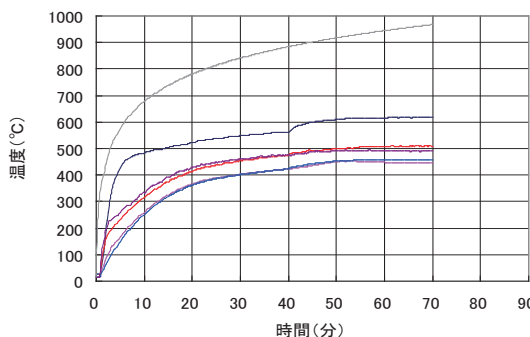
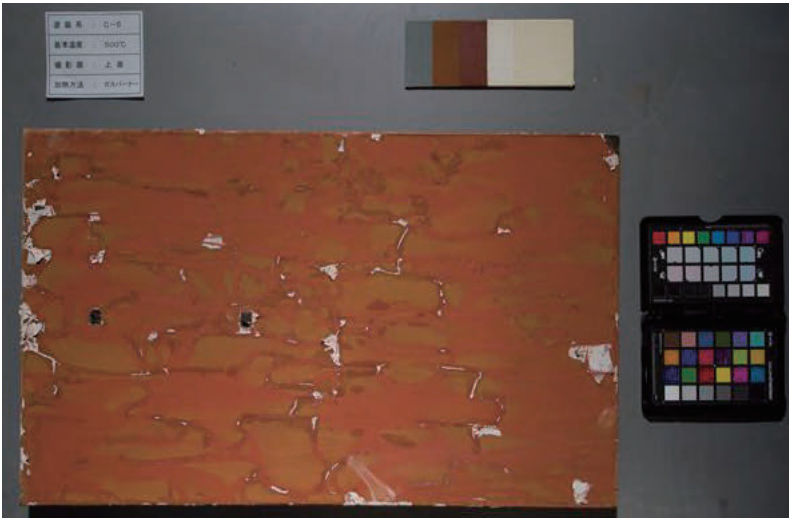
試験後の塗膜損傷状況	
【 加熱面 】	【塗膜の変状】
	上塗りの変色はみられない。
【 非加熱面 】	【塗膜の変状】
	上塗りの変色はみられない。

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	300℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	炉内温度 加熱面(中央) 非加熱面(端部) 加熱面(中央) 非加熱面(端部) ISO 	
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	76 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	257 μm		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	324 μm		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	356 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		上塗り	278 μm	336 μm	
※下層からの累積値					

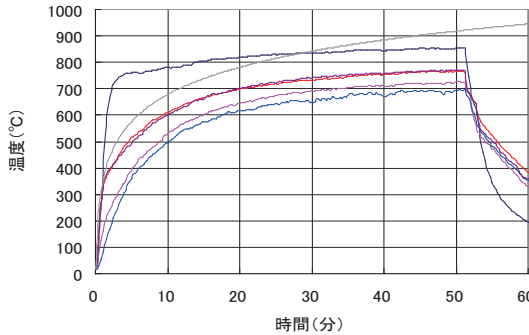
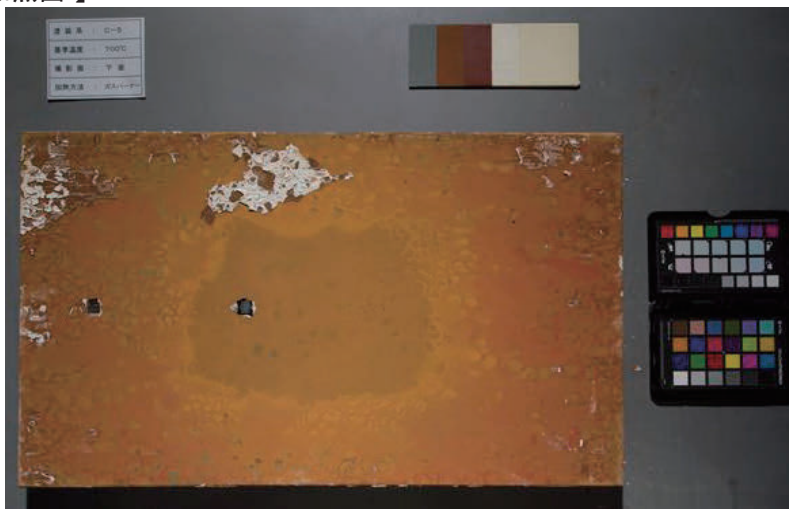
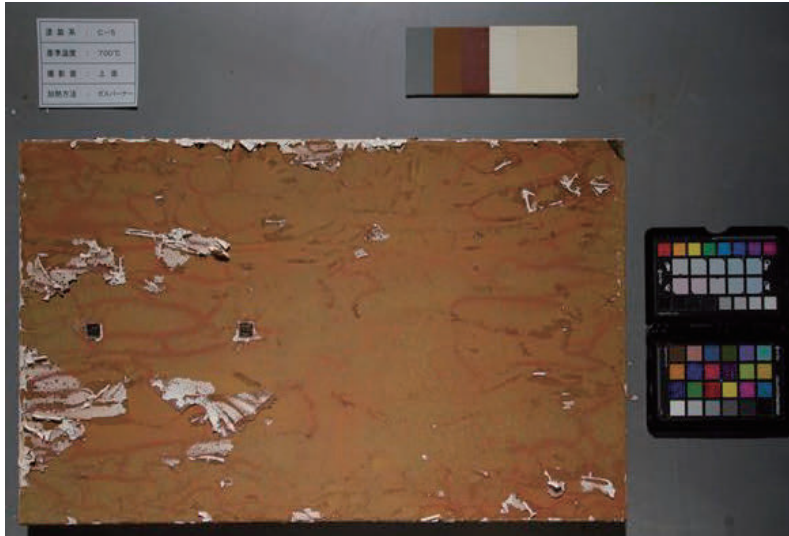
試験後の塗膜損傷状況	
【加熱面】	【塗膜の変状】
	熱源直上の上塗りが黒く変色している。
【非加熱面】	【塗膜の変状】
	熱源直上の上塗りが黒く変色している。

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	400℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	炉内温度 加熱面(中央) 非加熱面(端部) 加熱面(中央) 非加熱面(端部) ISO 	
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	87 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	290 μm		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	366 μm		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	392 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		上塗り	230 μm	324 μm	
		中塗り付着部	165 μm	229 μm	
		下塗り(2)	83 μm	87 μm	
※下層からの累積値					

試験後の塗膜損傷状況	
【 加熱面 】	【塗膜の変状】
	- 上塗りが灰化し、ほとんどがはがれている。 - 中塗りが露出した箇所では、全体的に白い変色状況となっている。 - 中塗りがはがれた箇所におけるエポキシ樹脂塗料は、淡い色に変色している。
【 非加熱面 】	【塗膜の変状】
	- 上塗りの中塗りが灰化してほとんどがはく離し、下塗りが露出している。 - 端部では、完全に灰化していない上塗り(灰色)が残存している。 - 下塗りのエポキシ樹脂塗料は赤みのある色に変色している。

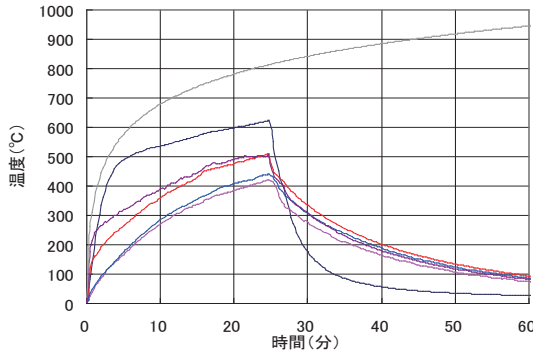
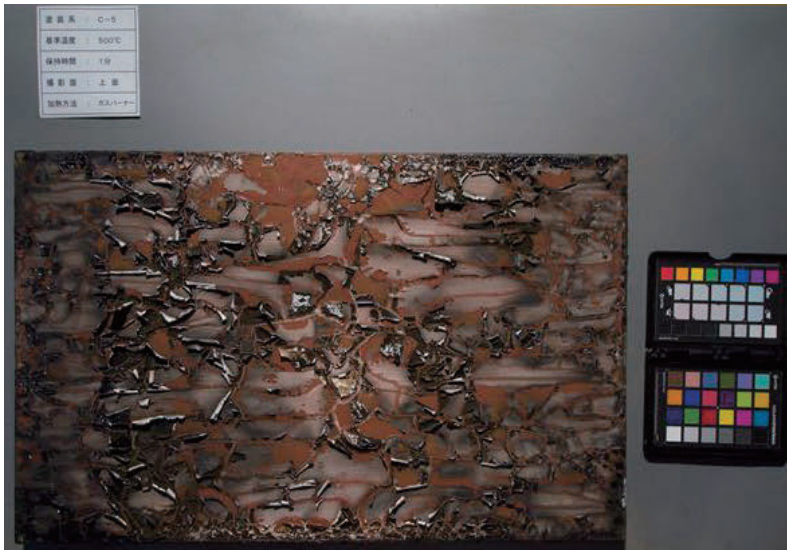
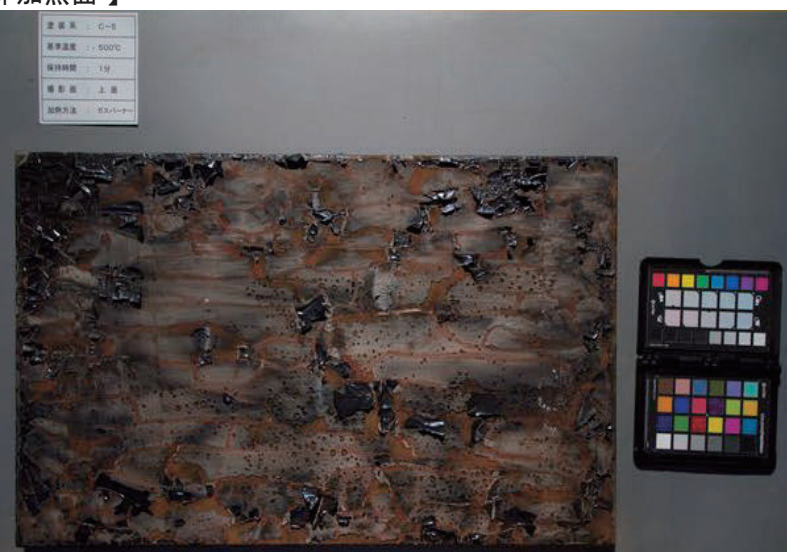
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	500℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 	
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	79 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	255 μm		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	329 μm		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	362 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		中塗り付着部	219 μm		
		下塗り(2)	87 μm	77 μm	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【 加熱面 】				【塗膜の変状】	
				- 上塗りと中塗りがほぼはがれた状態であり、大部分で下塗りが露出している。 - 下塗りは赤みを帯びた色から緑がかった色に変色している箇所がある。	
【 非加熱面 】				【塗膜の変状】	
				加熱面と同様である。	

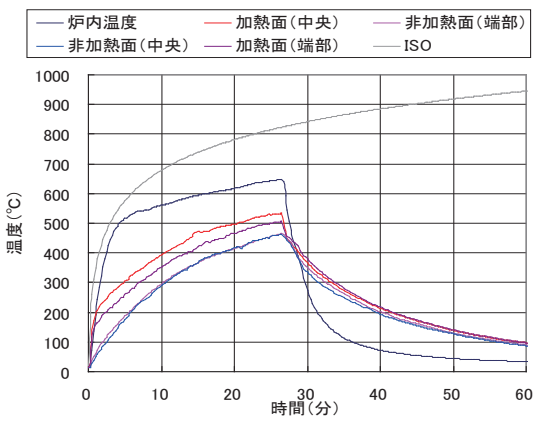
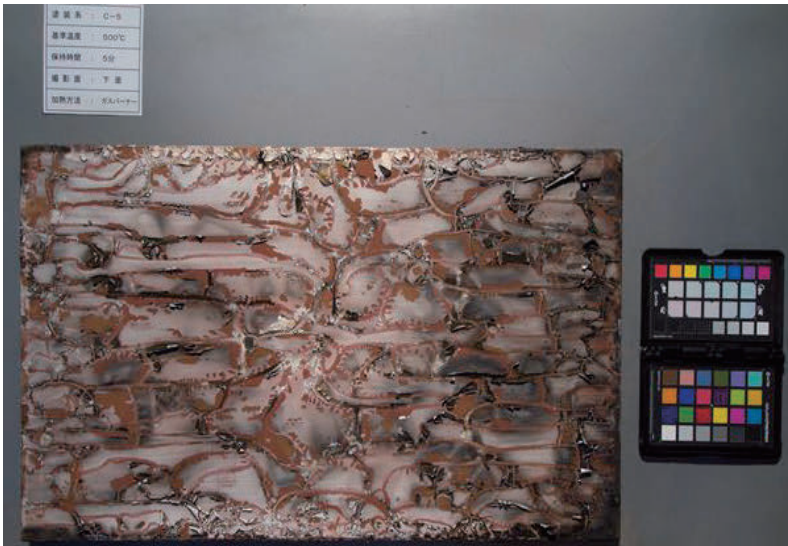
被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔開放型ガス炉加熱試験〕		
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	600℃	
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】		
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO		
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	67 μm			
	ミストコート		—			
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	243 μm			
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	316 μm			
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	348 μm			
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果		加熱面	非加熱面			
		上塗り		244 μm		
		中塗り付着部		180 μm		
※下層からの累積値		下塗り(2)	90 μm	70 μm		
試験後の塗膜損傷状況						
【加熱面】				【塗膜の変状】		
				- 上塗りと中塗りがほぼはがれた状態であり、大部分で下塗りが露出している。 - 下塗りが赤みを帯びた色から緑がかった色に変色している箇所がある。 500℃からの大きな変化はみられない。		
【非加熱面】				【塗膜の変状】		
				- 上塗りが灰化して残っている。 - 下塗りが赤みを帯びた色となっている。		

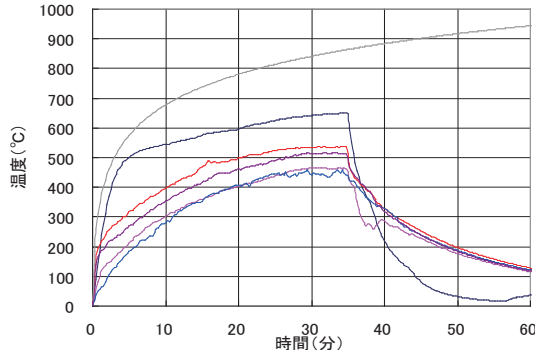
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	700℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) 	
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	70 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	279 μm		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	351 μm		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	387 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果			加熱面	非加熱面	
		中塗り付着部	238 μm	229 μm	
		下塗り(2)	96 μm	94 μm	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【 加熱面 】				【塗膜の変状】	
				- 下塗りが赤みを帯びた色から緑がかった色に変色している。 - 熱源直上ではさらに変色が進行している。	
【 非加熱面 】				【塗膜の変状】	
				下塗りが緑がかった色に変色している。	

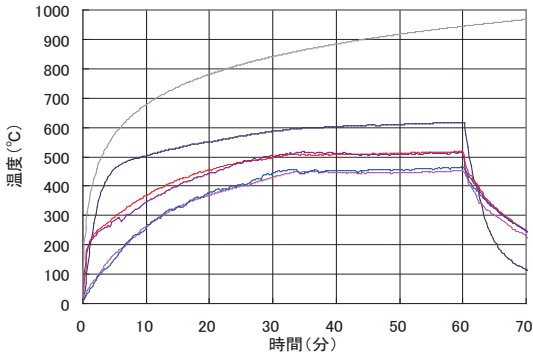
(2) 開放型ガス炉加熱試験（時間パラメータ）

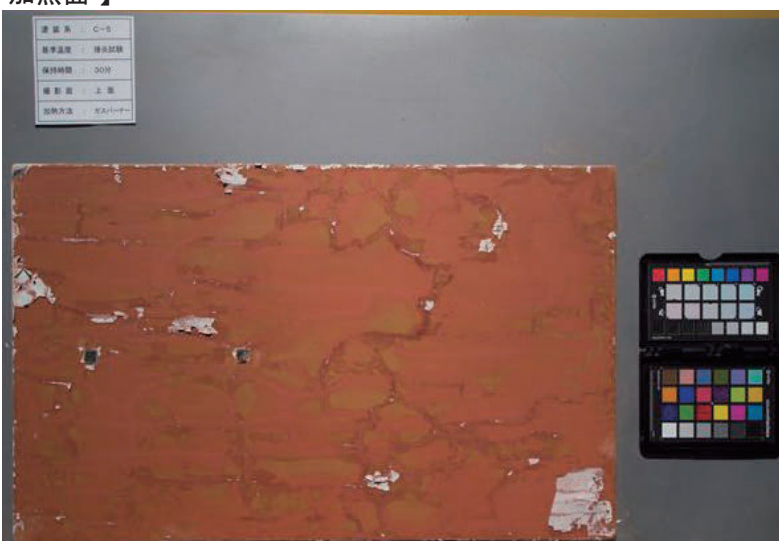
鋼板供試体の C-5 塗装系に対して基準温度 500℃で保持時間を変化させた場合の開放型ガス炉加熱試験を実施した結果を次頁以降に示す。なお、見本集の測定膜厚は、下層からの累積値である。

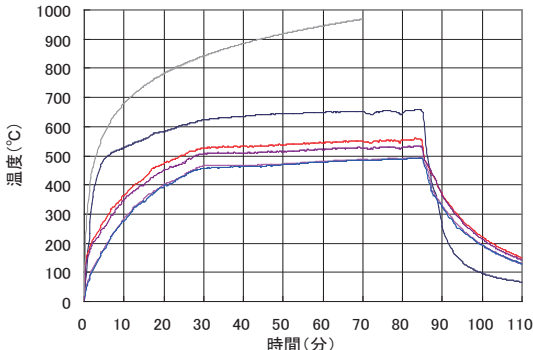
被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔開放型ガス炉加熱試験〕	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	500℃（1分間保持）
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面（中央） — 非加熱面（端部） — 非加熱面（中央） — 加熱面（端部） — ISO 	
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	82 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	269 μm		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	356 μm		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	400 μm		
	乾燥条件：塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果 ※下層からの累積値			加熱面	非加熱面	
		上塗り	395 μm	269 μm	
		中塗り付着部	252 μm	175 μm	
		下塗り(2)	95 μm	93 μm	
試験後の塗膜損傷状況					
【加熱面】				【塗膜の変状】	
				- 上塗りが炭化した状態で付着している。 - 中塗りが露出している部分は濃い灰色であり、全体的に黒みを帯びた状態である。	
【非加熱面】				【塗膜の変状】	
				- 上塗りが炭化した状態で付着している。 - 中塗りが露出している箇所では、濃い灰色の状態の箇所が多い。	

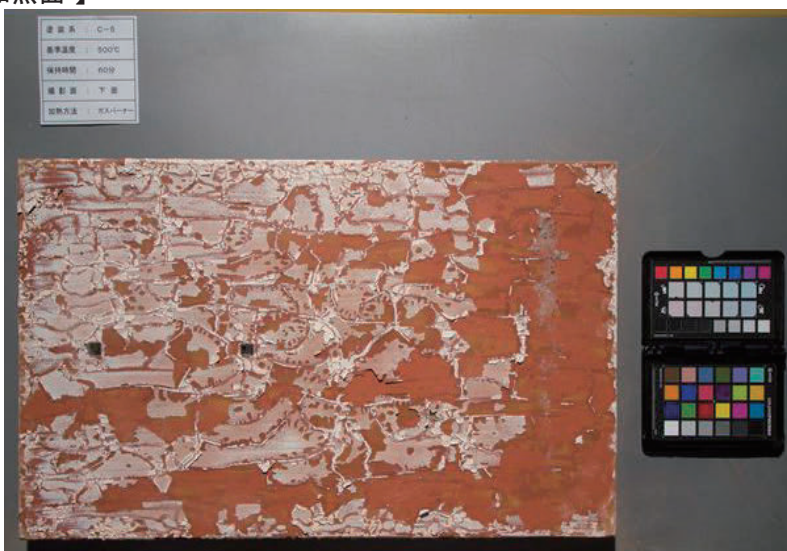
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	500℃（5分間保持）
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚		
	下塗り(1)	無機ジंकリッチペイント	70 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	256 μm		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	329 μm		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	366 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果 ※下層からの累積値			加熱面	非加熱面	
		中塗り付着部	153 μm	177 μm	
		下塗り(2)	96 μm	75 μm	
試験後の塗膜損傷状況					
【 加熱面 】				【塗膜の変状】	
				- 上塗りの灰化が進行して「はがれ」が生じており、基準温度到達1分後より白みを帯びた状態となった。 - 中塗りの露出部が灰色から灰白色へ変化している。 - ただし、黒みを帯びた濃い灰色の部分が残っている箇所もみられる。	
【 非加熱面 】				【塗膜の変状】	
				- 上塗りが灰化して、全面的にはがれている。 - 中塗りの露出部は、1分の場合と比較して白みを帯びた灰色へと変色している。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔開放型ガス炉加熱試験〕	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	500℃（15分間保持）
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面（中央） — 非加熱面（端部） — 非加熱面（中央） — 加熱面（端部） — ISO 	
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	75 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	258 μm		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	335 μm		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	372 μm		
	乾燥条件：塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果 ※下層からの累積値			加熱面	非加熱面	
		中塗り付着部	158 μm	175 μm	
		下塗り(2)	80 μm	84 μm	
試験後の塗膜損傷状況					
【加熱面】				【塗膜の変状】	
				- 上塗りのほとんどが、はがれている。 - 中塗りの露出部が全体的に白色に変化している。 - 中塗りがはく離して、下塗りが露出している箇所がみられる。	
【非加熱面】				【塗膜の変状】	
				- 中塗りのほとんどがはがれているが。 - 中塗りのはく離箇所では、下塗りがやや緑がかった色へと変色している。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔開放型ガス炉加熱試験〕	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	500℃（30分間保持）
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面（中央） — 非加熱面（端部） — 非加熱面（中央） — 加熱面（端部） — ISO 	
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	71 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	234 μm		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	305 μm		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	335 μm		
	乾燥条件：塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果 ※下層からの累積値			加熱面	非加熱面	
		中塗り付着部	162 μm	158 μm	
		下塗り(2)	81 μm	76 μm	

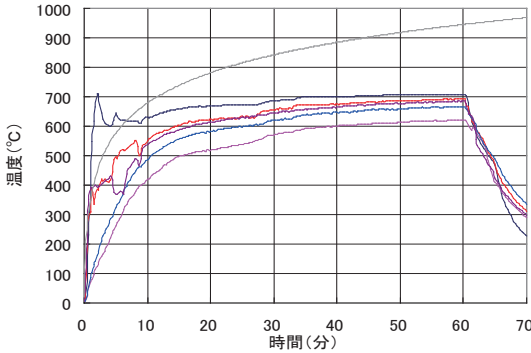
試験後の塗膜損傷状況	
【加熱面】 	【塗膜の変状】 - 中塗り付着部の色調は、15分の場合と同様である。 - 中塗りがはがれている面積が、15分の場合と比べて大きくなっている。 - ただし、1分～15分までの変化と比較すると大きな変化ではない。
【非加熱面】 	【塗膜の変状】 - 中塗りのほとんどがはがれている。 - 下塗りの色調は、15分から大きな変化はみられない。

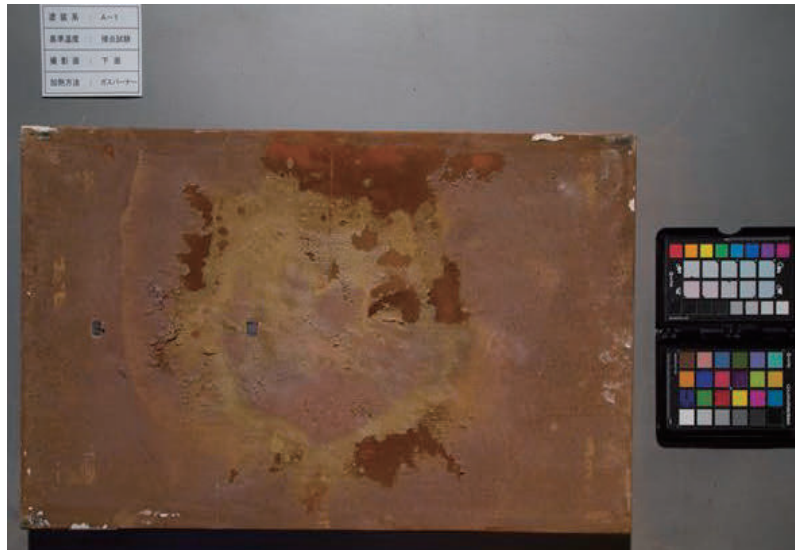
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	500℃（60分間保持）
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面（中央） — 非加熱面（端部） — 非加熱面（中央） — 加熱面（端部） — ISO 	
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	80 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	261 μm		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	354 μm		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	383 μm		
	乾燥条件：塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果 ※下層からの累積値			加熱面	非加熱面	
		中塗り付着部	159 μm		
		下塗り(2)	74 μm	87 μm	

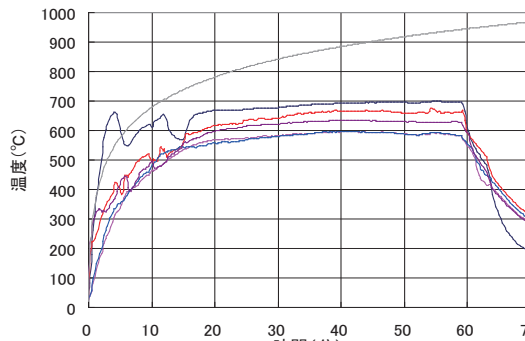
試験後の塗膜損傷状況	
【 加熱面 】 	【塗膜の変状】 ・ 30分の場合とほぼ同様であり、大きな変化はみられない。
【 非加熱面 】 	【塗膜の変状】 ・ 30分の場合から大きな変化はみられない。

(3) 開放型ガス炉接炎試験

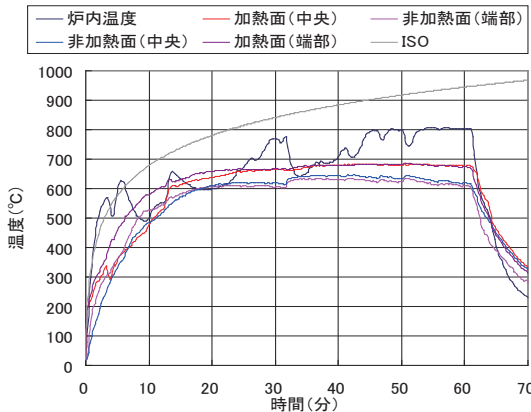
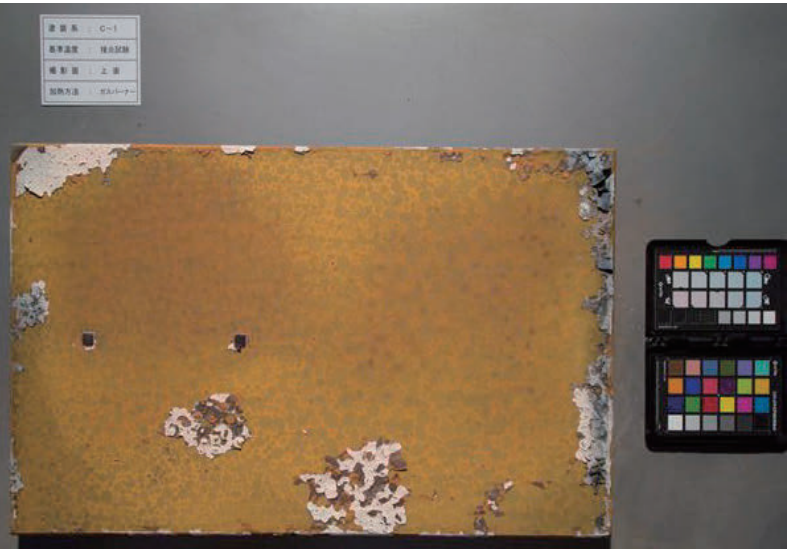
A-1, A-2, B-1, C-1 および C-5 塗装系の各鋼板供試体に対して開放型ガス炉接炎試験を実施した結果を次頁以降に示す。なお、見本集の測定膜厚は、下層からの累積値である。

被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔開放型ガス炉接炎試験〕	
供試体種類		A-1塗装系		試験時間	60分間
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 非加熱面(中央) — 加熱面(端部) — ISO 	
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	35 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	99 μm		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	145 μm		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	210 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果 ※下層からの累積値			加熱面	非加熱面	
		下塗り(2)	83 μm	104 μm	
		下塗り剥離部	33 μm		

試験後の塗膜損傷状況	
【加熱面】 塗膜系 : A-1 標準温度 : 接点試験 撮影機 : 下照 加熱方法 : ガスバーナー 	【塗膜の変状】 熱源直上で下塗りが緑がかった茶色に変色している。
【非加熱面】 塗膜系 : A-1 標準温度 : 接点試験 撮影機 : 上照 加熱方法 : ガスバーナー 	【塗膜の変状】 下塗りの変色状況は、淡い赤みを帯びた箇所と緑がかった茶色に変色している箇所がみられる。

被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔開放型ガス炉接炎試験〕	
供試体種類		A-2塗装系		試験時間	60分間
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 非加熱面(中央) — 加熱面(端部) — ISO 	
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	32 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	79 μm		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	186 μm		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	228 μm		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	272 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果 ※下層からの累積値			加熱面	非加熱面	
		上塗り付着部		265 μm	
		下塗り(3)	77 μm		
		下塗り(2)	27 μm	80 μm	
試験後の塗膜損傷状況					
【加熱面】				【塗膜の変状】	
				下塗りが白みを帯びた色に変色している。	
【非加熱面】				【塗膜の変状】	
				- 中央部の下塗りが緑がかった茶色に変色している。 - 端部周辺には、灰化した上塗りが付着している。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉接炎試験]	
供試体種類		B-1塗装系		試験時間	60分間
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 非加熱面(中央) — 加熱面(端部) — ISO	
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	36 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	97 μm		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	168 μm		
	中塗り	塩化ゴム系塗料中塗	217 μm		
	上塗り	塩化ゴム系塗料上塗	297 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果 ※下層からの累積値			加熱面	非加熱面	
		上塗り付着部	253 μm	290 μm	
		下塗り(3)		127 μm	
		下塗り(2)	62 μm	33 μm	
試験後の塗膜損傷状況					
【 加熱面 】				【塗膜の変状】	
				・ 灰化して白くなった上塗りが付着している箇所がある。 ・ 下塗りが薄い茶色に変色している。	
【 非加熱面 】				【塗膜の変状】	
				・ 灰化して白くなった上塗りが付着している箇所がある。 ・ MIO塗料が露出している箇所と、MIO塗料がはがれ下塗りが濃い茶色に変色している箇所がある。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉接炎試験]	
供試体種類		C-1塗装系		試験時間	60分間
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚		
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	82 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	エポキシ樹脂塗料下塗	200 μm		
	下塗り(3)	エポキシ樹脂MIO塗料	260 μm		
	中塗り	ポリウレタン樹脂塗料用中塗	329 μm		
	上塗り	ポリウレタン樹脂塗料用上塗	380 μm		
乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露					
試験後の膜厚測定結果 ※下層からの累積値			加熱面	非加熱面	
		上塗り付着部	270 μm	284 μm	
		下塗り(1)	81 μm	108 μm	
試験後の塗膜損傷状況					
【 加熱面 】				【 塗膜の変状 】	
				・ 熱源直上では下塗りが淡い茶色に変色している。 ・ 端部周辺では、灰化した上塗りが付着しており、黒くなっている。	
【 非加熱面 】				【 塗膜の変状 】	
				・ MIO塗料が全体的にはがれ、エポキシ樹脂塗料が淡い茶色に変色している。	

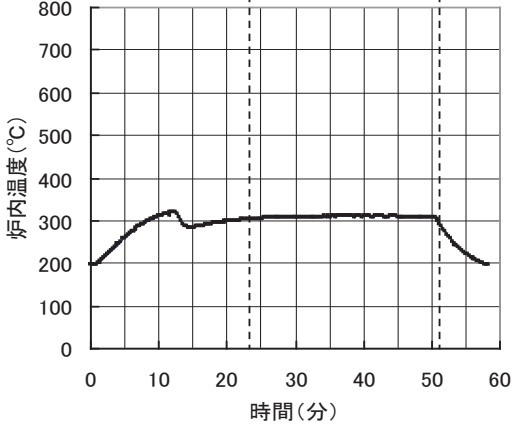
被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔開放型ガス炉接炎試験〕	
供試体種類		C-5塗装系		試験時間	60分間
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	膜厚	炉内温度 加熱面(中央) 非加熱面(端部) 非加熱面(中央) 加熱面(端部) ISO	
	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	74 μm		
	ミストコート				
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	232 μm		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	312 μm		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	351 μm		
	乾燥条件: 塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果 ※下層からの累積値			加熱面	非加熱面	
		上塗り付着部	194 μm	279 μm	
		下塗り(1)	76 μm	89 μm	
試験後の塗膜損傷状況					
【加熱面】				【塗膜の変状】	
				・ 下塗りが淡い茶色に変色している。	
【非加熱面】				【塗膜の変状】	
				・ 下塗りが赤みを帯びた茶色に変色している箇所と緑がかった茶色に変色している箇所がある。	

（４） 電気炉加熱試験

A-1, A-2, B-1, C-1 および C-5 塗装系の各鋼板供試体に対して電気炉加熱試験を実施した結果を次頁以降に示す。なお、見本集の測定膜厚は、下層からの累積値である。

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		A-1塗装系		基準温度	加熱前
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント		29 μm	
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント		89 μm	
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗		136 μm	
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗		192 μm	
乾燥条件		塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
					
【下面】			【塗膜の変状】		
					

被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔電気炉加熱試験〕	
供試体種類		A-1塗装系		基準温度	200℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	29 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	85 μm		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	138 μm		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	190 μm		
乾燥条件		塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り	190 μm	179 μm	
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】					
					
【塗膜の変状】					
・ 上塗りがやや黒く変色している。					
【下面】					
					
【塗膜の変状】					
・ 上面と同様である。					

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		A-1塗装系		基準温度	300℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚	開始 終了 	
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	31 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	91 μm		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	129 μm		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	184 μm		
乾燥条件		塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	試験後の塗膜損傷状況
※下層からの累積値		下塗り(2)	80 μm	59 μm	
【上面】		【塗膜の変状】			
		・ 上塗りが炭化し、供試体端部から「われ」が生じ、全体にわたってはがれている。 ・ 下塗りが黒みを帯びた色になっている。			
【下面】		【塗膜の変状】			
		・ 上面と同様である。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		A-1塗装系		基準温度	400℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	26 μ m		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	85 μ m		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	142 μ m		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	192 μ m		
乾燥条件		塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り付着部	221 μ m		
		下塗り(2)	109 μ m		77 μ m

試験後の塗膜損傷状況			
【上面】		【塗膜の変状】	
		・ 300℃とほぼ同様である。	
【下面】		【塗膜の変状】	
		・ 上面と同様である。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		A-1塗装系		基準温度	500℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	28 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	99 μm		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	150 μm		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	211 μm		
乾燥条件		塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り付着部	219 μm		
		下塗り(2)	52 μm	69 μm	

時間(分)		0	10	20	30	40	50	60	70
炉内温度(℃)	800								
	700								
600	500								
	400								
300	200								
	100								
0									

開始

終了

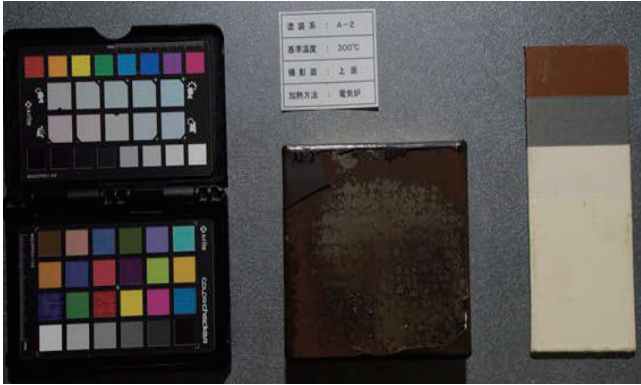
試験後の塗膜損傷状況	
【上面】	【塗膜の変状】
	- 上塗りが灰化して端部周辺に付着している。 - 下塗りは淡い茶色に変色している。
【下面】	【塗膜の変状】
	- 上塗りが灰化して端部周辺に付着している。 - 下塗りは淡い茶色に変色している。 - 上塗りの付着範囲は、上面より少ない。

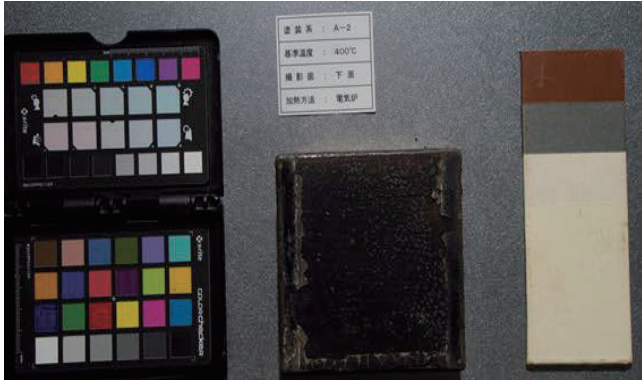
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		A-1塗装系		基準温度	600℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	33 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	97 μm		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	141 μm		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	198 μm		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り付着部	251 μm	203 μm	
		下塗り(2)	105 μm	133 μm	
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
			・ 500℃とほぼ同様である。		
【下面】			【塗膜の変状】		
			・ 500℃の場合と同様に、上塗りが灰化して端部周辺に付着している。 ・ 下塗りの2層目がはく離し、1層目に「ふくれ」が生じている。		

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		A-1塗装系		基準温度	700℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	28 μ m		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	79 μ m		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	117 μ m		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	178 μ m		
乾燥条件		塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		下塗り(2)	はく離	はく離	
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
			・ 下塗りがはく離して素地が露出している。		
【下面】			【塗膜の変状】		
			・ 上面と同様である。		

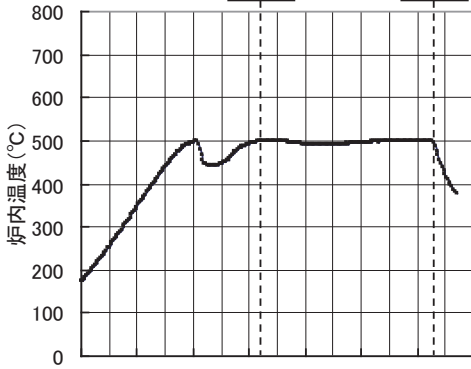
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		A-2塗装系		基準温度	加熱前
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント		26 μm	
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント		81 μm	
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料		196 μm	
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗		206 μm	
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗		252 μm	
乾燥条件		塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
					
【下面】			【塗膜の変状】		
					

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		A-2塗装系		基準温度	200℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	26 μ m		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	86 μ m		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	202 μ m		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	214 μ m		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	265 μ m		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り	247 μ m	211 μ m	
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
			・ 上塗りがやや黒みを帯びた色に変色している。		
【下面】			【塗膜の変状】		
			・ 上面と同様である。		

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		A-2塗装系		基準温度	300℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	26 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	73 μm		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	200 μm		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	215 μm		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	250 μm		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り	200 μm		
		下塗り(3)	130 μm	151 μm	
		下塗り(2)	53 μm	58 μm	
試験後の塗膜損傷状況 【上面】  【塗膜の変状】 - 上塗りが炭化し、供試体端部から「われ」が生じ、全体にわたってはがれている。 - MIO塗料が露出し、下塗りは黒みを帯びた色になっている。 【下面】  【塗膜の変状】 - 上面と同様である。					

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		A-2塗装系		基準温度	400℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	26 μ m		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	92 μ m		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	205 μ m		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	210 μ m		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	254 μ m		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		下塗り(2)	98 μ m	107 μ m	
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
			・ 上塗りが全体にわたってはがれている。 ・ 下塗りが黒く変色している。		
【下面】			【塗膜の変状】		
			・ 上面と同様である。		

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		A-2塗装系		基準温度	500℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	28 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	84 μm		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	194 μm		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	204 μm		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	250 μm		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り付着部	201 μm	236 μm	
		下塗り(2)	73 μm	67 μm	

【炉内温度】																			
800 700 600 500 400 300 200 100 0	開始 終了  <table border="1"><caption>炉内温度データ (推定)</caption><thead><tr><th>時間 (分)</th><th>温度 (℃)</th></tr></thead><tbody><tr><td>0</td><td>200</td></tr><tr><td>10</td><td>350</td></tr><tr><td>20</td><td>500</td></tr><tr><td>30</td><td>500</td></tr><tr><td>40</td><td>500</td></tr><tr><td>50</td><td>500</td></tr><tr><td>60</td><td>500</td></tr><tr><td>70</td><td>400</td></tr></tbody></table>	時間 (分)	温度 (℃)	0	200	10	350	20	500	30	500	40	500	50	500	60	500	70	400
時間 (分)	温度 (℃)																		
0	200																		
10	350																		
20	500																		
30	500																		
40	500																		
50	500																		
60	500																		
70	400																		
時間 (分)																			

試験後の塗膜損傷状況	
【上面】	【塗膜の変状】
	- 上塗りが灰化して端部周辺に付着している。 - 下塗りが淡い茶色に変色しており、MIO塗料に小さな凹凸が生じている。
【下面】	【塗膜の変状】
	上面と同様である。

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		A-2塗装系		基準温度	600℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	25 μ m		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	84 μ m		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	200 μ m		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	205 μ m		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	253 μ m		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り付着部	220 μ m	216 μ m	
		下塗り(3)	111 μ m	123 μ m	
		下塗り(2)	66 μ m	99 μ m	

試験後の塗膜損傷状況			
【上面】		【塗膜の変状】	
		・ 500℃の場合とほぼ同様である。	
【下面】		【塗膜の変状】	
		・ 上面と同様である。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		A-2塗装系		基準温度	700℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	22 μ m		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	68 μ m		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	174 μ m		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	188 μ m		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	239 μ m		
乾燥条件		塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		下塗り(2)	はく離	はく離	
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
			・ 下塗りがはがれて素地が露出している。		
【下面】			【塗膜の変状】		
			・ 上面と同様である。		

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		B-1塗装系		基準温度	加熱前
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント		27 μ m	
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント		77 μ m	
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料		184 μ m	
	中塗り	塩化ゴム系塗料中塗		218 μ m	
	上塗り	塩化ゴム系塗料上塗		270 μ m	
乾燥条件		塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
					
【下面】			【塗膜の変状】		
					

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		B-1塗装系		基準温度	200℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	30 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	76 μm		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	189 μm		
	中塗り	塩化ゴム系塗料中塗	242 μm		
	上塗り	塩化ゴム系塗料上塗	294 μm		
乾燥条件		塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
		上塗り	273 μm	248 μm	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
			・ 上塗りが一部で黒みを帯びた色に変色している。		
【下面】			【塗膜の変状】		
			・ 上塗りはほとんど変色していない。		

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		B-1塗装系		基準温度	300℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	29 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	89 μm		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	212 μm		
	中塗り	塩化ゴム系塗料中塗	233 μm		
	上塗り	塩化ゴム系塗料上塗	291 μm		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り	333 μm	350 μm	
		下塗り(3)	168 μm		
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
			- 上塗りが炭化して黒く変色している。 - 上塗りに、小さな「われ」および「ふくれ」が全面的に生じている。 - 上塗りがはがれた箇所では、MIO塗料が露出している。		
【下面】			【塗膜の変状】		
			- 上塗りが炭化して黒く変色している。 - 上塗りに、小さな「われ」および「ふくれ」が全面的に生じている。		

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		B-1塗装系		基準温度	400℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	27 μ m		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	76 μ m		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	188 μ m		
	中塗り	塩化ゴム系塗料中塗	222 μ m		
	上塗り	塩化ゴム系塗料上塗	281 μ m		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り	342 μ m	348 μ m	
		下塗り(3)		127 μ m	

時間(分)		温度(℃)	
0		100	
10		250	
20		420	
30		400	
40		410	
50		410	
60		410	
70		300	

試験後の塗膜損傷状況	
【上面】	【塗膜の変状】
	- 上塗りが完全に炭化して黒く変色している。 - 上塗りに、小さな「われ」および「ふくれ」が全面的に生じている。
【下面】	【塗膜の変状】
	上面と同様である。

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		B-1塗装系		基準温度	500℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		
	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	25 μm		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	75 μm		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	170 μm		
	中塗り	塩化ゴム系塗料中塗	196 μm		
	上塗り	塩化ゴム系塗料上塗	247 μm		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り付着部	256 μm	285 μm	
		下塗り(2)	131 μm	104 μm	

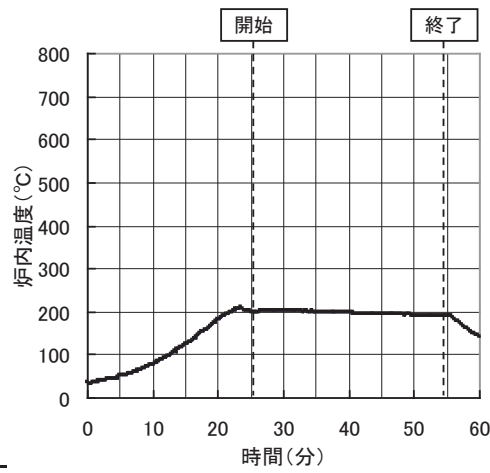
試験後の塗膜損傷状況	
【上面】	【塗膜の変状】
	- 上塗りがほとんどはがれている。 - なお、端部では、灰化して白く変色した上塗りが付着している。 - 下塗りが濃い茶色に変色している。
【下面】	【塗膜の変状】
	- 灰化した上塗りが端部に付着している。 - 下塗りは濃い茶色に変色している。 - 上面と同様である。

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		B-1塗装系		基準温度	600℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	26 μ m		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	71 μ m		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	172 μ m		
	中塗り	塩化ゴム系塗料中塗	211 μ m		
	上塗り	塩化ゴム系塗料上塗	260 μ m		
乾燥条件		塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		下塗り(2)	155 μ m	113 μ m	
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
			- 上塗りが全面的にはがれている。（なお、端部にわずかに付着している箇所がある。） - 下塗りが、500℃の場合よりも緑がかった色に変色している。		
【下面】			【塗膜の変状】		
			- 上塗りほとんどがはがれている。 - 上塗りが全面的にはがれている。（なお、端部にわずかに付着している箇所がある。） - 下塗りが500℃の場合よりも緑がかった色に変色しており、「ふくれ」が生じている。		

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		B-1塗装系		基準温度	700℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	シアナミド鉛さび止めペイント	24 μ m		
	下塗り(2)	シアナミド鉛さび止めペイント	76 μ m		
	下塗り(3)	フェノール樹脂MIO塗料	171 μ m		
	中塗り	塩化ゴム系塗料中塗	202 μ m		
	上塗り	塩化ゴム系塗料上塗	248 μ m		
乾燥条件		塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		下塗り(2)	はく離	はく離	
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
			・ 下塗りがはがれて素地が露出している。		
【下面】			【塗膜の変状】		
			・ 上面と同様である。		

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		C-1塗装系		基準温度	加熱前
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	無機ジंकリッチペイント		82 μ m	
	ミストコート			—	
	下塗り(2)	エポキシ樹脂塗料下塗		208 μ m	
	下塗り(3)	エポキシ樹脂MIO塗料		293 μ m	
	中塗り	ポリウレタン樹脂塗料用中塗		363 μ m	
	上塗り	ポリウレタン樹脂塗料用上塗		397 μ m	
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
					
【下面】			【塗膜の変状】		
					

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		C-1塗装系		基準温度	200℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	無機ジंकリッチペイント	78 μ m		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	エポキシ樹脂塗料下塗	208 μ m		
	下塗り(3)	エポキシ樹脂MIO塗料	295 μ m		
	中塗り	ポリウレタン樹脂塗料用中塗	348 μ m		
	上塗り	ポリウレタン樹脂塗料用上塗	384 μ m		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り	358 μ m	321 μ m	



試験後の塗膜損傷状況			
【上面】		【塗膜の変状】	
		・ 上塗りはほとんど変色していない。	
【下面】		【塗膜の変状】	
		・ 上面と同様である。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		C-1塗装系		基準温度	300℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	無機ジंकリッチペイント	85 μ m		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	エポキシ樹脂塗料下塗	204 μ m		
	下塗り(3)	エポキシ樹脂MIO塗料	287 μ m		
	中塗り	ポリウレタン樹脂塗料用中塗	349 μ m		
	上塗り	ポリウレタン樹脂塗料用上塗	386 μ m		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り	347 μ m	304 μ m	

開始		終了	

試験後の塗膜損傷状況	
【上面】	【塗膜の変状】
	上塗りが黒みを帯びた色に変色している。
【下面】	【塗膜の変状】
	上面と同様である。

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		C-1塗装系		基準温度	400℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	無機ジंकリッチペイント		85 μm	
	ミストコート			—	
	下塗り(2)	エポキシ樹脂塗料下塗		209 μm	
	下塗り(3)	エポキシ樹脂MIO塗料		291 μm	
	中塗り	ポリウレタン樹脂塗料用中塗		361 μm	
	上塗り	ポリウレタン樹脂塗料用上塗		395 μm	
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り	402 μm		
		下塗り(3)		234 μm	
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
			・ 上塗りが炭化して黒く変色し、「われ」や「ふくれ」が生じている。		
【下面】			【塗膜の変状】		
			・ 上塗りがほとんどはがれ、MIO塗料が露出している。		

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		C-1塗装系		基準温度	500℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	無機ジंकリッチペイント	82 μ m		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	エポキシ樹脂塗料下塗	209 μ m		
	下塗り(3)	エポキシ樹脂MIO塗料	301 μ m		
	中塗り	ポリウレタン樹脂塗料用中塗	384 μ m		
	上塗り	ポリウレタン樹脂塗料用上塗	411 μ m		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り付着部			285 μ m
		下塗り(3)			227 μ m
		下塗り(2)	98 μ m		112 μ m
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
			- 上・中塗りおよびMIO塗料がはがれている。 - エポキシ樹脂塗料が、淡い茶色に変色している。		
【下面】			【塗膜の変状】		
			- 上・中塗りがほとんどはがれている。 - MIO塗料が露出している。		

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		C-1塗装系		基準温度	600℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	無機ジंकリッチペイント	81 μ m		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	エポキシ樹脂塗料下塗	210 μ m		
	下塗り(3)	エポキシ樹脂MIO塗料	301 μ m		
	中塗り	ポリウレタン樹脂塗料用中塗	373 μ m		
	上塗り	ポリウレタン樹脂塗料用上塗	405 μ m		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		下塗り(2)	117 μ m	95 μ m	
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
			・ 500℃の場合と比較して、エポキシ樹脂塗料がより淡い色に変色している。		
【下面】			【塗膜の変状】		
			・ 上・中塗りおよびMIO塗料がはがれている。 ・ エポキシ樹脂塗料が、薄い茶色に変色している。		

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		C-1塗装系			基準温度	700℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚			
塗装仕様	下塗り(1)	無機ジंकリッチペイント	83 μ m			
	ミストコート		—			
	下塗り(2)	エポキシ樹脂塗料下塗	206 μ m			
	下塗り(3)	エポキシ樹脂MIO塗料	281 μ m			
	中塗り	ポリウレタン樹脂塗料用中塗	363 μ m			
	上塗り	ポリウレタン樹脂塗料用上塗	402 μ m			
乾燥条件		塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果			上面	下面		
※下層からの累積値		下塗り(1)	47 μ m	30 μ m		

試験後の塗膜損傷状況	
【上面】	【塗膜の変状】
	- エポキシ樹脂塗料がはがれ、無機ジंकリッチペイントが露出している。 - 無機ジंकリッチペイントが、濃い灰色に変色している。
【下面】	【塗膜の変状】
	下塗りがはがれて素地が露出している箇所と無機ジंकリッチペイントが残っている箇所が混在している。

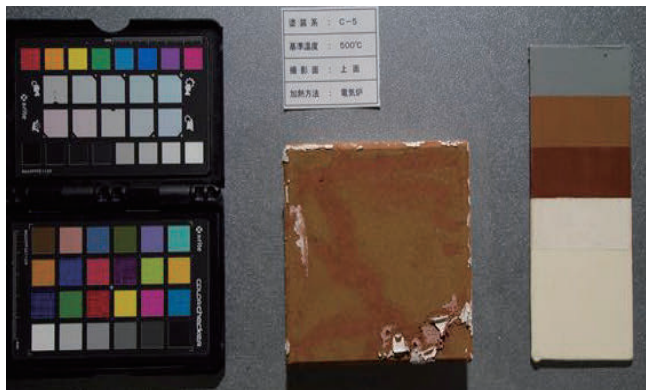
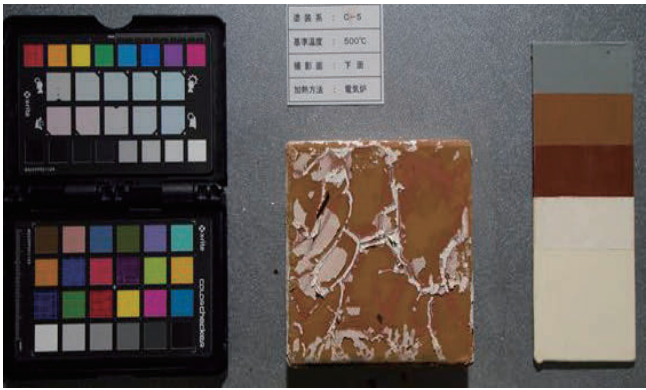
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	加熱前
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント		85 μ m	
	ミストコート			—	
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗		314 μ m	
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗		387 μ m	
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗		418 μ m	
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【 上面 】			【塗膜の変状】		
					
【 下面 】			【塗膜の変状】		
					

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	200℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	96 μ m		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	337 μ m		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	411 μ m		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	441 μ m		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り	389 μ m	280 μ m	
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
			・ 上塗りはほとんど変色していない。		
【下面】			【塗膜の変状】		
			・ 上面と同様である。		

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	300℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント	95 μ m		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	333 μ m		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	413 μ m		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	442 μ m		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		上塗り	350 μ m	246 μ m	
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
			・ 上塗りが黒みを帯びた色に変色している。		
【下面】			【塗膜の変状】		
			・ 上面と同様である。		

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		C-5塗装系			基準温度	400℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		開始 終了	
塗装仕様	下塗り(1)	無機ジンクリッチペイント		84 μ m		
	ミストコート			—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗		315 μ m		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗		382 μ m		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗		413 μ m		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露				
試験後の膜厚測定結果			上面	下面		
※下層からの累積値		中塗り付着部	299 μ m	177 μ m		
		下塗り(2)	120 μ m	102 μ m		
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					- 上塗りははがれている。 - 中塗りが露出し、濃い灰色に変色している。 - 下塗りはほとんど変色していない。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					上面と同様である。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	500℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	無機ジंकリッチペイント	78 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	287 μm		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	364 μm		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	388 μm		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		中塗り付着部		179 μm	
		下塗り(2)	95 μm	103 μm	

試験後の塗膜損傷状況			
【上面】		【塗膜の変状】	
		- 上・中塗りがほとんどはがれている。 - エポキシ樹脂塗料が、赤みを帯びた色あるいは緑がかった茶色に変色している。	
【下面】		【塗膜の変状】	
		上面と同様である。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	600℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	無機ジंकリッチペイント	81 μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	309 μm		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	377 μm		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	409 μm		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		中塗り付着部		226 μm	
		下塗り(2)	134 μm	112 μm	
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
			500℃の場合と比較して、エポキシ樹脂塗料がより淡い色に変色している。 - エポキシ樹脂塗料に、「ふくれ」が生じている箇所がみられる。 - 一部で無機ジंकリッチペイントが露出している。		
【下面】			【塗膜の変状】		
			- 上面と異なり、中塗りが付着している箇所がみられる。 - エポキシ樹脂塗料は、500℃の場合と比較して、やや緑がかった茶色に変色している。 - 中塗りの露出部が、灰白色から茶色がかった色に変色している。		

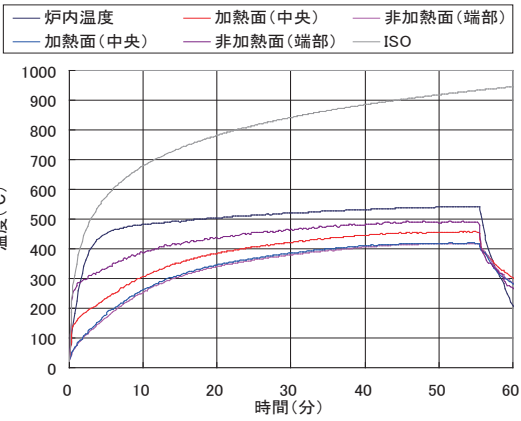
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		C-5塗装系		基準温度	700℃
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
塗装仕様	下塗り(1)	無機ジंकリッチペイント	76μm		
	ミストコート		—		
	下塗り(2)	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗	301μm		
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗	378μm		
	上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗	414μm		
	乾燥条件	塗装後1ヶ月間の屋外暴露			
試験後の膜厚測定結果			上面	下面	
※下層からの累積値		下塗り(1)	50μm	27μm	
試験後の塗膜損傷状況					
【上面】			【塗膜の変状】		
			- エポキシ樹脂塗料がはがれ、無機ジंकリッチペイントが露出している。 - 無機ジंकリッチペイントは、濃い灰色に変色している。		
【下面】			【塗膜の変状】		
			下塗りがはがれて素地が露出している箇所と、無機ジंकリッチペイントが残っている箇所が混在している。		

3. 2 既設道路橋供試体

(1) 開放型ガス炉加熱試験

既設道路橋供試体に対して開放型ガス炉加熱試験を実施した結果を次頁以降に示す。なお、見本集の測定膜厚は、下層からの累積値である。

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.1			基準温度	加熱前(400℃実施用)
供試体寸法		300×500×9mm			【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
			加熱面	非加熱面		
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
	塗替年月	不明				
試験後の膜厚測定結果						
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【 加熱面 】			【塗膜の変状】			
						
【 非加熱面 】			【塗膜の変状】			
						

被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔開放型ガス炉加熱試験〕	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.1		基準温度	400℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	加熱面	非加熱面	
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	47 μm	43 μm	
			106 μm	63 μm	
	塗替年月	不明			
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部	115 μm	138 μm	
		下塗り	40 μm	44 μm	
※下層からの累積値					

試験後の塗膜損傷状況

【加熱面】



【塗膜の変状】

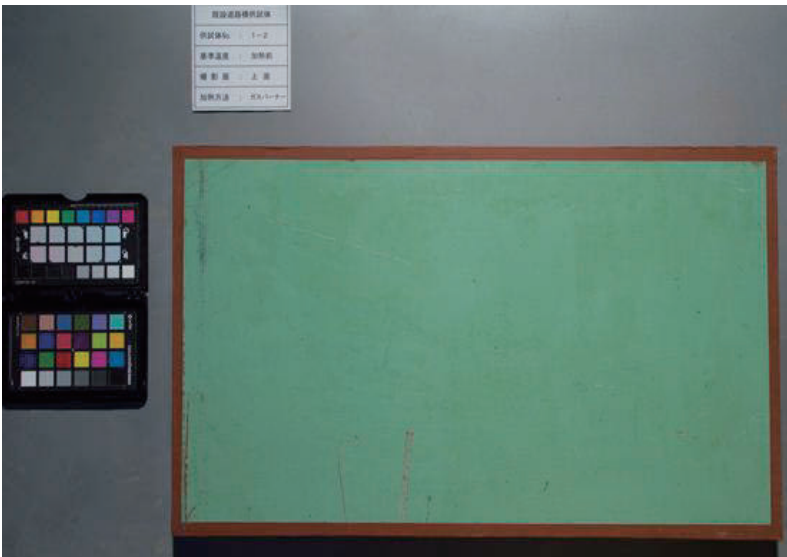
- ・ 上塗りが灰化して灰色に変色している。
- ・ 上塗りが灰化した状態で下塗りに付着しており、表面に細かい「われ」が生じている。
- ・ 上塗りのわれの隙間から露出している下塗りが、黒く変色している。

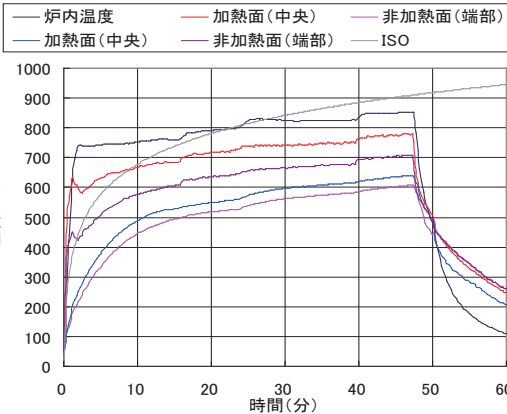
【非加熱面】



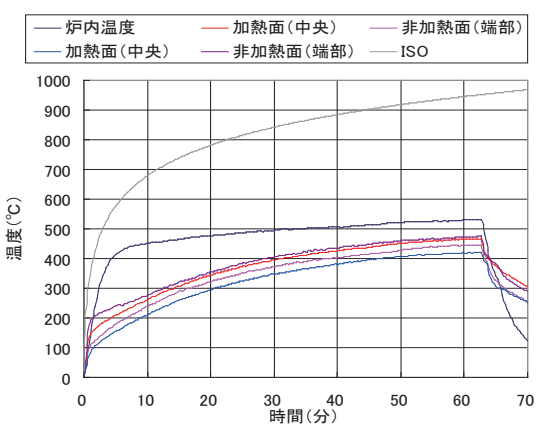
【塗膜の変状】

- ・ 加熱面と同様である。

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.1			基準温度	加熱前(700℃実施用)
供試体寸法		300×500×9mm			【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
			加熱面	非加熱面		
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
	塗替年月	不明				
試験後の膜厚測定結果						
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【 加熱面 】				【塗膜の変状】		
						
【 非加熱面 】				【塗膜の変状】		
						

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.1			基準温度	700℃
供試体寸法		300 × 500 × 9mm			【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
			加熱面	非加熱面		
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μ m	43 μ m		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μ m	63 μ m		
塗替年月		不明				
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部	126 μ m	198 μ m		
		下塗り	64 μ m	70 μ m		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【 加熱面 】						
						
【塗膜の変状】						
- 上塗りが灰化し、中央部では付着、端部でははく離している。 - 上塗り付着部では、下塗りの変色に移ったような変色状況であり、オレンジがかった灰白色となっている。 - 下塗りが、淡い茶色に変色している。						
【 非加熱面 】						
						
【塗膜の変状】						
加熱面と同様である。						

被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔開放型ガス炉加熱試験〕	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.2		基準温度	加熱前
供試体寸法		300×500×16mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		
			加熱面	非加熱面	
	下塗り	鉛系さび止め	130 μ m	109 μ m	
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料	180 μ m	138 μ m	
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料	211 μ m	174 μ m	
塗替年月		1990年9月			
試験後の膜厚測定結果					
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【加熱面】			【塗膜の変状】		
					
【非加熱面】			【塗膜の変状】		
					

被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔開放型ガス炉加熱試験〕	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.2		基準温度	400℃
供試体寸法		300×500×16mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		
	下塗り	鉛系さび止め	加熱面	非加熱面	
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料	130 μm	109 μm	
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料	180 μm	138 μm	
			211 μm	174 μm	
	塗替年月	1990年9月			
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部	125 μm	214 μm	※下層からの累積値
		下塗り	62 μm	73 μm	

試験後の塗膜損傷状況

【加熱面】



【塗膜の変状】

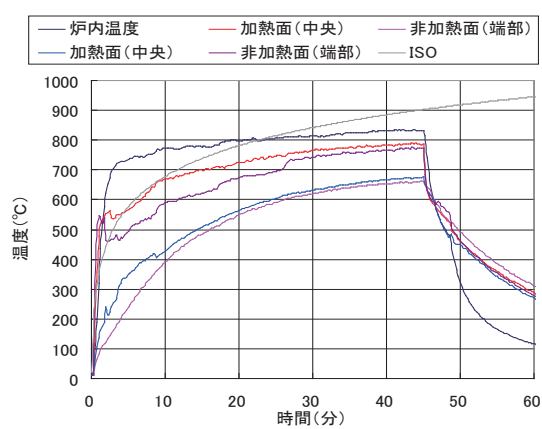
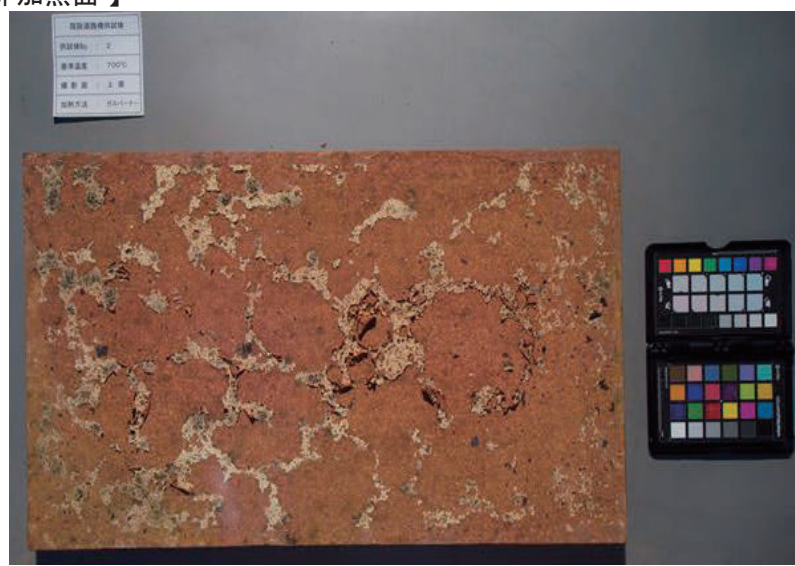
- ・ 上塗りが黒く変色して、小さなはがれが生じている。
- ・ 下塗りが赤みを帯びた色に変色している。

【非加熱面】

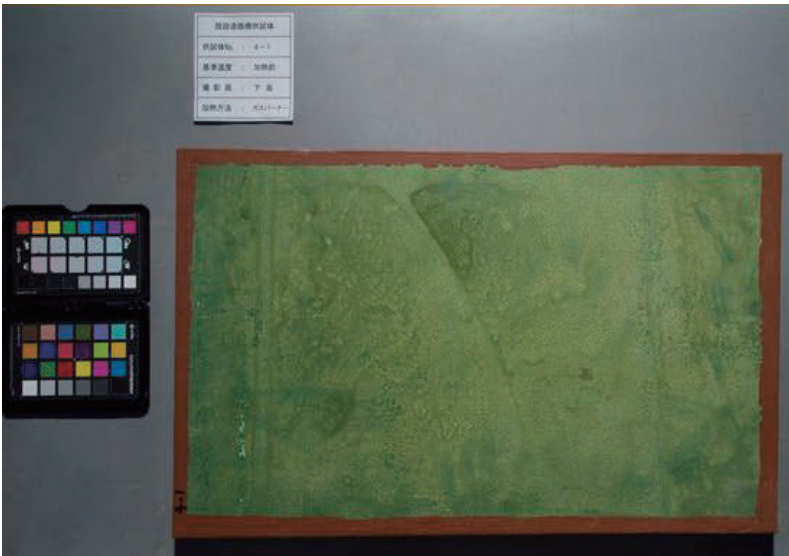
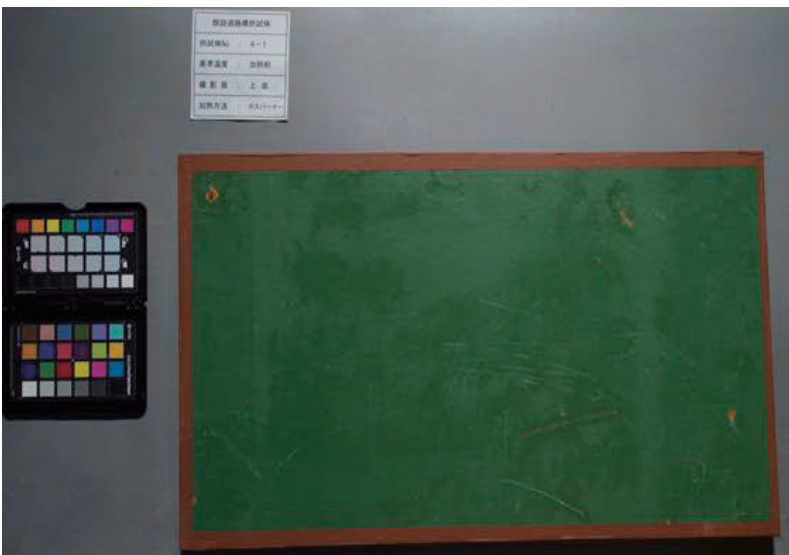


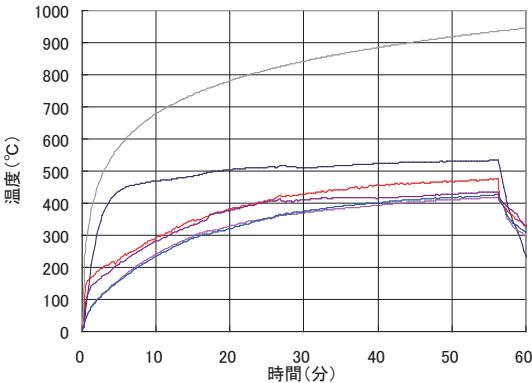
【塗膜の変状】

- ・ 炭化した上塗りが黒く変色して、ほとんどの部分ではがれている。
- ・ 下塗りが赤みを帯びた色に変色している。

被災温度推定用塗膜損傷見本集					〔開放型ガス炉加熱試験〕		
供試体種類		既設道路橋供試体 No.2			基準温度	700℃(参考)	
供試体寸法		300×500×16mm			【鋼板の測定温度】		
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚				
			加熱面	非加熱面			
	下塗り	鉛系さび止め	130 μm	109 μm			
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料	180 μm	138 μm			
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料	211 μm	174 μm			
塗替年月		1990年9月					
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部	112 μm	175 μm			
		下塗り	52 μm	86 μm			
※下層からの累積値							
試験後の塗膜損傷状況							
【加熱面】			【塗膜の変状】				
			- 上塗りが灰化して白色となり、下塗りに付着している箇所と、はがれている箇所が混在している。 - 下塗りが、400℃の場合と比較して淡い茶色に変色している。				
【非加熱面】			【塗膜の変状】				
			400℃の場合に付着していた上塗りが灰化して白色となって付着している。 - 下塗りが、400℃の場合と比較して淡い茶色に変色している。				

被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔開放型ガス炉加熱試験〕	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.4		基準温度	加熱前(400℃実施用)
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
	区分	塗料種類	試験前膜厚		
			加熱面	非加熱面	
塗装仕様	下塗り	鉛丹さび止め塗料	69 μ m	86 μ m	
	中・上塗り	(種類不明 構成3層)	191 μ m	265 μ m	
塗替年月		1982年			
試験後の膜厚測定結果					
※下層からの累積値					

試験後の塗膜損傷状況	
【加熱面】	【塗膜の変状】
	
【非加熱面】	【塗膜の変状】
	

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.4			基準温度	400℃
供試体寸法		300×500×9mm			【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 	
			加熱面	非加熱面		
	下塗り	鉛丹さび止め塗料	69 μm	86 μm		
	中・上塗り	(種類不明 構成3層)	191 μm	265 μm		
塗替年月		1982年				
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部	198 μm	129 μm		
		中塗り	85 μm			
		下塗り	32 μm	40 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【加熱面】					【塗膜の変状】	
					- 上塗りがはがれている。 - 赤茶色の中塗りが付着している箇所がある。 - 下塗りの鉛丹さび止め塗料が白みを帯びた淡い茶色に変色している。	
【非加熱面】					【塗膜の変状】	
					- 上塗りが表面に付着している。 - 下塗りの鉛丹さび止め塗料が白みを帯びた淡い茶色に変色している。	

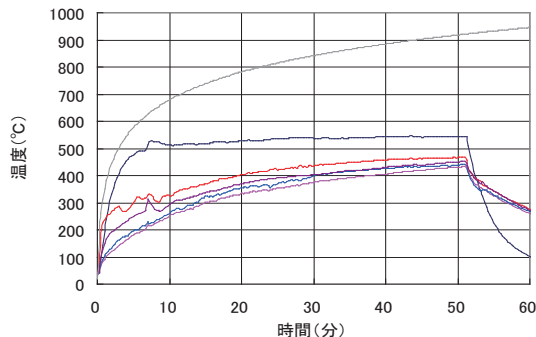
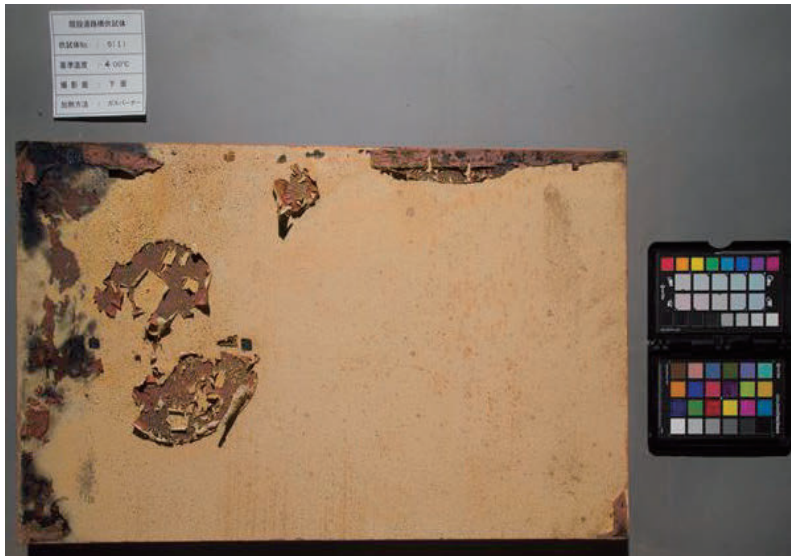
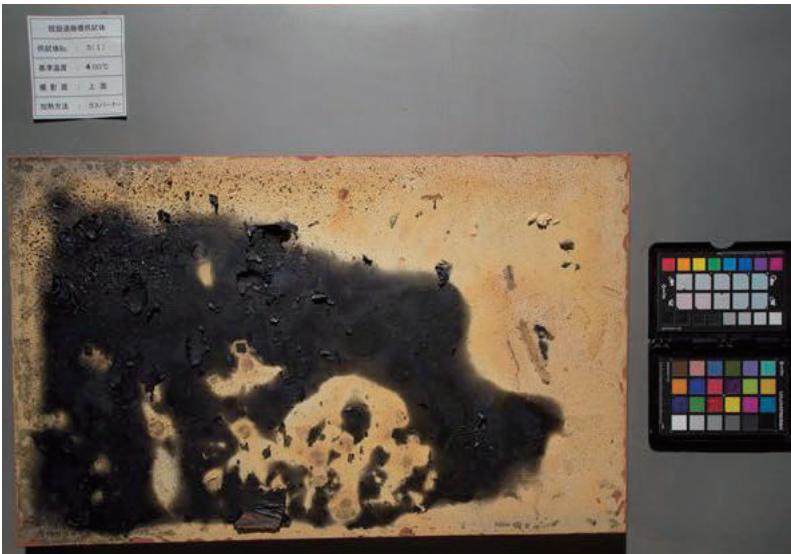
被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔開放型ガス炉加熱試験〕	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.4		基準温度	加熱前(700℃実施用)
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
	区分	塗料種類	試験前膜厚		
			加熱面	非加熱面	
塗装仕様	下塗り	鉛丹さび止め塗料	69 μ m	86 μ m	
	中・上塗り	(種類不明 構成3層)	191 μ m	265 μ m	
塗替年月		1982年			
試験後の膜厚測定結果					
※下層からの累積値					

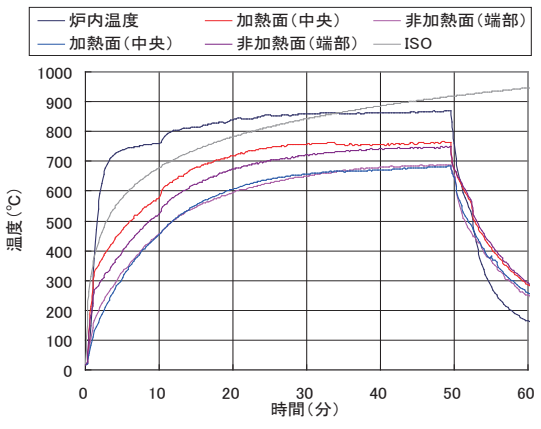
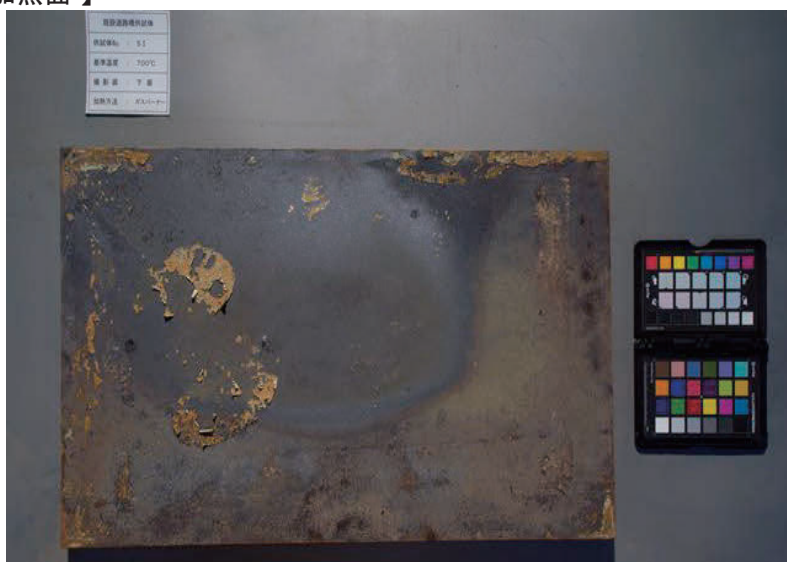
試験後の塗膜損傷状況	
【加熱面】	【塗膜の変状】
	
【非加熱面】	【塗膜の変状】
	

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.4			基準温度	700℃
供試体寸法		300×500×9mm			【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO	
			加熱面	非加熱面		
	下塗り	鉛丹さび止め塗料	69 μm	86 μm		
	中・上塗り	(種類不明 構成3層)	191 μm	265 μm		
塗替年月		1982年				
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部	117 μm	130 μm		
		下塗り	66 μm	61 μm		
※下層からの累積値						

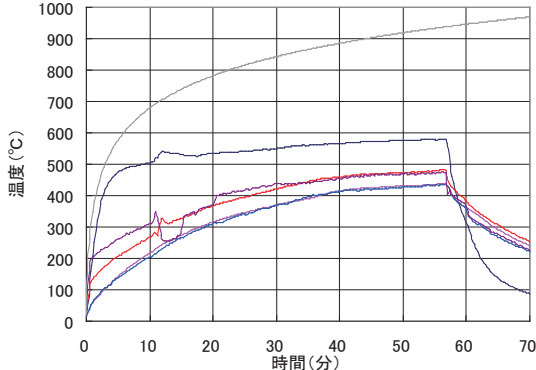
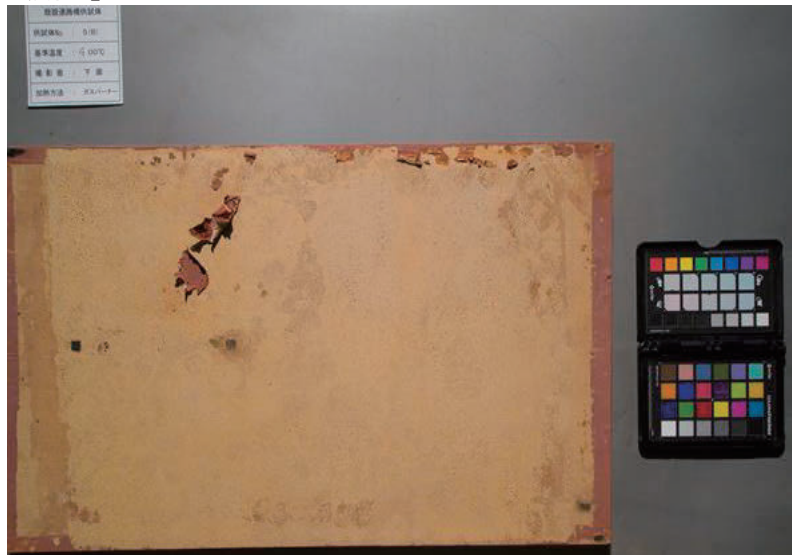
試験後の塗膜損傷状況	
【加熱面】	【塗膜の変状】
	- 上塗りの一部が表面に付着している。 - 下塗りの鉛丹さび止め塗料が白みを帯びた淡い茶色に変色している。
【非加熱面】	【塗膜の変状】
	- 下塗りの鉛丹さび止め塗料が変色して濃い茶色に変色している。 - 中塗りが灰化して付着している箇所は、下塗りの色が移ったようなオレンジがかった色に変色している。

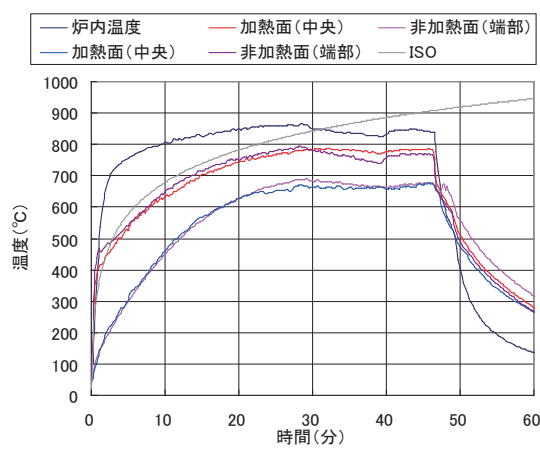
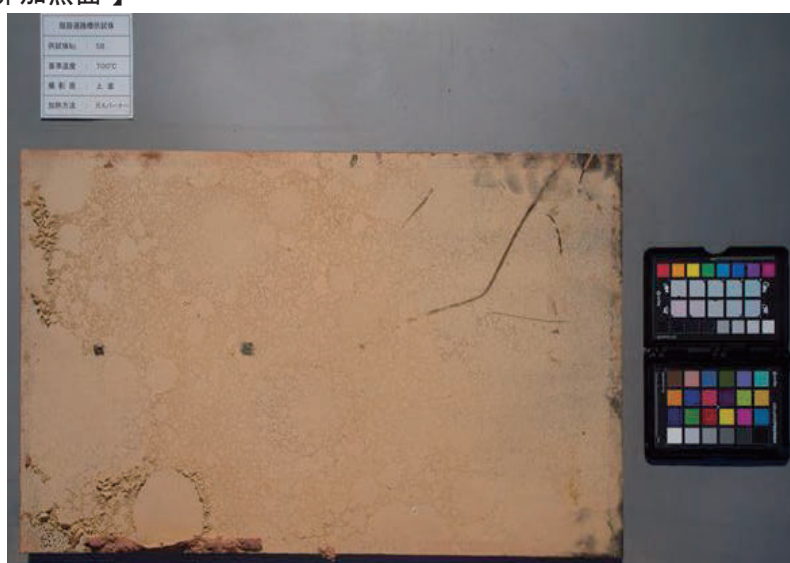
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5I			基準温度	加熱前
供試体寸法		300 × 500 × 9mm			【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
			加熱面	非加熱面		
	下塗り	鉛丹さび止め塗料	104 μ m	120 μ m		
	中・上塗り	(種類不明 構成5層)	297 μ m	367 μ m		
塗替年月		不明				
試験後の膜厚測定結果						
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【 加熱面 】				【塗膜の変状】		
						
【 非加熱面 】				【塗膜の変状】		
						

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5I			基準温度	400℃
供試体寸法		300×500×9mm			【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		炉内温度 加熱面(中央) 加熱面(端部) 非加熱面(端部) ISO 	
			加熱面	非加熱面		
	下塗り	鉛丹さび止め塗料	104 μm	120 μm		
	中・上塗り	(種類不明 構成5層)	297 μm	367 μm		
塗替年月		不明				
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部	140 μm	99 μm		
		下塗り	58 μm	62 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【加熱面】			【塗膜の変状】			
			- 下塗りの鉛丹さび止め塗料が白みを帯びた淡い茶色に変色している。 - 中塗りが付着している箇所がある。			
【非加熱面】			【塗膜の変状】			
			- 下塗りの鉛丹さび止め塗料が白みを帯びた淡い茶色に変色している。 - 試験中、はがれた上塗りが供試体上面に載っていた箇所では、下塗りが焦げ付いている			

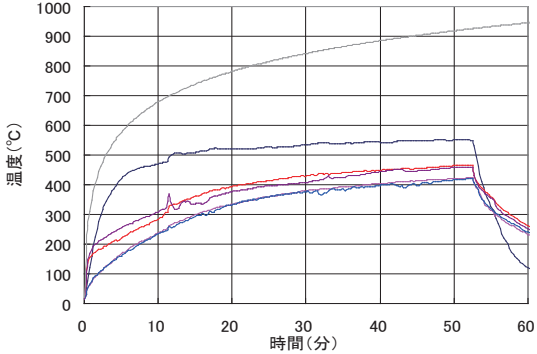
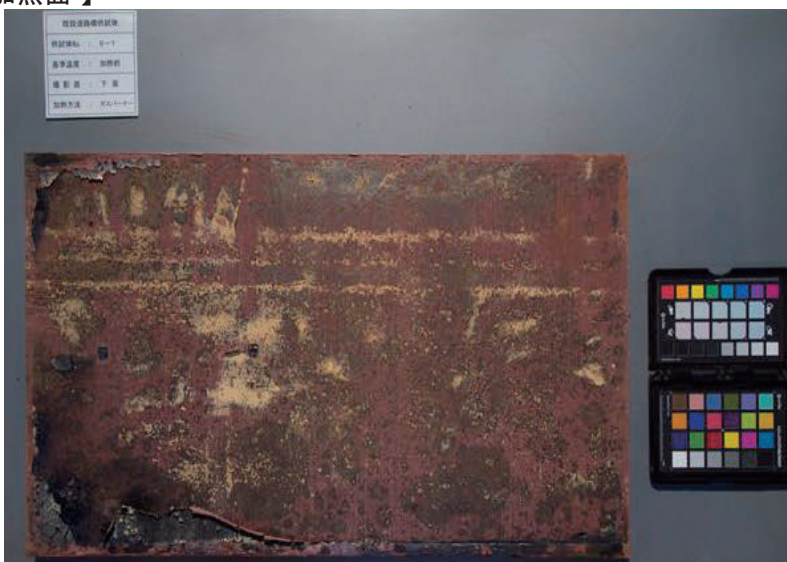
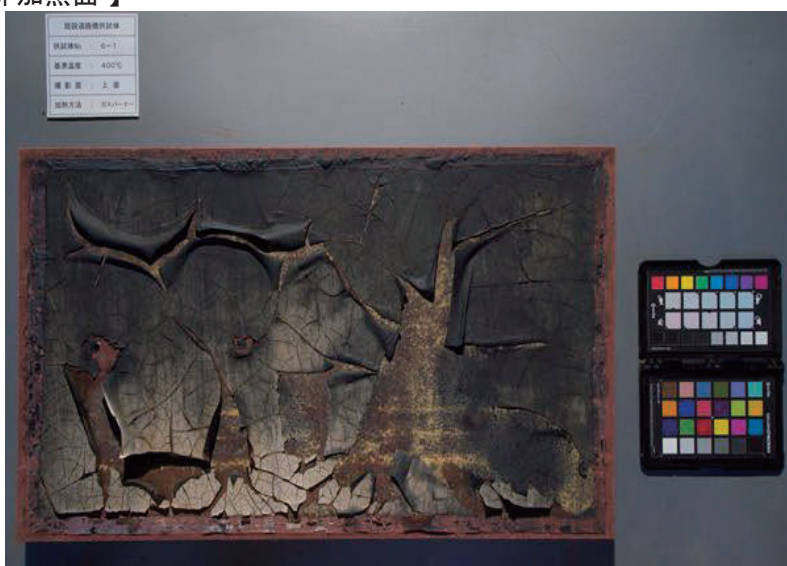
被災温度推定用塗膜損傷見本集					〔開放型ガス炉加熱試験〕	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5I			基準温度	700℃(参考)
供試体寸法		300×500×9mm			【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
	下塗り	鉛丹さび止め塗料	加熱面	非加熱面		
	中・上塗り	(種類不明 構成5層)	104 μm	120 μm		
			297 μm	367 μm		
塗替年月		不明				
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部	97 μm			
※下層からの累積値		下塗り	67 μm	78 μm		
試験後の塗膜損傷状況						
【加熱面】			【塗膜の変状】			
			・ 下塗りが鋼材表面に焼き付いて黒く変色している。(炭化による黒色化とは変状が異なる。)			
【非加熱面】			【塗膜の変状】			
			・ 加熱面と同様である。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[開放型ガス炉加熱試験]		
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5B			基準温度	加熱前	
供試体寸法		300 × 500 × 16mm			【鋼板の測定温度】		
	区分	塗料種類	試験前膜厚				
			加熱面	非加熱面 ※			
塗装仕様	下塗り	鉛丹さび止め塗料	111 μm	182 μm			
	中・上塗り	(種類不明 構成5層)	365 μm				
	※非加熱面は箱桁の内面塗装						
塗替年月		不明					
試験後の膜厚測定結果							
※下層からの累積値							
試験後の塗膜損傷状況							
【 加熱面 】					【 塗膜の変状 】		
							
【 非加熱面 】					【 塗膜の変状 】		
							

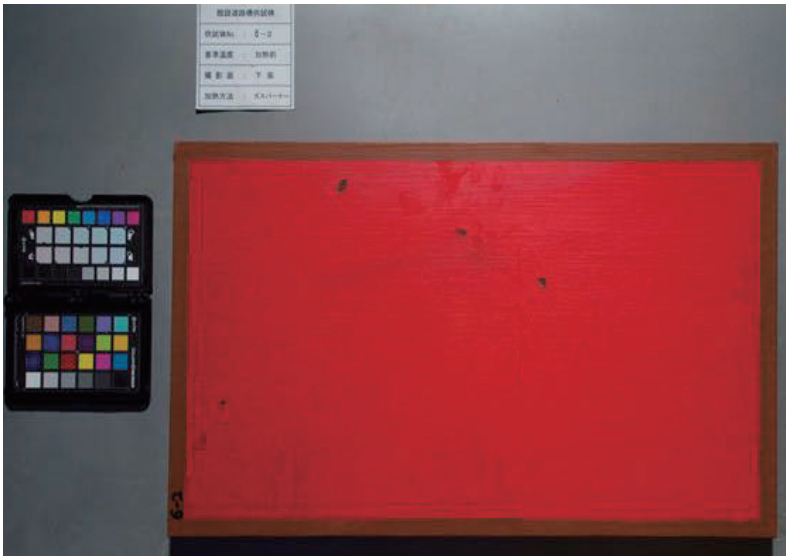
被災温度推定用塗膜損傷見本集					〔開放型ガス炉加熱試験〕	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5B			基準温度	400℃
供試体寸法		300×500×16mm			【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 	
			加熱面	非加熱面※		
	下塗り	鉛丹さび止め塗料	111 μm	182 μm		
	中・上塗り	(種類不明 構成5層)	365 μm			
	※非加熱面は箱桁の内面塗装					
	塗替年月	不明				
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部		113 μm	※下層からの累積値	
		下塗り	68 μm	36 μm		
試験後の塗膜損傷状況						
【加熱面】					【塗膜の変状】	
					下塗りの鉛丹さび止め塗料が白みを帯びた淡い茶色に変色している。	
【非加熱面】					【塗膜の変状】	
					- 上塗り表面に大小の「ふくれ」がみられる。 - 写真右側は、上塗りがはがれて下塗りが露出している。	

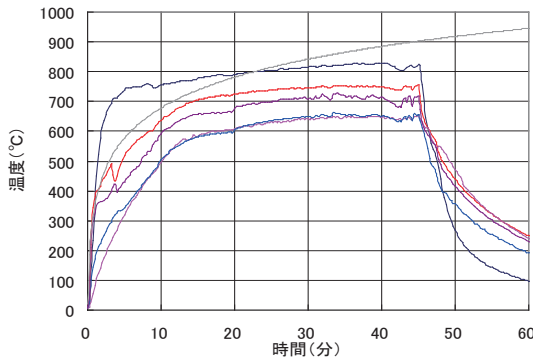
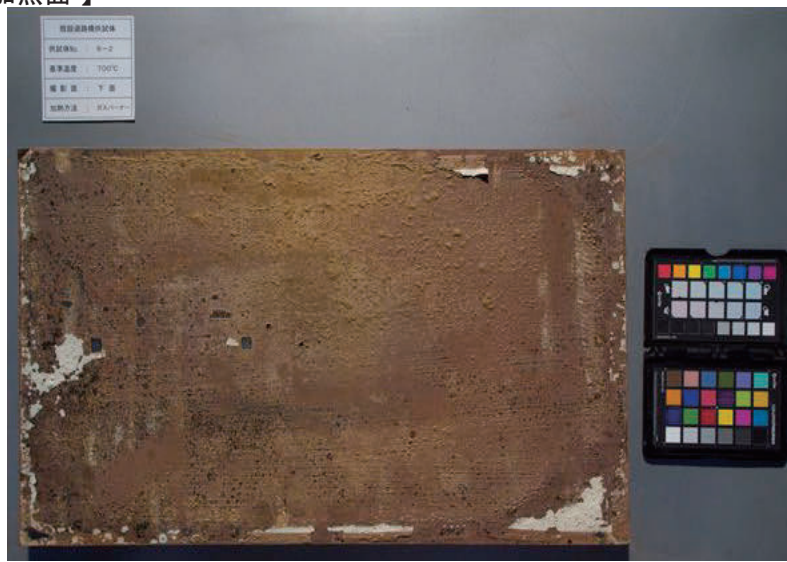
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5B			基準温度	700℃
供試体寸法		300×500×16mm			【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
			加熱面	非加熱面※		
	下塗り	鉛丹さび止め塗料	111 μm	182 μm		
	中・上塗り	(種類不明 構成5層)	365 μm			
	※非加熱面は箱桁の内面塗装					
塗替年月	不明					
試験後の膜厚測定結果		下塗り	104 μm	47 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【 加熱面 】					【 塗膜の変状 】	
					・ 下塗りが鋼材表面に焼き付いて黒く変色している。(炭化による黒色化とは変状が異なる。)	
【 非加熱面 】					【 塗膜の変状 】	
					・ 下塗りが白みを帯びた茶色に変色している。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集				[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.6		基準温度	加熱前(400℃実施用)
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		
			加熱面	非加熱面	
	下塗り	(種類不明)	107 μm	78 μm	
	中・上塗り	(種類不明 構成2層)	297 μm	222 μm	
塗替年月		不明			
試験後の膜厚測定結果					
※下層からの累積値					
試験後の塗膜損傷状況					
【 加熱面 】			【 塗膜の変状 】		
					
【 非加熱面 】			【 塗膜の変状 】		
					

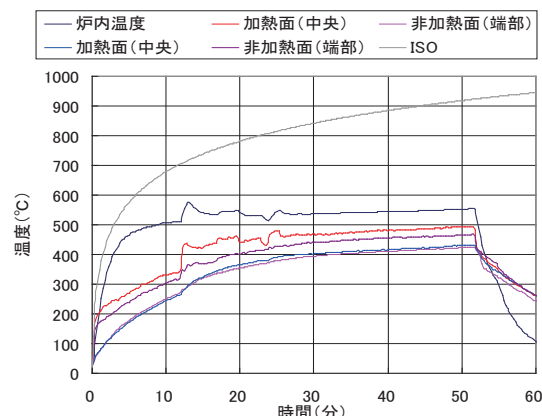
被災温度推定用塗膜損傷見本集					〔開放型ガス炉加熱試験〕	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.6			基準温度	400℃
供試体寸法		300×500×9mm			【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 	
	下塗り	(種類不明)	107 μm	78 μm		
	中・上塗り	(種類不明 構成2層)	297 μm	222 μm		
塗替年月		不明				
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部		262 μm		
		下塗り	28 μm	29 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【加熱面】					【塗膜の変状】	
					- 上塗りが全体的にはがれている。 - 下塗りが赤みを帯びた茶色に変色している。(明らかな変色ではない)	
【非加熱面】					【塗膜の変状】	
					- 上塗りが炭化した状態で付着している。 - 上塗り付着部の表面には、「われ」が生じている。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔開放型ガス炉加熱試験〕	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.6		基準温度	加熱前(700℃実施用)
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
	区分	塗料種類	試験前膜厚		
			加熱面	非加熱面	
塗装仕様	下塗り	(種類不明)	107 μ m	78 μ m	
	中・上塗り	(種類不明 構成2層)	297 μ m	222 μ m	
塗替年月		不明			
試験後の膜厚測定結果					
※下層からの累積値					

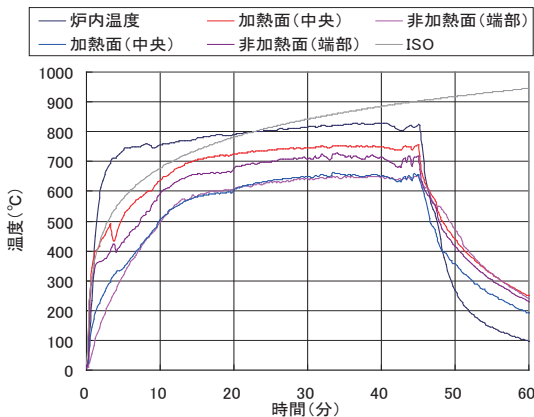
試験後の塗膜損傷状況	
【加熱面】	【塗膜の変状】
	
【非加熱面】	【塗膜の変状】
	

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.6			基準温度	700℃
供試体寸法		300 × 500 × 9mm			【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		— 炉内温度 — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — 加熱面(中央) — 非加熱面(端部) — ISO 	
			加熱面	非加熱面		
	下塗り	(種類不明)	107 μm	78 μm		
	中・上塗り	(種類不明 構成2層)	297 μm	222 μm		
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部		141 μm		
		下塗り	49 μm	51 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【 加熱面 】					【塗膜の変状】	
					・ 下塗りが、淡い茶色に変色している。	
【 非加熱面 】					【塗膜の変状】	
					・ 灰化して白色化した上塗りが付着している。 ・ 上塗りがはがれた箇所の下塗りは、淡い茶色に変色している。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.7			基準温度	加熱前(400℃実施用)
供試体寸法		300×500×9mm			【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
			加熱面	非加熱面		
	下塗り	鉛丹さび止め塗料	95 μm	102 μm		
	中・上塗り	(種類不明 構成6層)	411 μm	388 μm		
塗替年月		不明				
試験後の膜厚測定結果						
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【 加熱面 】				【塗膜の変状】		
						
【 非加熱面 】				【塗膜の変状】		
						

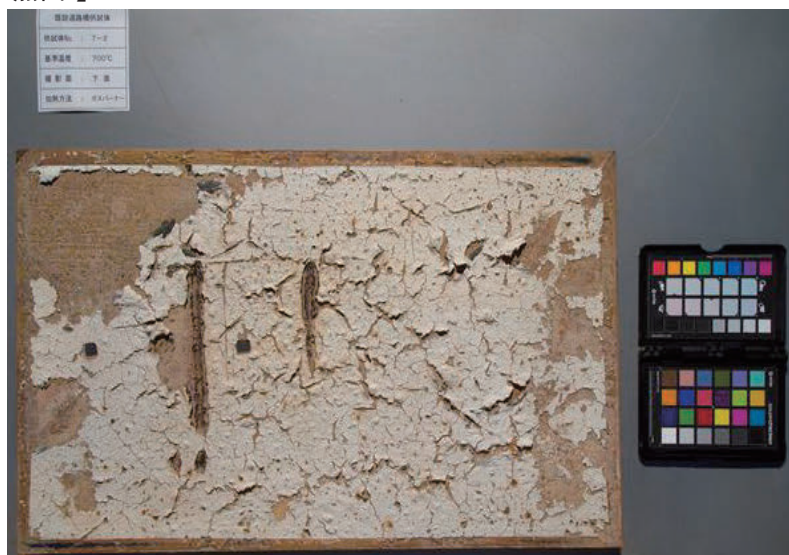
被災温度推定用塗膜損傷見本集					〔開放型ガス炉加熱試験〕	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.7			基準温度	400℃
供試体寸法		300×500×9mm			【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
			加熱面	非加熱面		
	下塗り	鉛丹さび止め塗料	95 μm	102 μm		
	中・上塗り	(種類不明 構成6層)	411 μm	388 μm		
塗替年月	不明					
試験後の膜厚測定結果		上塗り		258 μm		
		下塗り	102 μm	51 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【加熱面】					【塗膜の変状】	
					上塗りが全体的にはがれている。 下塗りが、赤みを帯びた茶色に変色している。	
【非加熱面】					【塗膜の変状】	
					- 炭化して黒く変色した上塗りが付着している。 - 上塗りが焦げ付いている箇所がみられる。 - 下塗りが、赤みを帯びた茶色に変色している。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[開放型ガス炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.7			基準温度	加熱前(700℃実施用)
供試体寸法		300×500×9mm			【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
			加熱面	非加熱面		
	下塗り	鉛丹さび止め塗料	95 μ m	102 μ m		
	中・上塗り	(種類不明 構成6層)	411 μ m	388 μ m		
	塗替年月	不明				
試験後の膜厚測定結果						
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【 加熱面 】				【塗膜の変状】		
						
【 非加熱面 】				【塗膜の変状】		
						

被災温度推定用塗膜損傷見本集				〔開放型ガス炉加熱試験〕	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.7		基準温度	700℃
供試体寸法		300×500×9mm		【鋼板の測定温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		
	下塗り	鉛丹さび止め塗料	加熱面	非加熱面	
	中・上塗り	(種類不明 構成6層)	95 μm	102 μm	
			411 μm	388 μm	
	塗替年月	不明			
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部	245 μm	268 μm	
		下塗り	118 μm	110 μm	
※下層からの累積値					

試験後の塗膜損傷状況

【加熱面】



【塗膜の変状】

- ・ 灰化して白色化した上塗りが付着している。
- ・ 上塗りがはがれた箇所の下塗りが、400℃の場合と比較して白みを帯びた淡い茶色に変色している。

【非加熱面】



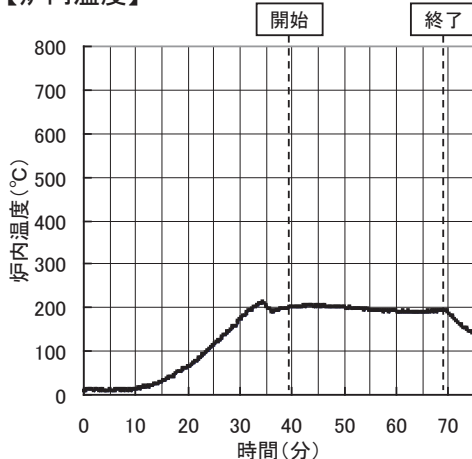
【塗膜の変状】

- ・ 灰化した上塗りが全体的にはがれている。
- ・ 下塗りが、400℃の場合と比較して白みを帯びた淡い茶色に変色している。

（２）電気炉加熱試験

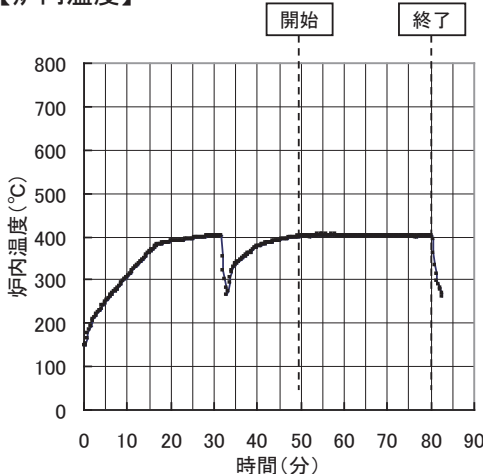
既設道路橋供試体に対して電気炉加熱試験を実施した結果を取りまとめた「鋼部材の被災温度推定用塗膜損傷見本集」を次頁以降に示す。なお、見本集の測定膜厚は、下層からの累積値である。

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.1			基準温度	加熱前
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚			
			上面	下面		
塗装仕様	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μ m	43 μ m		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μ m	63 μ m		
塗替年月		不明				
試験後の膜厚測定結果						
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】				【塗膜の変状】		
						
【下面】				【塗膜の変状】		
						

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.1			基準温度	200℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	165 μm	119 μm		
※下層からの累積値						

試験後の塗膜損傷状況	
【上面】	【塗膜の変状】
	上塗りがやや黒み帯びた色に変色している。 (加熱前と比較して変色が判別できる程度のわずかな変色である。)
【下面】	【塗膜の変状】
	上面と同様である。

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.1			基準温度	300℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	上面	下面		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	47 μm	43 μm		
			106 μm	63 μm		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	194 μm	160 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			・ 上塗りが炭化して黒く変色している。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			・ 上面と同様である。			

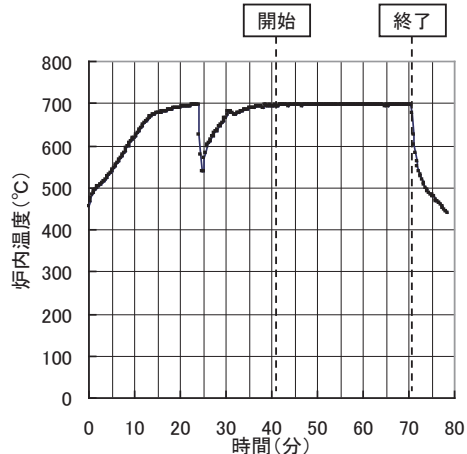
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.1			基準温度	400℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47μm	43μm	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106μm	63μm	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	193μm	157μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					・ 上塗りが灰化して濃い灰色に変色しており、小さな「われ」を伴って付着している。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					・ 上面と同様である。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.1			基準温度	500℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47μm	43μm	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106μm	63μm	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	190μm	126μm	試験後の塗膜損傷状況	
※下層からの累積値		下塗り		67μm		
【上面】  【塗膜の変状】 ・ 上塗りが灰化して白色化した状態で付着している。						
【下面】  【塗膜の変状】 ・ 上面と同様である。						

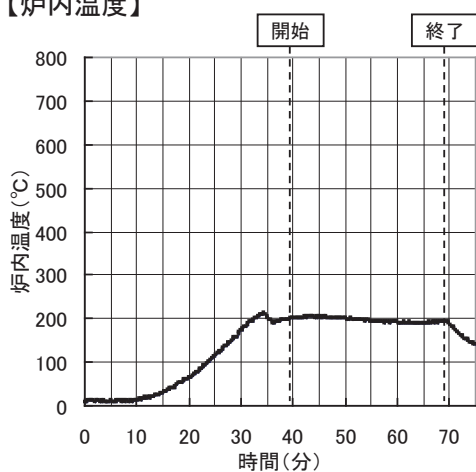
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.1			基準温度	600℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μ m	43 μ m	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μ m	63 μ m	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り		191 μ m		
		下塗り	97 μ m	19 μ m		
※下層からの累積値						

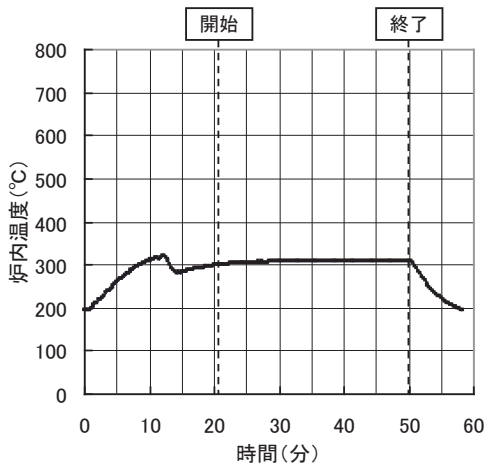
時間(分)		0	10	20	30	40	50	60	70
炉内温度(℃)		300	500	580	580	580	580	580	580

試験後の塗膜損傷状況	
【上面】	【塗膜の変状】
	- 上塗りが灰化してはがれている。 - 下塗りは薄い茶色に変色している。
【下面】	【塗膜の変状】
	上面と同様である。

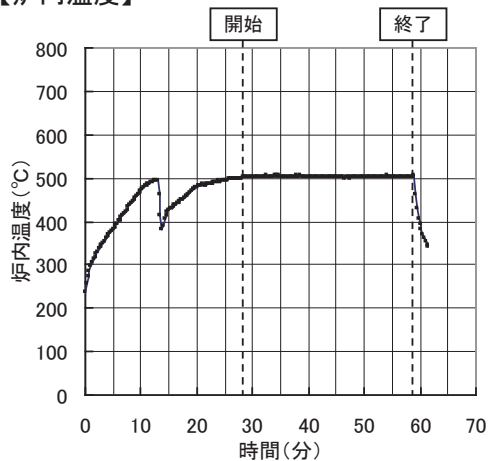
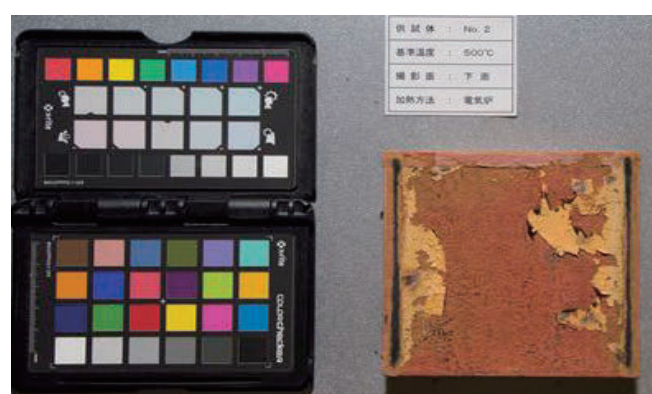
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.1			基準温度	700℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
			上面	下面		
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		下塗り	87 μm	70 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			・ 下塗りに細かい「われ」が生じて付着している箇所と、下塗りがはがれて素地が露出している箇所がある。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			・ 下塗りが淡い茶色に変色している。 ・ 端部では下塗りがはがれている。 ・ 下塗りの変色状況は600℃と同様である。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.2			基準温度	加熱前
供試体寸法		100×100×16mm			【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚			
			上面	下面		
塗装仕様	下塗り	鉛系さび止め	130 μ m	109 μ m		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料	180 μ m	138 μ m		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料	211 μ m	174 μ m		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果					試験後の塗膜損傷状況	
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【 上面 】			【塗膜の変状】			
						
【 下面 】			【塗膜の変状】			
						

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.2			基準温度	200℃
供試体寸法		100×100×16mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47μm	43μm	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106μm	63μm	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	126μm	193μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					・ 上塗りはほとんど変色していない。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					・ 上面と同様である。	

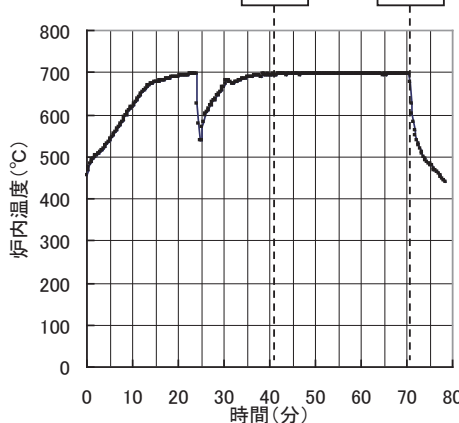
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.2			基準温度	300℃
供試体寸法		100×100×16mm			【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
			上面	下面		
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	127 μm	218 μm		
		下塗り		111 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】				【塗膜の変状】		
				・ 上塗りが炭化して黒く変色している。		
【下面】				【塗膜の変状】		
				・ 上塗りが炭化して黒く変色し一部ではがれている。		
				・ 下塗りはほとんど変色しておらず、変状はみられない。		

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.2			基準温度	400℃
供試体寸法		100×100×16mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47μm	43μm	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106μm	63μm	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	121μm	101μm		
		下塗り	50μm	53μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					- 上塗りが炭化して黒く変色している。 - 上塗りがはがれた箇所での下塗りは、ほとんど変色していない。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					- 上塗りが炭化して黒く変色している。 - 上塗りがはがれた箇所での下塗りが、やや薄い茶色に変色している。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]		
供試体種類		既設道路橋供試体 No.2			基準温度	500℃	
供試体寸法		100×100×16mm			【炉内温度】		
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚			
				上面	下面		
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47μm	43μm		
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106μm	63μm		
塗替年月		1990年9月					
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部	177μm	151μm			
		下塗り	71μm	73μm			
※下層からの累積値							
試験後の塗膜損傷状況							
【上面】			【塗膜の変状】				
			- 上塗りが灰化して白く変色している。 - 上塗りがはがれた箇所での下塗りが、淡い茶色に変色している。				
【下面】			【塗膜の変状】				
			上面と同様である。				

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]															
供試体種類		既設道路橋供試体 No.2			基準温度	600℃														
供試体寸法		100×100×16mm																		
区分		塗料種類	試験前膜厚																	
			上面	下面																
塗装仕様	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm																
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm																
塗替年月		1990年9月																		
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部	91 μm		【炉内温度】 <table border="1"><caption>炉内温度データ (推定)</caption><thead><tr><th>時間 (分)</th><th>炉内温度 (℃)</th></tr></thead><tbody><tr><td>0</td><td>300</td></tr><tr><td>10</td><td>600</td></tr><tr><td>18</td><td>450</td></tr><tr><td>30</td><td>600</td></tr><tr><td>65</td><td>600</td></tr><tr><td>70</td><td>400</td></tr></tbody></table>		時間 (分)	炉内温度 (℃)	0	300	10	600	18	450	30	600	65	600	70	400
		時間 (分)	炉内温度 (℃)																	
0	300																			
10	600																			
18	450																			
30	600																			
65	600																			
70	400																			
下塗り	66 μm	75 μm																		
※下層からの累積値																				

試験後の塗膜損傷状況	
【上面】	【塗膜の変状】 - 上塗りが灰化している。 - 下塗りが500℃の場合と比較して、さらに薄茶色に変色している。
【下面】	【塗膜の変状】 - 上塗りが灰化し、ほとんどがはく離している。 - 下塗りが500℃の場合と比較して、さらに薄茶色に変色している。

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]		
供試体種類		既設道路橋供試体 No.2			基準温度	700℃	
供試体寸法		100×100×16mm			【炉内温度】		
区分		塗料種類	試験前膜厚		開始 終了 		
			上面	下面			
塗装仕様	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μ m	43 μ m			
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μ m	63 μ m			
塗替年月		1990年9月					
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部	173 μ m				
		下塗り	98 μ m	132 μ m			
※下層からの累積値							
試験後の塗膜損傷状況							
【上面】			【塗膜の変状】				
			- 上塗りが灰化した状態で付着している。 - 下塗りが緑がかった色に変色している。				
【下面】			【塗膜の変状】				
			上面と同様である。				

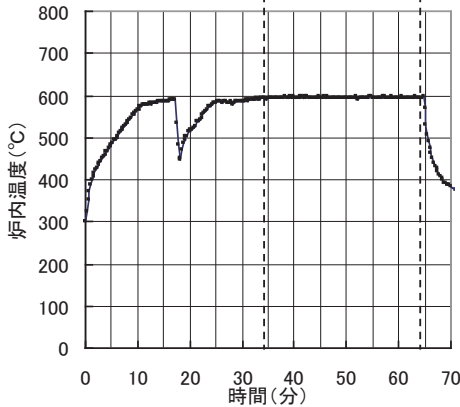
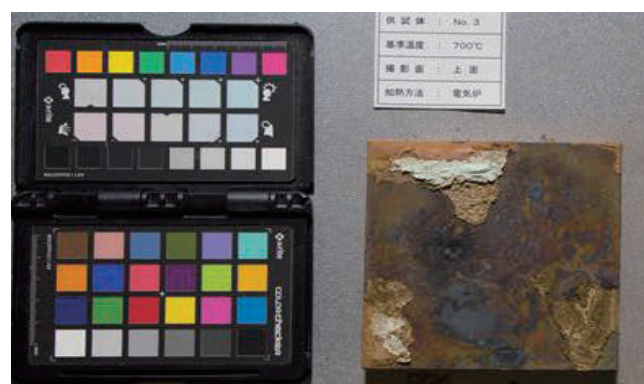
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.3			基準温度	加熱前
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚			
			上面	下面		
塗装仕様	下塗り	鉛系さび止め塗料	159 μ m	—		
	中塗り	長油性フタル酸樹脂塗料	312 μ m	—		
	上塗り	長油性フタル酸樹脂塗料	380 μ m	—		
塗替年月		1995年3月				
試験後の膜厚測定結果						
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
						
【下面】			【塗膜の変状】			
						

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.3			基準温度	200℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47μm	43μm	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106μm	63μm	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	430μm			
		下塗り		20μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					- 上塗りがやや黒み帯びた色に変色している。 - 上塗りに「ふくれ」が生じて、浮いている箇所がみられる。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					変状はみられない。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.3			基準温度	300℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μ m	43 μ m	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μ m	63 μ m	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	浮き			
		下塗り		24 μ m		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			・ 上塗りが炭化して黒く変色している。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			・ 変状はみられない。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.3			基準温度	400℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	浮き			
		下塗り		19 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					・ 上塗りが炭化して黒く変色し、小さいわれが生じた状態で付着している。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					・ やや茶色がかった色に変色している。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.3			基準温度	500℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		開始 終了 炉内温度(℃) 時間(分)	
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	上面	下面		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	47 μm	43 μm		
			106 μm	63 μm		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部	308 μm			
		下塗り	65 μm	23 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			・ 上塗りが灰化した状態で付着している。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			・ 茶色に変色している。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.3			基準温度	600℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		開始 終了 	
塗装仕様	下塗り	エポキシ樹脂塗料	上面	下面		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	47 μ m	43 μ m		
			106 μ m	63 μ m		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部	222 μ m			
		下塗り		21 μ m		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			・ 上塗りが灰化した状態で付着している。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			・ 淡い茶色に変色している。 ・ はがれて素地が露出している箇所がみられる。			

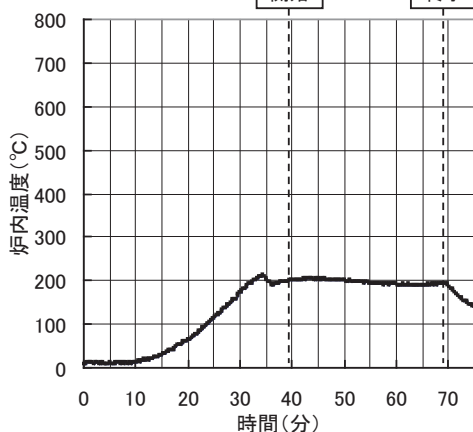
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]																			
供試体種類		既設道路橋供試体 No.3			基準温度	700℃																		
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】																			
区分		塗料種類	試験前膜厚		開始 終了 <table><tr><th>時間(分)</th><th>炉内温度(℃)</th></tr><tr><td>0</td><td>480</td></tr><tr><td>10</td><td>680</td></tr><tr><td>20</td><td>700</td></tr><tr><td>25</td><td>650</td></tr><tr><td>30</td><td>680</td></tr><tr><td>40</td><td>700</td></tr><tr><td>70</td><td>700</td></tr><tr><td>75</td><td>450</td></tr></table>		時間(分)	炉内温度(℃)	0	480	10	680	20	700	25	650	30	680	40	700	70	700	75	450
			時間(分)	炉内温度(℃)																				
0	480																							
10	680																							
20	700																							
25	650																							
30	680																							
40	700																							
70	700																							
75	450																							
上面	下面																							
塗装仕様	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm																				
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm																				
塗替年月		1990年9月																						
試験後の膜厚測定結果		下塗り	はく離	はく離																				
※下層からの累積値																								

試験後の塗膜損傷状況				
【上面】		【塗膜の変状】		
		・ 下塗りがはがれて素地が露出している。		
【下面】		【塗膜の変状】		
		・ はがれて素地が露出している。		

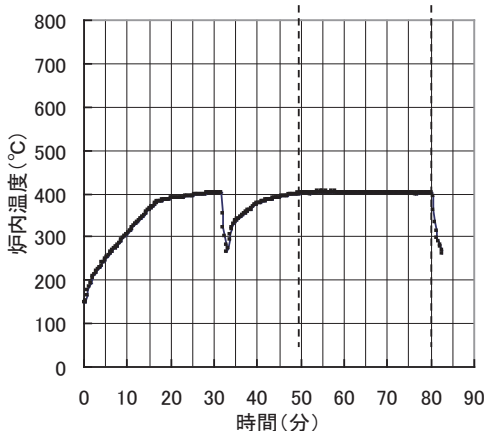
被災温度推定用塗膜損傷見本集				[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.4		基準温度	加熱前
供試体寸法		100×100×9mm		【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		
			上面	下面	
塗装仕様	下塗り	鉛丹さび止め塗料	69 μ m	86 μ m	
	中・上塗り	(種類不明 構成3層)	191 μ m	265 μ m	
塗替年月		1982年			
試験後の膜厚測定結果					
※下層からの累積値					

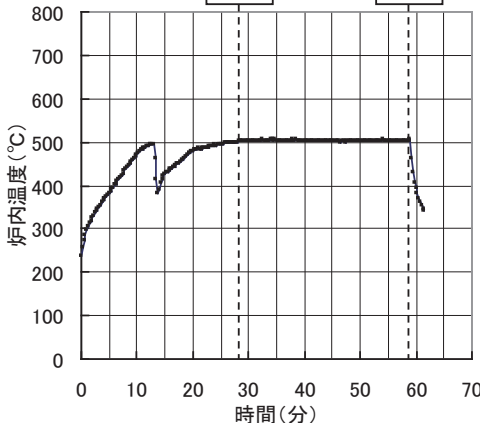
試験後の塗膜損傷状況	
【上面】	【塗膜の変状】
	

【下面】	【塗膜の変状】
	

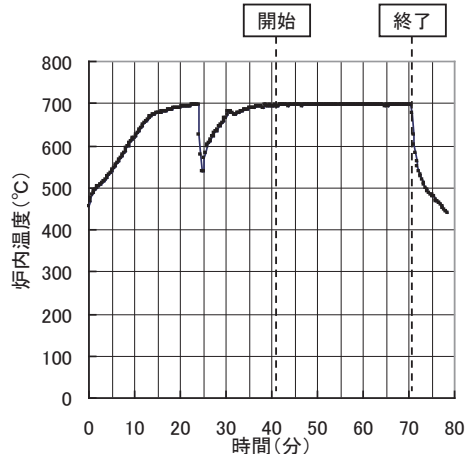
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.4			基準温度	200℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		開始 終了 	
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	上面	下面		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	47 μ m	43 μ m		
			106 μ m	63 μ m		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	204 μ m	238 μ m		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			- 上塗りの変色はほとんどみられない。 「ふくれ」や「はがれ」が生じている箇所がある。 - はがれた箇所から露出している下塗りに、変状はみられない。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			上塗りの変色はほとんどみられない。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.4			基準温度	300℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り		186 μm		
		下塗り	61 μm	50 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					- 上塗りが炭化して全体的にはがれている。 - 下塗りが濃い茶色に変色している。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					上面と同様である。	

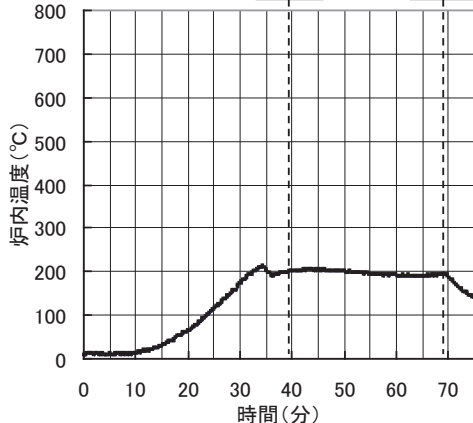
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.4			基準温度	400℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		開始 終了 	
			上面	下面		
塗装仕様	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	157 μm	137 μm		
		下塗り	36 μm	40 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					- 上塗りが炭化して全体的にはがれている。 - 下塗りが濃い茶色に変色している。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					- 上塗りが灰化した状態で付着している。(下塗りが色に移ったような状態で、茶色い色調である。) - 下塗りが黒味を帯びた色に変色している。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.4			基準温度	500℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		開始 終了 	
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	上面	下面		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
塗替年月	1990年9月					
試験後の膜厚測定結果		上塗り	167 μm	149 μm	試験後の塗膜損傷状況	
※下層からの累積値		下塗り	35 μm	31 μm		
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					・ 上塗りが炭化して全体的にはがれている。	
					・ 下塗りが濃い茶色に変色している。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					・ 上塗りが灰化した状態で付着している。	
					・ 下塗りが白みを帯びた淡い茶色に変色している。	

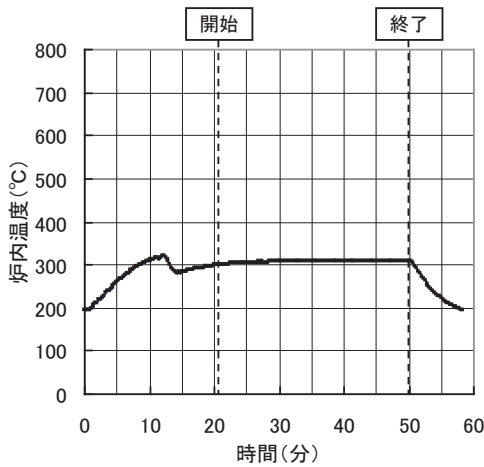
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.4			基準温度	600℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47μm	43μm	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106μm	63μm	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	187μm	173μm		
※下層からの累積値	下塗り	82μm	57μm			
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					- 上塗りが灰化した状態で付着している。 - 下塗りが白みを帯びた淡い茶色に変色している。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					上面と同様である。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.4			基準温度	700℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚			
塗装仕様	下塗り	エポキシ樹脂塗料	上面	下面		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	47 μm	43 μm		
			106 μm	63 μm		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	186 μm	148 μm	試験後の塗膜損傷状況	
※下層からの累積値		下塗り	39 μm	45 μm		
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					・ 下塗りが濃い茶色に変色している。	
					・ 端部では、下塗りがはがれて素地が露出している箇所がある。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					・ 上面と同様である。	

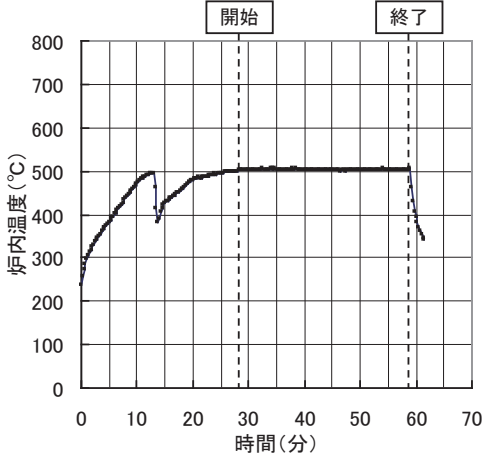
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5I			基準温度	加熱前
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚			
			上面	下面		
塗装仕様	下塗り	鉛丹さび止め塗料	104 μ m	120 μ m		
	中・上塗り	(種類不明 構成5層)	297 μ m	367 μ m		
塗替年月		不明				
試験後の膜厚測定結果						
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】				【塗膜の変状】		
						
【下面】				【塗膜の変状】		
						

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]																			
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5I			基準温度	200℃																		
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】																			
区分		塗料種類	試験前膜厚		開始 終了  <table border="1"><caption>炉内温度データ (推定)</caption><thead><tr><th>時間(分)</th><th>炉内温度(℃)</th></tr></thead><tbody><tr><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>10</td><td>20</td></tr><tr><td>20</td><td>100</td></tr><tr><td>30</td><td>200</td></tr><tr><td>40</td><td>200</td></tr><tr><td>50</td><td>200</td></tr><tr><td>60</td><td>200</td></tr><tr><td>70</td><td>150</td></tr></tbody></table>		時間(分)	炉内温度(℃)	0	0	10	20	20	100	30	200	40	200	50	200	60	200	70	150
			時間(分)	炉内温度(℃)																				
0	0																							
10	20																							
20	100																							
30	200																							
40	200																							
50	200																							
60	200																							
70	150																							
上面	下面																							
塗装仕様	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm																				
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm																				
塗替年月		1990年9月																						
試験後の膜厚測定結果		上塗り	352 μm	305 μm																				
		下塗り	113 μm																					
※下層からの累積値																								

試験後の塗膜損傷状況	
【上面】	【塗膜の変状】
	上塗りがやや黒く変色し、「われ」が生じている。
【下面】	【塗膜の変状】
	- 上塗りはやや黒く変色し、「われ」を生じている。 - 上面と同様である。

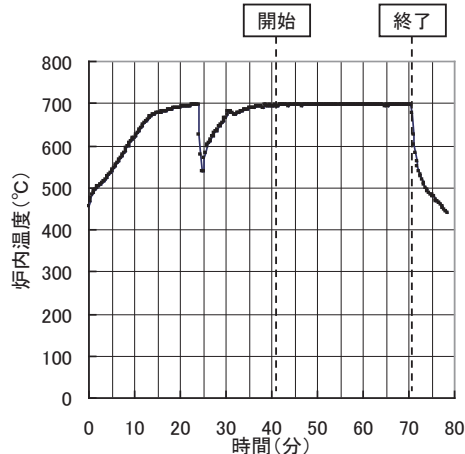
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5I			基準温度	300℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
			上面	下面		
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
	塗替年月	1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	238 μm			
		下塗り	111 μm	111 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			・ 上塗りが炭化してはがれている。			
			・ 下塗りが黒く変色している。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			・ 上塗りは炭化してはがれている。			
			・ 下塗りは黒く変色している。			
			・ 上面と同様である。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]			
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5I			基準温度	400℃		
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】			
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚				
				上面	下面			
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm			
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm			
塗替年月		1990年9月						
試験後の膜厚測定結果		中塗り	139 μm	156 μm				
		下塗り	65 μm	65 μm				
※下層からの累積値								
試験後の塗膜損傷状況								
【上面】			【塗膜の変状】					
			- 上塗りが炭化してはがれている。 - 下塗りが黒く変色している。					
【下面】			【塗膜の変状】					
			上塗りが炭化した状態で付着している。					

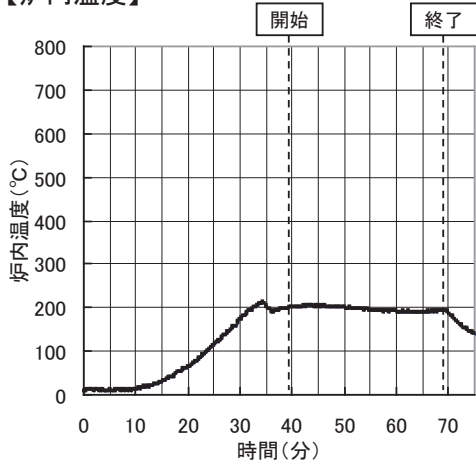
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5I			基準温度	500℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		開始 終了 	
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	上面	下面		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	47μm	43μm		
			106μm	63μm		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		中塗り	135μm	118μm		
		下塗り	73μm	64μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			・ 上塗りが灰化して全体的に付着している。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			・ 上塗りが灰化してほとんどはがれている。 ・ 下塗りが白みを帯びた淡い茶色に変色している。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]															
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5I			基準温度	600℃														
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】															
区分		塗料種類	試験前膜厚		開始 終了 <table><tr><th>時間(分)</th><th>炉内温度(℃)</th></tr><tr><td>0</td><td>300</td></tr><tr><td>10</td><td>600</td></tr><tr><td>18</td><td>450</td></tr><tr><td>30</td><td>600</td></tr><tr><td>65</td><td>600</td></tr><tr><td>70</td><td>400</td></tr></table>		時間(分)	炉内温度(℃)	0	300	10	600	18	450	30	600	65	600	70	400
			時間(分)	炉内温度(℃)																
0	300																			
10	600																			
18	450																			
30	600																			
65	600																			
70	400																			
上面	下面																			
塗装仕様	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm																
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm																
塗替年月		1990年9月																		
試験後の膜厚測定結果		下塗り	62 μm	80 μm																
※下層からの累積値																				

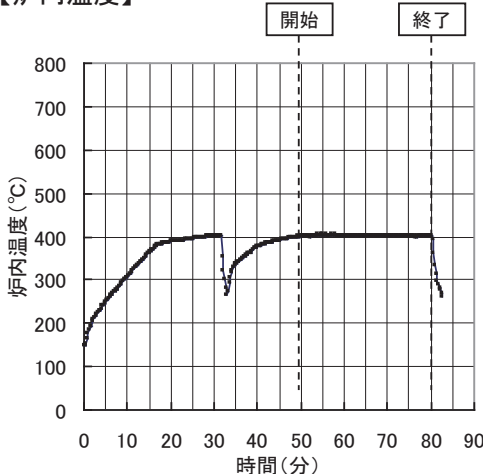
試験後の塗膜損傷状況									
【上面】	【塗膜の変状】 - 上塗りのほとんどがはがれている。 - 下塗りが白みを帯びた茶色に変色している。								
<table><tr><td>供試体</td><td>No. 5 (I)</td></tr><tr><td>基準温度</td><td>600℃</td></tr><tr><td>撮影面</td><td>上面</td></tr><tr><td>加熱方法</td><td>電気炉</td></tr></table>	供試体	No. 5 (I)	基準温度	600℃	撮影面	上面	加熱方法	電気炉	
供試体	No. 5 (I)								
基準温度	600℃								
撮影面	上面								
加熱方法	電気炉								
【下面】	【塗膜の変状】 下塗りが500℃の場合より濃い茶色に変色している。								
<table><tr><td>供試体</td><td>No. 5 (I)</td></tr><tr><td>基準温度</td><td>600℃</td></tr><tr><td>撮影面</td><td>下面</td></tr><tr><td>加熱方法</td><td>電気炉</td></tr></table>	供試体	No. 5 (I)	基準温度	600℃	撮影面	下面	加熱方法	電気炉	
供試体	No. 5 (I)								
基準温度	600℃								
撮影面	下面								
加熱方法	電気炉								

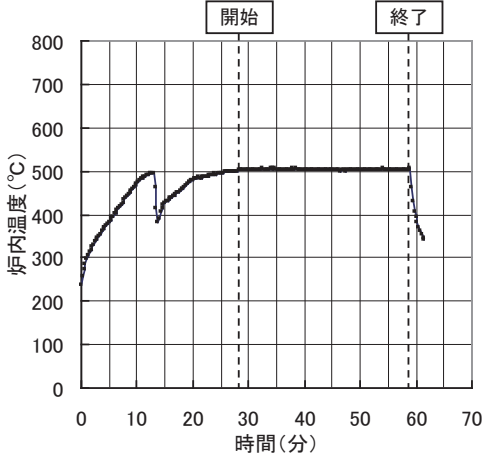
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5I			基準温度	700℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
			上面	下面		
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
	塗替年月	1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		下塗り	91 μm	80 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			・ 下塗りが鋼材表面に焼き付いて黒く変色している。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			・ 上面と同様である。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5B			基準温度	加熱前
供試体寸法		100×100×16mm			【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚			
			上面	下面※		
塗装仕様	下塗り	鉛丹さび止め塗料	111 μ m	182 μ m		
	中・上塗り	(種類不明 構成5層)	365 μ m			
	※ 下面は箱桁の内面塗装					
塗替年月		不明				
試験後の膜厚測定結果						
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】				【塗膜の変状】		
						
【下面】				【塗膜の変状】		
						

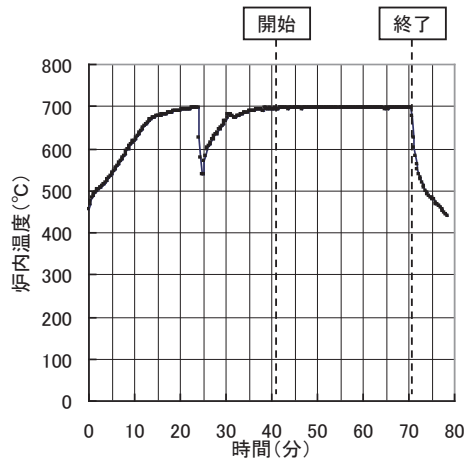
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5B			基準温度	200℃
供試体寸法		100×100×16mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47μm	43μm	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106μm	63μm	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	302μm	197μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			・ 上塗りがやや黒く変色している			
【下面】			【塗膜の変状】			
			・ 変状はみられない。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5B			基準温度	300℃
供試体寸法		100×100×16mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47μm	43μm	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106μm	63μm	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り		149μm		
		下塗り	108μm			
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			・ 上塗りが炭化してはがれている。 ・ 下塗りが黒く変色している。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			・ 上塗りの炭化が進行して、黒味が淡くなっている。			

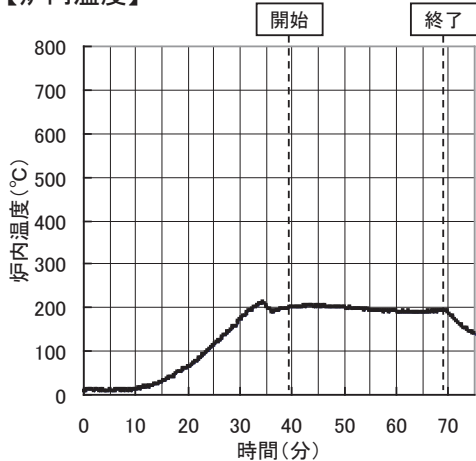
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5B			基準温度	400℃
供試体寸法		100×100×16mm			【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
			上面	下面		
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
	塗替年月	1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		中塗り	198 μm		試験後の塗膜損傷状況	
※下層からの累積値		下塗り	86 μm	72 μm		
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					・ 上塗りが炭化した状態で付着している。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					・ 上塗りが炭化してはがれている。 ・ 下塗りに変状はみられない。	

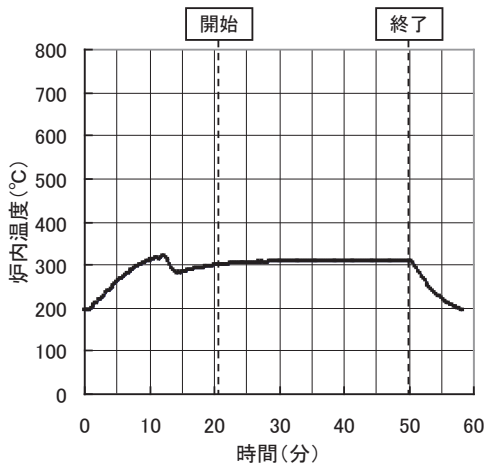
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5B			基準温度	500℃
供試体寸法		100×100×16mm			【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	上面	下面		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		中塗り	187 μm			
		下塗り	70 μm	35 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			・ 上塗りが灰化してほとんどはがれている。			
			・ 下塗りが白みを帯びた淡い茶色に変色している。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			・ 下塗りが白みを帯びた茶色に変色している。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5B			基準温度	600℃
供試体寸法		100×100×16mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47μm	43μm	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106μm	63μm	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り付着部	218μm			
		中塗り	150μm			
		下塗り	48μm	47μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					・ 下塗りが500℃の場合と比較して濃い茶色に変色している。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					・ 下塗りが500℃の場合と比較して、より白みを帯びた茶色に変色している。 ・ 表面に「ふくれ」がみられる。	

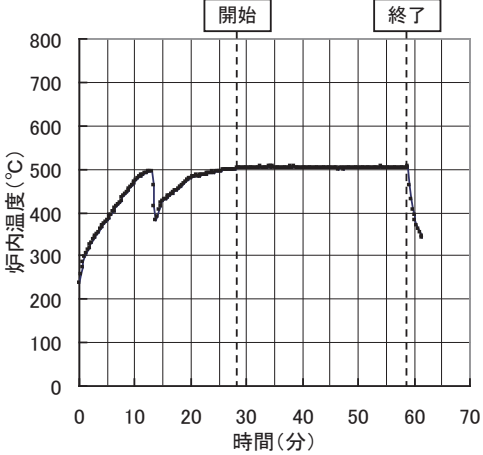
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.5B			基準温度	700℃
供試体寸法		100×100×16mm			【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		開始 終了 	
			上面	下面		
塗装仕様	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		下塗り	101 μm	50 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					・ 下塗りが鋼材表面に焼き付いて黒く変色している。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					・ 下塗りが白みを帯びた茶色に変色している。 ・ 600℃の場合から大きな変化はみられない。	

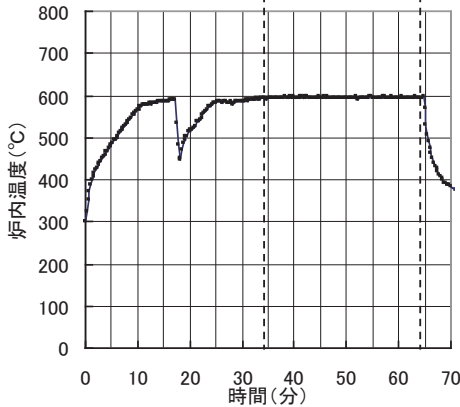
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.6			基準温度	加熱前
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚			
			上面	下面		
塗装仕様	下塗り	(種類不明)	107 μ m	78 μ m		
	中・上塗り	(種類不明 構成2層)	297 μ m	222 μ m		
塗替年月		不明				
試験後の膜厚測定結果						
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】				【塗膜の変状】		
						
【下面】				【塗膜の変状】		
						

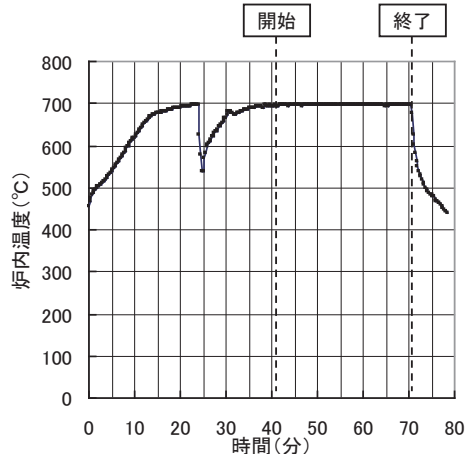
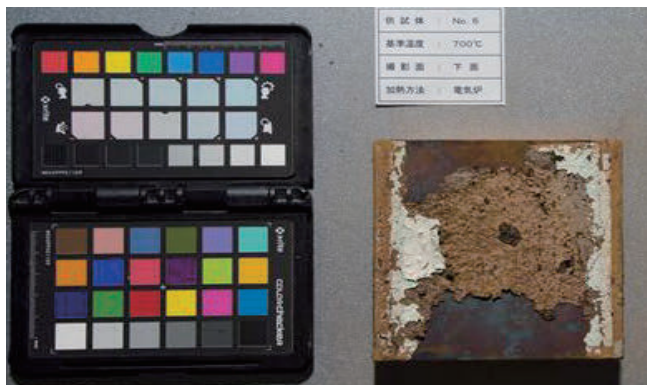
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.6			基準温度	200℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚		開始 終了 	
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	上面	下面		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	47 μm	43 μm		
			106 μm	63 μm		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	272 μm	234 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			- 上塗りの変色はほとんどみられない。 - 数箇所「ふくれ」が生じている。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			上面と同様である。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.6			基準温度	300℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
			上面	下面		
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		下塗り	36 μm	37 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			- 上塗りが炭化してはがれている。 - 下塗りが黒く変色している。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			上面と同様である。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.6			基準温度	400℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	370 μm	343 μm		
※下層からの累積値		下塗り	24 μm	26 μm		
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					・ 上塗りが炭化して黒く変色した状態で付着している。 ・ 下塗りにほとんど変化はみられない。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					・ 上面と同様である。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.6			基準温度	500℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	上面	下面		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
	塗替年月	1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		下塗り	35 μm	35 μm	試験後の塗膜損傷状況	
※下層からの累積値						
【上面】					【塗膜の変状】	
					- 上塗りが灰化した状態で、端部に付着している。 - 下塗りが淡い茶色に変色している。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					上面と同様である。	

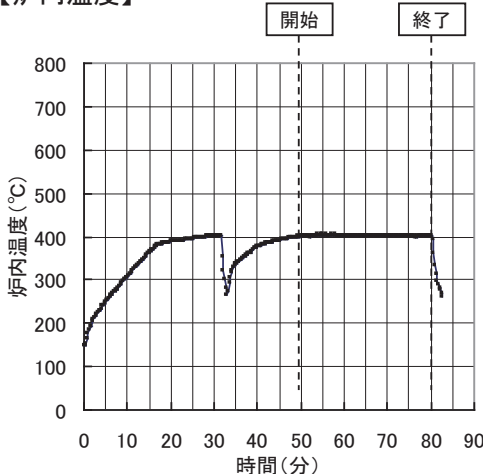
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.6			基準温度	600℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		開始 終了 	
			上面	下面		
塗装仕様	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	173 μm	155 μm		
		下塗り	32 μm	51 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			・ 灰化した状態の上塗りが全体的に付着している。			
			・ 下塗りが淡い茶色に変色している。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			・ 灰化した状態の上塗りが端部に付着している。			
			・ 下塗りが淡い茶色に変色している。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.6			基準温度	700℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚			
			上面	下面		
塗装仕様	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		下塗り	53 μm	87 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					- 灰化した状態の上塗りが端部に付着している。 - 下塗りが700℃の場合と比較して、より淡い茶色に変色している。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					灰化した状態の上塗りが付着している箇所、下塗りが淡い茶色に変色している箇所、下塗りがはがれて素地が露出している箇所が混在している。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.7			基準温度	加熱前
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚			
			上面	下面		
塗装仕様	下塗り	鉛丹さび止め塗料	95 μ m	102 μ m		
	中・上塗り	(種類不明 構成6層)	411 μ m	388 μ m		
塗替年月		不明				
試験後の膜厚測定結果						
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】				【塗膜の変状】		
						
【下面】				【塗膜の変状】		
						

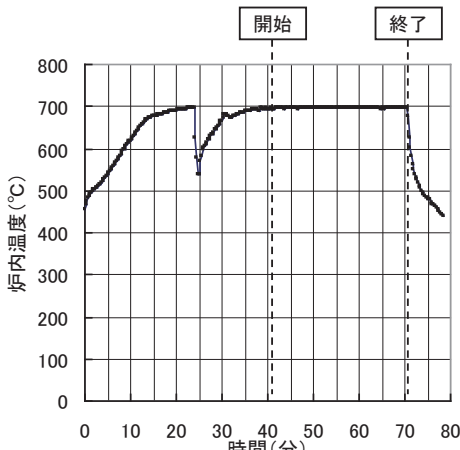
被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.7			基準温度	200℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μ m	43 μ m	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μ m	63 μ m	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	439 μ m	浮き		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			・ 上塗りがやや黒みを帯びた色に変色している。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			・ 上塗りがやや黒みを帯びた色に変色している。 ・ 上塗りの表面に「われ」が生じている。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.7			基準温度	300℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
			上面	下面		
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
	塗替年月	1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		下塗り	119 μm	80 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			・ 上塗りが炭化して全体的にはがれている。 ・ 下塗りに上塗りの炭化成分が付着しており、全体的に黒く変色している。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			・ 上面と同様である。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.7			基準温度	400℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様		区分	塗料種類	試験前膜厚		
				上面	下面	
		下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm	
		中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm	
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	368 μm	212 μm		
		下塗り	45 μm	83 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					- 上塗りは炭化した状態で、小さな「われ」が生じている。 - 下塗りが茶色に変色している。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					上面と同様である。	

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.7			基準温度	500℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
塗装仕様	区分	塗料種類	試験前膜厚			
			上面	下面		
	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
	塗替年月	1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	249 μm	174 μm		
		下塗り	73 μm	74 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】			【塗膜の変状】			
			・ 灰化して白色化した上塗りが全体的に付着している。			
【下面】			【塗膜の変状】			
			・ 灰化して薄茶色に変色した上塗りが付着している。 ・ 下塗りが赤みがかかった淡い色に変色している。			

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]		
供試体種類		既設道路橋供試体 No.7			基準温度	600℃	
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】		
区分		塗料種類	試験前膜厚				
塗装仕様	下塗り	エポキシ樹脂塗料	上面	下面			
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	47 μm	43 μm			
			106 μm	63 μm			
塗替年月		1990年9月					
試験後の膜厚測定結果		上塗り	342 μm				
		下塗り	134 μm	84 μm			
※下層からの累積値							
試験後の塗膜損傷状況							
【上面】			【塗膜の変状】				
			・ 灰化した上塗りがほとんどはがれている。 ・ 下塗りが赤みがかかった淡い茶色に変色している。				
【下面】			【塗膜の変状】				
			・ 上面と同様である。				

被災温度推定用塗膜損傷見本集					[電気炉加熱試験]	
供試体種類		既設道路橋供試体 No.7			基準温度	700℃
供試体寸法		100×100×9mm			【炉内温度】	
区分		塗料種類	試験前膜厚		開始 終了 	
			上面	下面		
塗装仕様	下塗り	エポキシ樹脂塗料	47 μm	43 μm		
	中・上塗り	塩化ゴム系塗料	106 μm	63 μm		
塗替年月		1990年9月				
試験後の膜厚測定結果		上塗り	275 μm			
		下塗り	111 μm	131 μm		
※下層からの累積値						
試験後の塗膜損傷状況						
【上面】					【塗膜の変状】	
					・ 灰化した上塗りが付着している。 ・ 下塗りが白みを帯びた茶色に変色している。	
【下面】					【塗膜の変状】	
					・ 下塗りが白みを帯びた茶色に変色している。	